

旭川採集アイヌ語動詞補遺集

A Supplementary Collection of Ainu Language Verbs Gathered in Asahikawa

魚 井 一 由

Kadzuyoshi Uoi

旭川市博物館研究嘱託

Asahikawa City Museum a part time work resercher

A

ahata <aha (土豆) ta (掘る)。①土豆を掘る。第Ⅱ類動詞。ahata-ash kor-an. 土豆を掘っています。第Ⅰ類用法:aha-an-ta. 我土豆を掘る。口語:aha-ku-ta. anokai aha-ta. 同上。②名詞。土豆掘り。ahata anakne menoko monraike-ne. 土豆掘りは女の仕事です。

ahunte <ahun (入いる) te (単数使役化語尾)
①入れさす。chacha-kamui chise soita ash-kur i ahunte. 翁神は家の外に立っている者を私に入れさせた。

ahupte <ahup (ahup「入いる」の主格複数形) te (単数使役化語尾)。第Ⅰ類動詞。①人をしてたくさん入れさす。ayubi nina mosem oshketa i-ahupte. 兄は私に薪を納屋にたくさん入れさせる。口語: ayubi nina mosem oshketa poronno en ahupte. 同上。

ahupyar <ahup (ahup「入いる」の主格複数形) yar (複数使役化語尾) たくさんの物(人)を人々をして入れさす。ayubi usa chihoki usshiwutari chip oshiketa ahupyar-an. 兄は色々な たくさんの交易品をたくさん召し使いたちに船の中に入れさせたのでした。

ak. 射る。第Ⅰ類動詞。ai an-ak. 矢を我射る。

akkari <ar (強勢辞) kari (通り過ぎる) 通り越す。第Ⅰ類動詞。nea-kotan an akkari-hine shinnai kotan ta oman an. その村を越えて別の村へ私は行った。

amke <am (ゆったりとした) ke (他動詞化語尾) 広くする。片ずける。第Ⅰ類動詞。chip-oshketa an

susu-ham an-amke. 船の中の笹の葉を片ずけた。

amkir. 語源未詳。人を見知る。第Ⅰ類動詞。ta-an-kur e amikir-ruwe? あの方を御存じですか。

amkire <amkir (人を見知る) e (使役化語尾) 人を人に見知らせる。紹介する。第Ⅰ類動詞。an turesh an-e-amkire kushne. 我が妹をあなたに紹介します。

ampayar <ampa (ani「持つ、携える」の目的物複数形) yar (複数使役語尾) 人々にたくさんの物を持たせる。anona ekattara imoka ampayar an na. 父は子供たちにたくさんの土産を持たせた。

anama <an (中相) ama (置く)。置かれる。manaita-ka-ta chep shinep anama-an. まな板の上に魚が一匹置かれていた。

aneokore <an (所相) e (食べる) okere (完了。すべて～してしまう) すべて食べられる。ayubi nitsunekamui orowa aneokere. 兄は魔神に跡形もなく食べられてしまった。

anetaye <an (中相) etaye (引き抜く) 引き抜かれる。chi-kor-pompe chitemni-oro anetaye pokonno owarisam. 私の赤ちゃんが腕から引き抜かれるようにいなくなってしまった。

anikootereke <an (所相) i (私を) ko (方に) o (挿入音) tereke (落とす) 私は落とされる。teine poknashiri anikootereke-an. 地獄に私は落とされたのでした。

aniomare <an (中相) i (私を) oma (入る) re (他動詞化語尾) 私は入れられる。kamui-shinta-oro aniomare kotom-an. 飛行船の中に私は入れられたようでした。

anire < ani (携える) re (単数使役語尾) 人に携えさす。anona i pon ku anire an. 父は私に小さな弓を携えさせた。

anitak < an (所相) i (私を) tak (招く) 私は招かれる。私は招待を受けている。nea kamui orowa anitak-an. その神から私は招待を受けている。

ankik < an (所相) kik (叩く). 叩かれる。chikutari ainu orowa hushko ipakikni-ani an-pake an kik-yakne chi-yaikatchibi e-aikap. 我々(魚)は人間に古い魚叩き棒で叩かれたら甦ることはできないのです。

annu < an (中相) nu (聞く). 聞こえる。kakkoku hawe annu. カッコウの泣き声が聞こえる。

annukar < an (中相) nukar (見る). 見える。atui-kushke-ta ponpon chacha a-wa-anbe annukar. 海の向こうに小さな小さな お爺さんが座っているのが見える。

anraike < an (所相) raike (殺す). 殺される。wen-kamiash kotan-kar-kamui-orowa anraike humi-ash. 魔神が国造りの神に殺されたようだ。

antak < an (中相) tak (招く) 招かれる。an-i-tak-wa teta ek-an. 私は招かれてここに来了。

ante < an (ある) te (使役化語尾) ①あらしむ。第Ⅰ類動詞。anantehok < an (中相) ante (あらしむ) hok (夫). 私の夫。②寝せる。an-kor-shiushpe an-ante. 赤子を寝せる。

antoikorishtekka < an (所相) toiko (強く) rishtek (掴む) a (完了) 強く掴まれた。an kor pon totto okkai-tek orowa antoikorishtekka. 私の小さい乳房が男の手によって強く掴まれた。

apamaka < apa (戸、簾) maka (開ける) 戸を開ける。第Ⅱ類動詞。apamaka-an. 我戸を開く。第Ⅰ類用法: apa an maka. 同上

apappo. 花が咲く。tane anzuki apappo-an. 今小豆の花が咲いている。(門野トサ言) バチエラ辞典ではサクラソウとある。

apapu. 責める。合成語の中に現れる。yaya-papu-yai (自身) apapu (責める) 詫びる。

apeare < ape (火) are (燃やす) 火を燃やす。第Ⅱ類動詞。me-an-kusu apeare-an. 寒いので火を燃やした。第Ⅰ類用法: me-an-kusu ape-an-are. 同上

apehose < ape (火) hose (尻を向ける) 背中あぶりをする。第Ⅱ類動詞。anona nep-ka ki-ka somokino kesh-to apehose-an-na. 父は何もせずに毎日背中あぶりをしているのです。

apekotukka < ape (火) kotuk (付く) ka (他動詞化語尾) 火を付ける。第Ⅱ類動詞。sarki-toi apekotukka-a-an. ヨシ原に火を付けた。第Ⅰ類用法: sarki-toi ape-an-kotukka. 同上

apeseturkar < ape (火に) setur (背) u (所属形化接辞) kar (当てる) 背中あぶりをする。第Ⅱ類動詞。shinenne to epitta apeseturukar yakne pirika-nankoroh. 一人で一日中背中あぶりをしたら気持ちが良いであろう。

apkash. 歩く。第Ⅱ類動詞。eikoshi shinki-an-kusu apakash-an-ka eaikap-an. 疲れすぎて歩くこともかなわないのです。

apkashte < apkash (歩く) te (単数使役化語尾) 歩かせる。第Ⅰ類動詞。nea poi sete an apkashte ka somokino an upsoro an omare. その小犬を歩かせもせず懷の中に入れた。

apushta < apa (入口) ush (付いている) ta (処) 引き戸。アイヌの家には部屋の仕切りもまた襖もないが、伝承の中に登場する神、魔神のような特別な存在の家は武家屋敷を思わせる幾重もの部屋がある。

apushtaashi < apushta (引き戸) ashi (閉じる) 引き戸を閉じる。第Ⅱ類動詞。shietokne apushtarutu an wa shiokaene apushtaashi an kor nea chise onnai ta ahup an. 自分の前の引き戸を開け、背後にある引き戸を閉じながらその家の奥へと入って行った。第Ⅰ類用法: apushta an ashi. 我引き戸を閉じる。

apushtarutu < apushta (引き戸) rutu (引く) 引き戸を開ける。第Ⅱ類動詞。apushtarutu an. 我引き戸を開ける。第Ⅰ類用法: apushta an rutu. 同上

ara. 飾る。奇麗にする。第Ⅰ類動詞。pirika nitai chi-e-ara-kar-a. 見事な林があった。

arpitakar < ar (強勢辞) pita (解くこと) kar (為す)。すっかり解き明かす。第Ⅱ類動詞。emotoho orke arpitakar-a an. お前の正体をすべて解き明かしたぞ。

ash. ①吹く。rera ash. 風が吹く。②降る。aputo ash. 雨が降る。upashi-ash. 雪が降る。③立つ。asur ash. 噂が立つ。nea-kur ash-wa i-nukara an. その男は立ち 上がって私を見た。④建っている。chise ash. 家が建っている。⑤する。hawe ash. 声がする。humi-ash. 音がする。

ashi < ash (立つ) i (他動詞化語尾) ①立たす。kakkoku sapo neita shinno i-ashi. カッコウのお姉さんは私を何処かに立たせた。②建てる。poro chise chishireashi. < chi (汎称) shir (大地) e (そこに) ashi (建てる) 大きな家が建っていた。③閉じる。

puyar ashi. 窓を閉じる。④置く。atui-wakka an nise-hine ne-an-be ya-ta an-ashi. 海水を汲んでそれを陸に置いた。⑤立てる。inaw-ashi. イナウを立てる。

ashinte <ashin(出る)te(単数使役化語尾) 出さしむ。nea-kamiash soiketa usshiw i-ashinte. その魔神は外へ召し使いに私を出させた。

ashipte <aship (ashin「出る」の主格複数形) te (単数使役化語尾) 単数の者に複数の物を出さしむ。sunke charanke-ki-kur ashinpe i-ashipte. 詐欺師の談判屋は私にたくさんの償い物を出させた。

ashipyar <aship (ashi「出る」の主格複数形) yar (複数使役化語尾) 複数の者に複数の物を出さしむ。sunke-charanke-ki-kur ashinpe i-ashipte. 詐欺師の談判屋は私たちに多くの償い物を出させた。

ashir-chep nomi <ashir (新しい) chep(魚:ここでは鮭) nomi(祈る) 初めて遡上する鮭に祈りを捧げる。第Ⅱ類動詞。saka-kar-wa inaw-ke-wa shito-kar-wa ashirchep-nomi an-kushne. 酒を造りイナウを削り、棗を作りて初めて遡上する鮭に祈りを捧げん。第Ⅰ類用法:ashirchep-an-nomi. 初めての鮭に祈りを我ら捧ぐ。

ashkeuk <ashke (手) uk (掴む)。第Ⅲ類動詞。①連れて行く。ekoro katkemat ainu utara ainu kotan-ta ashkeuk-an. おまえ(熊)の女房をアイヌ達は自分の村へ連れて行った。②招待する。an-turesh hoku ne kuni kur an chise ta ashkeuk-an. 妹の亭主となるべきものを我が家へ招待した。e-a shke-an-uk. 我(等)汝を招く。eshi-ashke-an-uk. 我(等)汝等を招く。ashke-an-uk. 我(等)彼(等)を招く。i-ashke-e-uk. 汝我(等)を招く。ashke-e-uk. 汝彼(等)を招く。i-ashke-eshi-uk. 汝等我(等)を招く。ashke-eshi-uk. 汝等彼(等)を招く。i-ashke-uk. 彼(等)我(等)を招く。e-ashke-uk. 彼(等)汝を招く。eshi-ashke-uk. 彼(等)汝等を招く。

ashna. 櫓で漕ぐ。第Ⅰ類動詞。chip-an-ashna. 我舟を漕ぐ。

ashpa <ashi (塞ぐ、閉じる) pa (目的物複数形) (両の耳を) 塞ぐ。①耳が聞こえない。tan-kur ashpa kusu nep ka nu ka eaikap yakaiye. あの方は聾啞者ですので何にも聞こえないということです。②形容詞。聞こえぬ。ashpa kisar ai-shitutanure. 聞こえぬ耳を我自身に向ける。聞こえぬ 振りをする。

ashpare <ashpa (聞こえない) re (他動詞化語尾) 聞こえなくする。分からなくさせる。悪口を言う。第Ⅰ類動詞。eani ainu itak sonno eraman kusu ainu itak ani an-e-ashpare eaikap-na. あな

たはアイヌ語に堪能なのでアイヌ語で 悪口を言うことはできない。

at¹. 立ち昇る。poro-chise orowa supuya at-kor-an. 大きな家から煙が立ち昇っている。hura-at. 臭いが立ち 籠める。

at² 嫁ぐ。第Ⅱ類動詞。ankot-sapo shino nishpa at ine-an. 姉は立派な方へ嫁いでいる。

atte¹ <an (ある) te (使役化語尾)。第Ⅰ類動詞。①あらしむ。chep-atte-kamui. 食料を人間に与える神。②着ける。an-tomari otta chep-an-atte-an. 泊りに船を着けた。③向ける。eyashi chip-an-atte. 陸の方に船を向けた。

atte² <at (たくさんある) te (他動詞化語尾) たくさんにする。増やす。chep-atte-kamui. 魚を増やしてくれる神。

ateuk <at (紐) e (それで) uk (捕らえる)。紐で縛る。第Ⅰ類動詞。chikarkar-mip mi-kur mat-pirika- kur opitta ateuk yakaiye. 刺繍を施した着物を纏っているものが美しい人妻をみんな紐で縛るということです。

atkar <at (オヒョウニレの繊維) kar (採る)。オヒョウニレの繊維を採る。第Ⅱ類動詞。upash nin-yakne menoko utar atkar-kuni kimta paye-an. 雪が解けたら女達はオヒョウの繊維を採るために山へ行く。第Ⅰ類用法:at an-kar. 我(等) オヒョウニレの繊維を採る。

atu. 嘔吐が出る。第Ⅱ類動詞。nep-ka wen ibe an-e-kotom an-kusu etu-an. 何か 悪い物を食べたらしく嘔吐が出る。

atuitomotuye <atui (海) tomo(胴体) tuye(切る) 海を横切る。第Ⅱ類動詞。chip-an-o-wa atuitomotuye-an-wa repun-kur-kotan an-eshirepa-an. 船に乗って海を横切り、沖の人の村に着きました。第Ⅰ類用法:atui-an-tomotuye. 私は海を横切る。

atukoyaikush <atu (嘔吐する) koyai-kush (我慢できない) これ以上の嘔吐を我慢しようと思うが我慢できない。激しい嘔吐が止まらない。第Ⅱ類動詞。honi araka an wa atukoyaikush an. 腹が痛く嘔吐が止まらない。

atusa <ar (強勢辞) tush (=rush:衣) sak (無い)。裸である。第Ⅱ類動詞。kamui-menoko atusa kane mosem otta a wa an. 神なる娘は裸で納屋の中に座っていた。

atusare <atusa (裸である) re (単数使役化語尾) 裸にする。第Ⅰ類動詞。irushika-an-kusu an-hoku mip-ka tepaha-ka opittano an-uk-wa an-at-usare-an. 腹が立ったので夫の着物も褌も全て剥ぎ

取って裸にした。

C

chakar <cha (柴) kar (刈る) 柴刈りをする。第Ⅱ類動詞。口語用例:kimta ku oman wa ku chakar. 山へ行って柴刈りをする。文語用例:kimta oman an wa chakar an. 同上

chanka. 身体的に弱まる。第Ⅱ類動詞。anokai ka onne wa neno chanka an. 私もう年老い、このように弱っている。

chapise <cha (口) pi (小) se (発声する) 小声で言う。第Ⅱ類動詞。nenno e chapise yakne ku nu eaikap. (口語) そんな小声で言ったら聞こえませんか。

charanke <cha (口⇒言葉) ranke (多回態語尾) 原義は双方納得のいくまで話し合って結論を導き出すであったが、次第に難癖をつけるという意味に変わっていった。第Ⅱ類動詞。chanranke an wa ashipe an sanke. 談判をして償い品を出させる。

chatcharke <char (擬声音) char (擬音) ke (動詞化語尾)。パラパラ散る。パラパラ散っている。主格三人称動詞。an machi mi kosonde nochi pishkan ta chatcharke an. 我妻の着ている小袖の切れ端が到る所にパラパラ散っていた。

chatchari <chatchar (散る) i (他動詞化語尾) 散らす。まき散らす。第Ⅰ類動詞。an machi chimip nochi chatchari kane nupuri kesh un puri wen kur orowa kira an ru an. 妻が着物の切れ端をまき散らしながら山の麓の行いの悪い熊から逃げた跡があった。

chepat <chep (魚) at (群来する) 魚が群来する。petotta chepat. 川に魚が群来している。

chepattekamui nomi <chepattekamui (魚を群来させる神) nomi (祈りを捧げる) 魚を群来させる神に祈りを捧げる。第Ⅱ類動詞。inaw an ashi wa chepattekamuinomi an. 伊をを立てて魚を群来させる神に祈りを捧げる。第Ⅰ類用法: chepattekamui an nomi. 魚を群来させる神に我ら祈りを捧ぐ。

chepchotcha <chep (魚) chotcha (射る) 魚を射る。第Ⅱ類動詞。pera-ai ani chepchotcha an. ペラアイ (魚を射るための矢) で魚を射る。第Ⅰ類用法: chep an chotcha. 魚を我 (等) 射る。

chepeiok <chep (魚) eiok (売る) 魚を売る。第Ⅱ類動詞。口語用例: ku hoku chep koiki wa anokai chepeiok kor okai an. 夫は魚を獲り私はそれを売って生活をしている。

chephok <chep (魚) hok (買う) 魚を買う。第Ⅱ類動詞。ku chise ru hontomta chephok an ku-

shne. 帰宅途中で魚を買おう。第Ⅰ類用法: chep an hok. 魚を我買う。

chepiporma <chep (魚) ipor (顔色) ma (動詞化語尾) 腹を空かせている。主格二・三人称動詞。i sam ta chepiporma okkai ek an. 私の側に腹を空かせたような若者がやって来た。

chepma <chep (魚) ma (焼く) 魚を焼く。第Ⅱ類動詞。imanit etarare wa chepma an. 焼串に刺して魚を焼く。apeoi otta chepma an ine ekushukono nea chep ne orowa ape otta hotchiri. Ape huchi kamui hebano e rusui nankoro. 炉で魚を焼いていたら突然魚が火の中に落ちてしまいました。きっと火の神様が早く食べたかったのでしょう。アイヌは飲食の際、まず火の神に捧げてからそれを戴く。第Ⅰ類用法: chep an ma. 私は魚を焼く。

chepnoye <chep (食べ物) e (原因を示す接頭辞) noye (ふらふらと倒れる) 餓死する。第Ⅱ類動詞。e unu ibe ka somokip ne kusu tanepo chepnoye kor an. おまえの母親は食事を取らないので今にも餓死しそうである。

cheposura <chep (魚) osura (放る) 魚を放る。第Ⅱ類動詞。cheposura an ike nea seta uk wa ekuba ine ekimun oman an. 魚を放るとその犬が受け取り銜えたまま山へ行行った。第Ⅰ類用法: chep an osura. 我魚を放る。

chepraike <chep (魚) raike (殺す) 魚を捕る。第Ⅱ類動詞。petotta uraikar an wa chepraike kor an. 川で梁仕掛けて魚を捕っている。第Ⅰ類用法: chep an raike. 我魚を捕る。

chepsatke <chep (魚) satke (干す) 魚を干す。第Ⅱ類動詞。chise soita chepsatke an. 家の外で魚を干す。第Ⅰ類用法: chep an satke. 我魚を干す。

chepsuye <chep (魚) suye (煮る) 魚を煮る。第Ⅱ類動詞。poro su ani chepsuye an. 大鍋で魚を煮る。第Ⅰ類用法: chep an suye. 魚を我 (ら) 煮る。

cheptata <chep (魚) tata (細かく刻む) 魚を切り刻む。第Ⅱ類動詞。manaita kata cheptata kor an. まな板の上で魚を細かく切り刻んでいる。第Ⅰ類用法: chep an tata. 我魚を細かく切り刻む。

chi¹. ① (火や湯で) 火傷をする。② 焼ける。第Ⅱ類動詞。① an-kor-shiushpe ape-o-i orota tek kushpa wa tekehe chi-an. 赤ん坊は炉の中に手を突っ込んで手を火傷した。② chep-chi-an-kusu ape-huchi kamui an puni-wa an-e-an. 魚が焼けたので火の神に捧げてからいただきました。

chi². 枯れる。主格三人称動詞。chukan yakne

mun chi. 秋になると草が枯れる。

chichari <chi (中相) chari (撒き散らす) 散らばる。pishkanta an machi mi konde nochichari na. 到る所に妻の着ている小袖の切れ端が散らばっている。

chiearakar <chi (中相接頭辞: 語中の動詞が他動であるがその意味は自動である) e (そこに: 指相接中辞) ara (飾る) kar (作り為す) 見事に作られている。ainu-moshitta pirika-nupuri chie-arkar-a. 人間の国には山が見事に作られていた。

chiepirasakar <chi (中相) e (そこで) pirasa (広げる) kar (為す)。広がっている。mun epuira pirika katkorshinne chiepirasakan na. 草花が美しくそこに広がっている。

chieramasuye <chi (中相) e (それによって) ram (心を) suye (揺する) 感嘆する。感激する。第Ⅱ類動詞。nea pirika kotan chieramasuye an. その美しき村に感激しました。

chihotakpare <chi (中相: 他動を自動に変える) hotakpa (バタバタする) re (他動詞化語尾) バタバタする。主格三人称動詞。atui-otta wakka-isam-kusu chep-nechiki chikokip nechiki chihotakpare an. 海の中に水が無いので魚やら海獣やらがバタバタしている。

chik 擬声語 滴り落ちる。主格三人称動詞。kenepe ika-ine chik-an. 榛の木の滴私の上に滴り落ちた。

chikirtukunne <chikir (足) tukunne (痺れる) 足が痺れる。第Ⅱ類動詞。setakko a yak ne nennakka chikirtukunne na. 永いこと座ったら誰だって足が痺れるよ。

chikotachi <chi (中相) kotachi (付ける) 付く、付いている。主格三人称動詞。a-mip nu-isam eshina-etoro chikotachi. 私の着物の襟にくしゃみの鼻汁が付いた。

chimi. かき分ける。第Ⅰ類動詞。mun-an-chimaine an-chise-ta hoshibi-an. 草をかき分けて我が家へ帰った。

chimpapa <chimi (かき分ける) pa (目的物複数) たくさんかき分ける。第Ⅰ類動詞。usa-mun an chimpapa-ine tan kotan-ta shirepa-an. いろいろな草をたくさんかき分けてこの村に着きました。

chinita. 夢を見る。第Ⅱ類動詞。numan an kor onne huchi chinita-a-an. 昨晚死んだ祖母の夢を見た。

chinitare <chinita (夢を見る) re (使役化語尾) 夢を見せる。第Ⅰ類動詞。Nea kamui i

chinitare rusui kusu neita i-rewshre an. その神は私に夢を見せたいのでここに泊めたのであった。

chipashna <chip (船) ashna (漕ぐ)。舟を漕ぐ。第Ⅱ類動詞。chipashna an wa yayunkur atui tomotuye an. 舟を漕いで沖の人の海を渡った。第Ⅰ類用法: chip an ashna. 私は舟を漕ぐ。

chipkar <chip (船) kar (造る)。船を造る。第Ⅱ類動詞。poro chipkar an wa uimam an kush ne. 大きな船を造って交易に行こう。第Ⅰ類用法: chip an kar. 我(等) 船を造る。

chipoknare <chi (不定称) pok (下) na-re (にする) 下になる。kanna atui chipoknare, po-kna atui chikannare. 上の方の海が下になり、下の方の海が上になる。

chipsanke <chip (船) sanke (下す) 進水さす。第Ⅱ類動詞。chip-an-kar-wa chipsanke-an. 船を造って進水させる。第Ⅰ類用法: chip-an-sanke. 進水さす。

chipshirkote <chip (船) shir (陸地に) kote (付ける) 船を繋ぐ。第Ⅱ類動詞。an kor tomari otta chipshirikote-an. 船着き場に船を繋ぐ。第Ⅰ類用法: chip-an-shirkote. 私は船を繋ぐ。

chipo <chip (舟に) o (①乗る②漕ぐ)。第Ⅱ類動詞。①船に乗る。chipo an wa neine ka oman rusui an. 船に乗って何処かへ行きたい。②舟を漕ぐ。repun kur atui ekota chipo an. 沖の人の海へ船を漕ぐ。第Ⅰ類用法: chip an o. 私は船に乗る。

chipta <chip (船) ta (掘る) 丸木船の中をくり抜く。第Ⅱ類動詞。motta-ani chipta-kor-an. チョウナで丸木船をくり抜いています。第Ⅰ類用法: motta-ani chip-an-ta-kor-an. 同上

chirananranke <chi (中相接頭辞) ra (低い処) na (方へ) ranke (下す) 降る。落ちる。主格三人称動詞。kunne chup orowa an-kor-ekatchi ranke nupe apto shinne chirananranke-an. 月の中から私の子供の落とす涙が雨のように降ったのでした。

chire <chi (焼く) re (使役化語尾) 焼かれる。atui-otta wakka-isam-kusu chep-nechiki chire wa rai-okere. 海に水がなかったので 魚やらが焼かれて死んでしまった。

chirikipuni <chi (中相) riki (高く) puni (上げる: 目的物単数) 一つの高くなる。pirakka sasun chirikipuni. 下駄の響きが高くなった。

chisanasanke <chi (中相) sa (前) na (方に) san (出る) ke (他動詞化語尾) 出される。kane imanit i-kotcha-ta chisanasanke-an. 金属の焼串が私の前に出された。

chisatke <chi (焼く) satke (乾かす) 焼き殺す。第Ⅰ類動詞。nitne-kamui ayubi imanit etarare wa chisatke-an. 魔神は兄を串に刺して焼き殺した。

chisekar <chise (家) kar (造る) 家を作る。第Ⅱ類動詞。kotan epitta okai utar wekarpa wa ashit chisekar-an. 村中の人が集まって新しい家を作った。第Ⅰ類用法: chise-an-kar. 我家を作る。

chisekor <chise (家) kor (持つ) 家を持つ。第Ⅱ類動詞。chisekor-an. 我家を持つ。第Ⅰ類用法: chise-an-kor. 同上

chishireashi <chi (中相) shir (空間をも含む大地) e (そこに) ashi (立てる) 立っている。主格三人称動詞。neita poro chise chishireashi-an. chishireash-an. そこには大きな家が立っていた。

chishkowiase <chish (泣く) kor (ながら) wai (ワイワイ) se (発声する) ワーワー泣く。第Ⅱ類動詞。nea unarbe chishkowiase kor "I-shitekka wa ikore." sekor itak an. その小母はワーワー泣きながら「許して下さい」といった。

chishte <chish (泣く) te (他動詞化語尾目的物単数形) 一人を泣かす。第Ⅰ類動詞。echiki e akihi chishte. 弟を泣かすな。

chishyar <chish (泣く) yar (複数使役化語尾) 人々を泣かす。anokai ponita irara ekatchi an-ne-wa neita an hanbe ka totto ka an-chishyar-a-an. 私は子供の頃悪戯っ子でいつも父と母を泣かせていました。

chisoyokuta <chi (中相) soi (外) o (そこへ) kuta (棄つ) 外へ出る。rametok-utar chisoyokuta wa kamiash koiki-an. 勇者たちは外へ出て魔神と戦った。

chitarpechupu <chitarpe (花簾) chupu (巻く)。チタラベを巻く。第Ⅱ類動詞。

chitarpeitese <chitarpe (花簾) itese (編む)。チタラベを編む。第Ⅱ類動詞。an ko-totto kesh to an kor chitarpeitese an. 母は毎日チタラベを編んでいる。

chiw 刺す。第Ⅰ類動詞。soya i-chiw 蜂は人を刺す。

chiweroshki <chi (中相) u (互いに) e (そこに) roshki (ashi『立てる』) の目的物主格複数形 重なり合って立っている。主格三人称動詞。ranke-wen-kut, rikun-wen-kut chiweroshki. 低く険しい崖と高く険しい崖が重なり合って立っている。

chocho. 子犬等に対する誘いの呼びかけ。おいで、おいで

chopchopse <chop (擬声音) chop (擬声音) se (発声する) チョップチョップと声をかけながらあやす。第Ⅱ類動詞。nea poi seta an chopchopse kor an chise-ta hoshippa-an. その子犬にチョップチョップと声をかけながらあやして我が家へ帰った。

chorawki. 攻撃する。第Ⅰ類動詞。oya moshir utar an kotan chorawki an. よその国の者が私たちの村を攻撃した。

chori-ushi <chori (邦語「草履」) ushi (履く)。草履を履く。第Ⅱ類動詞。ashin choriushi an-wa soita ashin-an. 新しい草履を履いて外出する。第Ⅰ類用法: chori-an-ushi. 草履を私は履く。

chukan <chuk (秋) an (になる)。秋になる。chuk an yakne kamui chep pet oro rikip. 秋になると鮭が川に遡上する。

chupahun <chup (太陽) ahun (入る) 日が沈む。pewre ita chupahun orowano toi ta monraike-an. 若い頃は日が沈んでからも畑仕事をした。

chupankoiki <chup (太陽) an (汎称) koiki (いじめる)。日食になる。chupankoiki wa tokamne koroka shiri kunne. 日食になって昼なのに暗い。

chupkarap. 月経が下りる。第Ⅱ類動詞。menoko anakne chupkarap ta mour mi. 女は月経が下りる頃下着を着ける。

chupkor <chup (月経) kor (持つ)。①月経がある。第Ⅱ類動詞。chupkor an. 私は月経がある。第Ⅰ類用法: chup an kor. 同上

chuprikin <chup (太陽) rikin (上る) 日が昇る。an machi chuprikin yakne henbano hopuni wa monraike an. 妻は日が昇るとすぐ起きて仕事をする。

E

ea¹<e (『それで 以て』という手段を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) a (座る。主格単数) それで 座る。第Ⅰ類動詞。kokka-an-ea. 私は片膝を突いて座る。女性の座り方。

ea²<e (『そこに』という場所を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) a (座る) そこに座る。anokai menoko ne kusu harikiso an-ea. 私は女ですので左座に座ります。第Ⅱ類用法: anokai menoko ne kusu harikiso otta a-an. 同上

eaikap <e (そのこと) aikap (できない)。そのことができない。助動詞。nep-ki-ka an-eaikap.

私は何にもすることができない。

eash < e (場所を示す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) ash (立つ) そこに立つ。そこに立っている。第Ⅰ類動詞。inkar an ike atui-sam-ta an-eash-an. 見ると私は海の側に立っていたのでした。

eekemashi te. 語源未詳。偏食しない。何でも食べる。第Ⅰ類動詞。

emaka < e (食べる) emaka (持てあます) 偏食する。口語にしか 現れない。第Ⅰ類動詞。ee-maka somokino nepnakka poronno-e-ya. 偏食をしないで 何でもたくさん食べなさい。

eenke < een (尖っている) ke (動詞化語尾) 尖らせる。第Ⅰ類動詞。rui ani makiri an eenke. 砥石で 小刀を尖らせる。

eese < e (そのことに就いてという 目的を示す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える。) he (擬声音) se (発声する)。そのことに就いて承諾の返事をする。第Ⅰ類動詞。mosem otta an kamui sani pon menoko raikep an eese an. 納屋にいる神の出の娘を殺害することに私は承諾の返事をした。

ehoshipi < e (『そこへ』という意味を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える。) hoshipi (帰る) そこへ帰る。第Ⅰ類動詞。an-chise an-ehoshipi. 我が家へ帰る。第Ⅱ類動詞用法: an-chise-ta hoshipi-an. 同上

ehoshipire < e (そこへ) hoshipi (帰る: 単数単数) re (他動詞化語尾: 目的物単数) そこへ人が人を帰す。第Ⅰ類動詞。ne-menoko shiko-kotan an-ehoshipire. その娘の生まれた 村へ (娘を) 私は帰した。ne-menoko shiko-kotan-ta an-hoshipire. 同上

ehoshippare < e (そこへ) hoshippa (帰る: 主格複数 但し神謡においては語り手は一人称複数形で 語る) re (単数使役語尾) そこへ複数の人間もしくは私が一人の人間を帰す。第Ⅰ類動詞。nea menoko ne kotan an-ehoshippare. その娘を村に私 (達) は帰した。

ehoshipayar < ehoshippa (使役) yar (複数使役語尾) そこへ複数の人間もしくは私が複数の人間を帰す。第Ⅰ類動詞。ne-menoko-utar ne-kotan an-ehoshipayar. その娘たちを村へ私 (達) は帰す。

ehoyuppa < e (『そこへ』という 意味を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) hoyuppa (走って行く: 主格複数) そこへ走って行く。第Ⅰ類。an-chise an-e-hoyupu-a-an. 私たちは家へ走って行きました。第Ⅱ類用法: an-chise-ta hoyuppa-a-an. 同上

ehoyupu < e (そこへ) hoyupu (走って行く:

主格単数) そこへ走って行く。第Ⅰ類動詞主格単数形。an chise an ehoyupu-a-an. 私は家へ走って行った。

第Ⅱ類用法: an-chise-ta hoyupu-a-an. 同上

eikore < e (二人称単数主格) i (一人称単複目的格) kore (与える) あなたは私 (たち) に与える。pirika chep e-i-kore wa sonno iyairaikere-an. おいしい魚を下さしまして本当にありがとうございます。

eikotuntek. こだまする。完全自動詞。nupuri-ekota hotuipa-an-yakne eikotuntek-an. 山に向かって思いっきり叫ぶとこだまがした。

eiok < e (それで) i (それを: 品物) hok (買う) 品物を買うために売る。売る。第Ⅰ類動詞。chep an eiok. 私は魚を売る。

eirusa 使って減らない物を貸す。第Ⅰ類動詞。nea-tamasai i-eirusa-na. その首飾りを私に貸して下さい。

ekannashi < e (he「顔」) kanna (上の方) ashi (立てる) 昇る。第Ⅰ類動詞。chikap an ne wa kanto oro an ekannashi rusui na. 鳥になって空の中を私は昇りたい。

ekari < e (そこで) kari (出会う)。そこで出会う。第Ⅰ類動詞。kina toi ta shine menoko an ekari. 草 (蒲) 畑 (群生地) である女性と私は出会った。

ekasui < e (そのことを) kasui (手伝う) そのことを手伝う。第Ⅰ類。a-yubi-utara sake-kara koroka an e-kasui-ka somoki-an. 兄たちは酒を造っていましたが私はそのことを手伝いませんでした。

ekimatek < e (『それに依って』という意味を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) kimatek (驚く、慌てる) それで 驚く。それで 慌てる。第Ⅰ類動詞。horkew-hawe an-ekimatek-a-an. 狼の声を (聞いて) 私は驚いた。

ekimne < e (～へ) kim (山) ne (である) 山へ行く。第Ⅱ類動詞。kesh-to-an-kor ekimne-an. 毎日私は山へ行く。

ekira¹ < e (『そこへ』という 意味を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) kira (逃げる) そこへ逃げる。第Ⅰ類動詞。wen-kamias i-noshipa kusu kimun an-ekira-an. 魔神が私を追いかけたので山へ逃げました。

ekira² < e (手段を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) kira (逃げる) それで 逃げる。第Ⅰ類。chip an ekira. 私は船で 逃げる。第Ⅱ類用法: chip-an-o-wa kira-an. 私は船に乗って逃げる。chip ani kira an. 私は船で 逃げる。

ekka < ek (来る) a (完了) やって来た。piri-ka-nai-otta ekka-an. きれいな沢に私はやって来た。

ekkira. 送る。第Ⅰ類動詞。enekota e kor totto sat kam ekkira. 私にあなたのお母さんが干し肉を送ってくれた。

ekkiranke < ekkira (送る) ranke (多回態語尾) 何度も送る。第Ⅰ類動詞。nea arke kamui arke ainu ne-an-kur shisempirorketa chep usa kam usa i-ekkiran-ke-kusu neno kon rusuipe-ka e-rusuipe-ka isamno oka-an. その半神半アイヌが私の知らないところで 魚やら肉やらを何度も送って下さるのでこのように欲しいものも食べたいものも無く暮らしています。

ekor < e (あなたを) kor (持つ) あなたと結婚する。第Ⅱ類動詞。ekor-an rusui. 私はあなたと結婚したい。第Ⅰ類用法: an-e-kon-rusui. 同上

ekore < e (あなたに) kore (与える) あなたに与える。第Ⅱ類動詞。shito-shinep ekore-an. 薬一つ私はあなたにあげます。第Ⅰ類用法: shito-shinep an-e-kore. 同上。

ekoroman < e (あなたを) koroman (持つていく) あなたを持って行く。第Ⅱ類動詞。atui kor kamui ekota ekoroman an kushine. 海の神のところへお前 (兎) を私 (トド) は持つて行くつもりだ。

ekte < ek (来る) te (使役化語尾) 来さす。第Ⅰ類動詞。nen-ka neita i-ekte-an. 誰かがそこに私を来させた。

ekumakar < e (対象を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) kumakar (掛け竿に掛ける) 第Ⅰ類動詞。an ara otobi inumbe sam-ta, an-ekumakar-na. 私の片方の髪を炉縁の側の掛け竿 に掛けた。

ekunneot < e (そこに) kunne (夜) ot (たくさんついている)。目の前が暗くなり気を失う。第Ⅱ類動詞。ash an yakne ekushukono ekunneot an. 立ち上がったら急に目の前が暗くなり気を失った。

ekupa. 口に銜える。第Ⅰ類動詞。an kor humbe rika an-ekupa-ine ekimun paye-an. 自分の鯨の脂肪を口に銜えて山へ行きます。

ekupapa < ekupa (口に銜える) pa (目的物複数形) 一つならず二つ以上を口に銜える。第Ⅰ類動詞。nea kimunkamui chep ekupapa kor an. その熊神は魚を二匹以上銜えている。

ekutkor < e (対象を表す接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) kut (帯) kor (持つ) それを締める。第Ⅱ類動詞。kamui-menoko i-kore raunkut an-ekutkor-an. 神女がくれた下帯を締めています。

emik < e (対象を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類

に変える) mik (吠える) ~へ吠える。第Ⅰ類動詞。seta utaranea shirara-ainu emik-an. 犬たちはその岩人間に向かって吠えた。

emina < e (『そのことに就いて』という 意味を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) そのことに就いて笑う。第Ⅰ類動詞。nea-ichatkere-chacha an-emina-a. その汚いおじいさんを私は (神とも知らず) 笑ってしまった。

emokor < e (『それに依って』という意味を表す 接頭辞で、第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) mokor (眠る) で眠る。第Ⅰ類動詞。kusuri-an-emokor. 私は薬で眠る。口語用例: kusuri-ani ku-mokor. 同上

emushetaye < emush (刀) etaye (抜く) 刀を抜く。第Ⅱ類動詞。emushetaye an. 我刀を抜く。第Ⅰ類用法。emush an etaye. 同上

enkore < en (私に) kore (与える) 口語: ①私にくれる。ku saha shito en kore. 姉は薬を私にくれた。②私に~して下さい。Huchi, oina nure wa en kore. おばあさん、オイナを私に聞かせて下さい。文語: ikore

enure < e (第二人称単数目的格) nure (聞かす) あなたに聞かせる。第Ⅱ類動詞。Tane wano tuitak enure an kusu pirikano inu nankoro. これからトウイタックを聞かせてあげるのでよく聞くがよい。第Ⅰ類用法。Tuitak an e nure kushne. トウイタックを私があなたに聞かせてやろう。

okere < e (食べる) okere (完了体語尾) 食べてしまう。第Ⅰ類動詞。ai-sa sukep an-e-okere. 姉の料理を私は食べてしまった。

eokok 語源未詳 触る。触れる。当てる。第Ⅰ類動詞。chi-kor-ponpe mun-eokok-kor eshi' tch-iwranke. 私の子供 (熊の子) は草に引っかかって何度もつんのめりました。

eoma 寄りかかる。第Ⅰ類動詞。turep shikno-an poro-saranip an-eoma-kor mokor-an. ウバゆりで一杯のサラニップ に寄りかかりながら眠ってしまった。

eoripak < e (『そのことに就いて』という意味を表す接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) oripak (恐れ憚る) そのことに就いて恐れ憚る。第Ⅰ類動詞。kamui-menoko i-ahunke-a-kusu an-eoripak-ka-ne ahun-an. 神の娘が私を入れてくれたので慎み恐れ憚りつつ 家の中に入りました。

eoshkor < e (『そのことに就いて』という意味を表す接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) oshkor (嘆き悲しむ) そのことを嘆き悲しむ。第Ⅰ類動詞。an kor ponpe isampe an eoshkor an. 子供がいなくなったのを嘆き悲しんでいます。

e o s s e r e k e < e (そのことについて) ossereke (驚く)。そのことに就いて驚愕する。第Ⅰ類動詞。nea pirika hawe an eossereke kor inu-an. その美しい声に驚愕しながら聞いておりました。

e p a < e (食べる) pa (①主格三人称複数化語尾②目的物複数化語尾③尊敬) 第Ⅰ類動詞。①彼らが食べる。Chikap-utari ninum e(pa)-kor-an. 鳥達は木の実を食べていた。②一つならず二つ以上、もしくはたくさん食べる。shito an epa kor an. 桑を私はたくさん食べている。③nea-kamui kushkorachian okkaipo an-sukep epa an. その神のような若者は私の料理をお食べになった。

e p a k a s h n u < e (そのことに就て) pa (頭) kash (ka『上』の人称形) nu (見る) 第Ⅰ類動詞。①罰する。nen wen kewtum kor yakne kamui-utar e-epakashnu-nankoro. そんな悪い心を持ったなら神々がお前を罰するであろう。②教える。ainu itak eraman-rusuikur e-ekota ek-yakne nen-neyakka piri-kano e-epakashnu nankoro. アイヌ語を覚えたい者がお前のもとへやって来たら誰であつてもきちんと教えてやるがよい。

e p a y e < e 『そこへ』という意味を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) paye (oman『行く』の主格複数形) そこへ行く。第Ⅱ類動詞。uimam an e-paye. 交易に我ら行く。第Ⅱ類用法: uimam paye-an. 同上

e p i r a s a < e (そこへ) pirasa (広げる) そこへ広げる。第Ⅱ類動詞。omke-mawe moshissokur-ka an-epirasa an. 咳の風が国中に広がった。an:他動を自動の意味に変える中相接辞。

e p i r k a < e (手段を示す接辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) pirka (善い、富む) 儲ける。第Ⅰ類動詞。humbe an epirka-kor-an. 私は鯨で 儲けています。

e p i s h n e < e (he『顔』) pish (海浜) ne (動詞化語尾) 海岸へ行く。第Ⅱ類動詞。epishne-an. 私は海岸へ行く。

e p i t t e k a. ひっぱずす。第Ⅰ類動詞。anmip-ih i an-epitteka-wa hopuni-an. 着物をひっぱずして起き上がった。

e p o k n a s h i < e (he『顔』) pok (下) na (の方) ashi(立てる) 下る。第Ⅱ類動詞。shinpui kari epoknashi wa oman an. 井戸を伝って私は下って行く。

e p u n k i n e r e < e (『そこを』という意味を表す 接頭辞で 動詞の語頭に置かれると第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) punkine (守る) re (使役化語尾) そこを守らす。第Ⅰ類動詞。Kamui-utar i ainumoshir

epunkinere. 神々は私に人間界を守らせる。

e r a i < e (原因を示す 接頭辞で 動詞に前置すると第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) rai (死す) ~で死す。第Ⅰ類動詞。an machi shiee e-rai an 妻は病気で死んだ。

e r a m b e t e k < e (『それ』に就いて: 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える接辞) ramu(思う、考える)pe(こと) uitek (遣わす)。分からない、知らない。第Ⅰ類動詞。ainu-itak an-erambetek. 私はアイヌ語が分からない。口語用例: ainuitak ku-erambetek. 同上。ana-nte hoku neita oman-an-yakka an-erambetek. 夫が何処に行ったのやら私は知らない。口語用例: ku hoku neita oman an yakka ku erambetek. 同上

e r a m u s u y e < e (そのことに就いて) ramu (ram『心』の所属形) suye (揺する) 羨む。第Ⅰ類動詞。e kor teketok sonno-pirika-kusu an-eramusye kor e-nukar-an. あなたの手仕事が大変素晴らしいので 羨ましく思いながらあなたを見ております。

e r a m u t u y e < e (理由を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) ramu (ram『心』の所属形) tuye (切る) 驚く。第Ⅰ類動詞。tanep an-otereke-wa an-eramutuye-an. 蛇を踏みつけて驚きました。

e r a s h i < e (he『顔』) ra (下、低い処) ashi (立てる) 下る。第Ⅱ類動詞。nea kut orowa erashi an. その崖から私は下った。

e r e p a s h i < e (he『顔』) rep (沖) ashi (立てる) 沖へ向かう。第Ⅱ類動詞。i-hoppa wa achapo utari chip o wa erepashi an. 私を置き去りにして叔父立ちは船に乗って沖へ向かったのです。

e r e s h k a < e (第二人称単数目的格) resh (育つ) ka(他動詞化語尾) あなたを育てる。第Ⅱ類動詞。kanto otta ereshkar an kushne. 天界でお前を育てるつもりである。第Ⅰ類用法: an e reshka. 私はあなたを育てる。

e r i k a s h i < e (he『顔』) rik(高い処) ashi (立てる) 登る。第Ⅱ類動詞。ne ri-shiri erikashi an. その高く険しい山を私は登る。

e r i k i n < e (動作の方向を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) rikin (昇る)。そこへ昇る。第Ⅰ類動詞。kanto-oro an-erikin. 私は天に昇った。第Ⅱ類用法: kanto-oro-ta rikin-an. 同上

e r o k < e (『それで 以て』という手段を表す 接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) rok (a『座る』の主格複数形) それで座る。第Ⅰ類動詞主格複数形。anutari ai-nu-menoko-anakne kokka erok. 我々アイヌ女性は片膝を突いて座ります。

erura < e (第二人称単数目的格) rura (連れて行く) あなたを連れて行く。第Ⅱ類動詞。ekor hambe ekota erura an kushne. あなたのお父さんの処へ連れて行くつもりです。第Ⅰ類用法: an e rura. 私があなたを連れて行く。

eshikarun < e (そのことに就いて) shikarun (思い出す) 思い出す。第Ⅰ類動詞。teeta an ancor kotan an-eshikarun. その昔住んでいた私の村を思い出しています。

eshikte < e (それで) shik (いっぱいである) te (他動詞化語尾) それで 一杯にする。第Ⅰ類動詞。an ketush an tekekarpe an-eshikte-an. 衣装袋を手作りの物でいっぱいにしました。

eshina. くしゃみをする。くしゃみが出る。第Ⅱ類動詞。omkekara kotom-an wa eshina-an. 風邪をひいたらしくくしゃみが出る。

eshinki < e (理由を表す接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) shinki (疲れる) それに疲れる。第Ⅰ類動詞。kemeiki an-eshinki-kusu soita-ashin-an. 針仕事に疲れたので外へ出た。

eshirepa < e (場所を示す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) shirepa (到着する) そこに到着する。第Ⅰ類動詞。To-kesh-petokta e-koro-kotan e-eshirepa-nankoro. 日が暮れる前にあなたの村にあなたは到着するであろう。

eshirikootereke < e (目的を表す接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) shiri (=shir大地) kotereke (飛ばす) 叩きつける。第Ⅰ類動詞。an-kor pon-totto rishitekka-okkai ni-ka-orowa erashi an eshirikootereke. 私の小さい乳房を掴んだ男を木の上から下に叩きつけた。

eshishitaiki < e (目的を表す接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) shishi (強勢辞) ta (叩く) i (それを) ki (為す) 思いっきり叩く。第Ⅰ類動詞。an-kor-totto rishitekka okkai an-eshishitaiki. 私の乳房を掴んだ男を思いっきり叩いた。

eshitapkokomo < e (目的を表す接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) shi (自身の) tap (肩) ko (に対し) komo (曲げる) それを肩で 担ぐ。第Ⅰ類動詞。a-yubi an-eshitapkokom-kor an-chise-ta ahun an. 私は兄を肩に担いで家の中に入った。

eshi'tchiwranke < e (場所を示す接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) shir (大地) chiw (刺す) ranke (多回態語尾) そこで何度も転ぶ。第Ⅰ類動詞。an-kor-ponpe ran-ru otta eshi'tchiwranke. 私の子供は坂道で 何度も転んだ。

eshitemkorani < e (目的を表す 接頭

辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) shi (自身の) temkor (胸と両腕の間) ani (携える) それを両腕と胸の間に抱え持つ。第Ⅰ類動詞。an-tekekarape an eshi-temkorani-kor kanto-orowa rap-an. 私が作った着物のうちでいい物を両腕と胸の間に抱えて天から下りた。

esokar < e (場所を示す接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) so (①座所②寝床) kar (造る) ①座所を造る。第Ⅱ類動詞。nea okai-po ahun-etokosh-kusu shisotta an-esokar-an. その若者が入ってくるので右座に座所を造りました。②寝床を造る。aisa hoshibi-etokta isamta an-esokar-an. 姉が帰ってくる前に私の側に寝床を造りました。

esose 使って減る物 (金、米等) を借りる。第Ⅰ類動詞。tanukuran an-e-amam isam-kusu awta an chise-orowa amam-an-esose. 今晚食べる米がないので お隣から借りる。

esosere < esose (使) re (単数使役化語尾) 使って減るものを人に貸す。第Ⅰ類動詞。ikoro en esosere. お金を少し私に貸して下さい。

esoseyar < esose (使) yar (複数使役化語尾) 使って減る物を人々に貸す。第Ⅰ類動詞。nea-nishpa-ne-kur ikoro esoseyar. その富者のような方は人々にお金を貸している。

etaipa < etaye (↓) pa (目的物複数形) たくさん引き抜く。第Ⅰ類動詞。mun an-etaipa. 草をたくさん引き抜く。

etarare¹ < e (そこに) tar (紐) an (ある) re (使役化語尾) 刺す。第Ⅰ類動詞。nea-kamiash a-yubi osoro-kari kani-imanit etarare-an-na. その魔神は兄の尻から金属の焼串を刺したのです。

etarare² < e (そこを) tar (紐で縛る) tar (↑) re (使役化語尾) そこを紐で何度も縛る。第Ⅰ類動詞。konkani-chori an-chikiri an etarare. 黄金の草履を足に何度も縛る。黄金を草履を履く。

etaye. 引き抜く。第Ⅰ類動詞。pukusa an etaye. 行者にんにくを引き抜く。

etoikoraikē < e (お前を) toiko (ひどく) raikē (殺す) お前を叩き殺す。「e」が目的語になっているので第Ⅱ類動詞。etoikoraikē-an kushne na. お前を叩き殺してやるつもりだ。

etokoiki < etok (先に) o (そこで) i (それを) ki (為す) 準備する。第Ⅲ類動詞。iomante an kuni etok-an-oiki. 罷送りの準備をする。

etoranne < e (「そのことに就いて」という意味を表す接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) 第Ⅰ類動詞。①怠ける。an-kor-ekatchi an-wakkatare-a-

koroka etoranne-an. 子供に水汲みをさせたのですが怠けるのです。②できない。mokor-an-etoranne. 私は眠ることができない。③断る。neanbe an etor-an ne kushne na. そのことを私は断わるつもりです。

etoro <etu (鼻の) or (内に) o (生じる) ① 鼾をかく。第Ⅱ類動詞。an-machi etoro-kusu pirk-ano-mokor an-e-aikap-an. 妻が鼾をかくので私は熟睡できない。②鼻汁が出る。e-etoro-kusu etukar na. 鼻汁が出ているから鼻をかみなさい。

etukar <etu (鼻) kar (かむ) 鼻をかむ。第Ⅱ類動詞。etukar-an. 私は鼻をかむ。第Ⅰ類用法: e-tu-an-kar. 同上

etukemnu <etu (鼻) kem (血) nu (出る)。鼻血が出る。第Ⅱ類動詞。mokor-an-ita etukemnu-an. 寝ているうちに鼻血が出た。

etun 使って減らない物を借りる。第Ⅰ類動詞。nea-kiseri an-hanbe-orowa an-etun-na. そのキセルを父から私借りた。a-yubi shi-sak katkemat etun-an. 私の兄は類稀なすばらしい妻を借りた(めとった)。

etunek <etun (借りる) ek (来る) 借りに来る。合成第Ⅱ類動詞。ichatkere wakka oyak ene o-man, pirika wakka etun ek-an. 汚い水はあっち行け、きれいな水を借りに来たのです。水を汲むときの呪文。

eukoitak <e (『そのことに就いて』) という意味を表す接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) ukoitak (相談する) そのことに就いて相談する。第Ⅰ類動詞。ne-an-be an-e-eukoitak-rusui. そのことに就いて私はあなたに相談したいのです。

euminare <e (接頭辞: そのことに就いて) u (互いを) mina (笑う) re (使役化語尾) そのことに就いて互いを笑わせあう。主格三人称動詞。kamui utar an kip euminare kor sap an. 神々は私のすることを笑いながら山を下りてきた。

eupekare. 片づける。第Ⅰ類動詞。chise oshke ku eupekare kushne. 家の中を片づけようと思います。

euraraotte <e (『そこに』) という意味の指相接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) urara (霧) ot (たくさん架かる) te (他動詞化語尾) そこに霧をたくさん架ける。第Ⅰ類動詞。shitu-kari an euraraotte wa yaiukao-an. 山の麓から霧をたくさん架けてそこに隠れていました。

ewen <e (『そのことに就いて』) という意味を表す接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) wen (できない) そのことに就いてでき兼ねる。第Ⅰ類動詞。mokon-rusui-an-koroka an-ewen. 眠りたいのだけれども眠れないでいる。

eyaikatchibi <e (理由を示す接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) yai (自身) kat (姿) shibi (変える) そのため魂が神々の魂が天に帰る。蘇生する。第Ⅰ類動詞。ainu-utara hushiko ipaki-kni-ani an-pake kikki kusuichi-yaikatchibi eaik-ap-an-na. 人間たちが古い魚打棒で 私たちの頭を叩くので蘇生することができないのです。

eyaikurkatushtekka <e (『それによって』) という 原因理由を表す 指相接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) yai (自身を) kur (陰: 見えぬところ) ka (添加の副助詞: も) tush (震える) tek (状態を表す語尾) ka (他動詞化語尾) 体全体が震えている。第Ⅰ類動詞。kinra an-e-ne wa an eyaikurkatushtekka-kane-an. 私は狂人になってしまつてそのため体全体が震えているのです。

eyainikoroshmare <e (『そのことに就いて』) という意味の接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) yai (自身) nikor (内) oshmare (入れる) そのことに就いて恥ずかしく思う。第Ⅰ類動詞。

nen-ka ikotarara itanki an uk wa an e okere an eyainikoroshma. 誰かが私に渡した碗を受け取りその中を食べてしまったことを恥ずかしく思った。

eyainu <e (そのことに就いて) yainu (思う、考える) そのことに就いて考える。第Ⅰ類動詞。An rai an aki an eyainu kor an. 死んだ弟の事に就いて考えていた。

eyaipuni <e (『それに就いて』) という意味の接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) yai (自身を) puni (上げる) 威張る。他者をばかにする。第Ⅰ類動詞。eikosh kamui-utar i-eyaipuni. 余りにも神々は私をばかにするのです。

eyaishitoma <e (『そのことに就いて』) という意味の接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) yaishitoma (恥ずかしく思う)。そのことに就いて恥ずかしく思っている。第Ⅰ類動詞。nea kamui-ne-an-kur an-nu an-eyaishitoma. あの神様のような お方にお会いするのを恥ずかしく思っている。

eyam. 大切にする。第Ⅰ類動詞。esh kor hanbe ka tutto ka esh eyam na. 皆さんのお父さんお母さんを大切に下さい。

eyar <e (食べる) yar (複数使役語尾) 一人ならず二人以上、もしくはたくさんの者に食べさせる。第Ⅰ類動詞。ekattara-an-eyar. 子供たちに食べさせる。

eyashi <e (he「顔」) ya (陸) ashi (立てる) 陸地へ向かう。第Ⅱ類動詞。chip an o wa eyashi an. 船に乗って私は陸地へと向かった。

eyattomchiw < e (そこに) ya (陸地) tom (胴体) chiw (刺す)。(船が)到着する。主格三人称動詞。an-o-chip an-kottomari-otta eyattom-chiw-an. 船が船着き場に着いた。

eyukar < e (対象を表す 接頭辞で 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) yukar (真似をする)。その真似をする。第Ⅰ類動詞。kakkoku hawe an eyukar kor apkash an. カッコウの鳴き声を真似ながら歩いていった。(カッコウの鳴き真似をするのはタブー とされ神罰が当たる。)

H

haita. 思慮分別がない。第Ⅱ類動詞。形容詞。ta-an-kur anakne sonno haita-kur ne. あの方は本当に思慮分別のない方です。

hankerukar < hanke (近い) ru (路) kar (作る) 小便をする。第Ⅱ類動詞。hankerukar an. 小便をしに行く。

haypa まさぐる。第Ⅰ類動詞。teeta-kane oper-totto ku-haypa-haypa. その昔俺は娘の乳房をまさぐったものだ。知里真志保採集のシノッチャの一説。

hawash < haw (声) ash (出る) 声がする。主格三人称動詞。nen-ka itak-haweash. 誰かの言う声がする。hawe:hawの所属形。

hawashi < hawash (声がする) i (他動詞化語尾)。声を出す。ものを言う。第Ⅱ類動詞。nen haw-eashi an. そのように私は言いました。

hawrototo < haw (擬声語「ワイワイ、ガヤガヤ」) rototo (継起態語尾) ワイワイガヤガヤしている。騒々しい。主格三人称動詞。ekatta hoshippa wano chise oshketa hawrototo an. 子供たちが帰ってきてから家の中は騒々しいのです。

hetari < he (顔) tari (起こす) ①浮き上がる。第Ⅱ類動詞。①atui-asam-orowa hetari-an. 海の底から私は浮き上がった。②顔を上げる。nea-kamui-ne-kur hetari-wa ene-itaki. その神は顔を上げて次のようにおっしゃった。

hetattek < hetari (顔を上げる) tek (軽微態語尾) ちょっと顔を上げる。第Ⅱ類動詞。itak an aike kotan kar kamui emushi-ka nuye-kor he-tattek-a-an. 私が申し述べると国造りの神は刀の鞘に紋様を施しながらちょっと面を上げたのでした。

heteshte < he (顔を) tesu (反らす) te (使役化語尾) 顔を上げさせる。第Ⅰ類動詞。kun-ne-chup an heteshte wa inkara-an. 月を自ら頭を上げて見た。an: 中相接頭辞。

hetesu < he (顔、頭。そこから山の頂上) tesu (反る、反り上がる) 頂上が反り上がっている。完全自動詞。地名:hetesu-pash. 頂上が反り上がっている断崖。神楽岡の地形?

hokaatte < hoka (火) an (ある) te (使役化語尾) 炉に掛ける。第Ⅱ類動詞。poro-su hoka-atte an. 大きい鍋を炉に掛ける。

hokkar < hok (買う) kar (為す)。買う。合成第Ⅰ類動詞。uimam an wa pirika tonoto an hokkar kushine. 交易に出かけて良い酒を買うつもりである。

homakochiwe < ho (尻) mak (後ろ) o (そこに) chiw (刺さる) e (他動詞化語尾) 後ずさりする。第Ⅱ類動詞。nea-kamui-ne-an-okkaipo i-kotcha kush-kushne-kusu homakochiwe-an. その神様のよう な 若者が私の前を通ろうとしたので後ずさりしました。女が男の求愛を受ける常套句

hopumpayar < hopumpa (hopuni「起きる」の主格複数形) yar (複数使役化語尾) 一人ならず二人以上の、またはたくさんの人を起こす。第Ⅰ類動詞。ekattara an hopumpayar. 子供たちを起こす。

hoshikir < ho (尻を) shikir (転ずる) 振り返る。第Ⅱ類動詞。kamui-utar i-ekota hoshikir wa ene-itaki. 神々は私に振り返って次のようにおっしゃった。

hoshibiek < hoshibi (帰る) ek (来る)。帰って来る。合成第Ⅱ類動詞。hembaraita an kor hanbe hoshibiek na. いつになったら父は帰って来て来るのだろうか。

hoyaikep-uk < hoyaikep (尻なぎ) uk (執る)。尻なぎを持っていく。第Ⅱ類動詞。anante-hoku hoyaikep-uk-ine ashin-wa-isam. 夫は尻なぎを執って出かけていないのです。

humash < hum (音) ash (出る) 音がする。主格三人称動詞。mun-sapte humiash-an. 掃除をする音がした。humi:humの所属形

humashi < humash (音がする) i (他動詞化語尾) 音を出す。第Ⅱ類動詞。haoyoppe humiashi-kor 'apkashi-an. 鎧の音を出しながら私は歩いた。

hup. 腫れる。主格三人称動詞。soya-chiwre-wa an-nanu hup-an. 蜂に刺されて顔が腫れた。

huraye < hui (獣の腹中の脂肪:パチャラー辞典) raye (押し出す) 洗う。第Ⅱ類動詞。pet-otta mipi huraye-an. 川で着物を洗う。

hure 赤くなっている。第Ⅱ類動詞。地名:Shum-ahurenai < shuma (石が) hure (赤くなっている) nai. (谷川): 赤川

hushko. 老いる。第Ⅱ類動詞。tane anokai

ka hushko an. もう私も老いてしまった。

I

i b e k i <ibe (食事) ki (する) 食事をする。
第Ⅱ類動詞。henbano hopuni wa ibeki. 早く起きて
食事をしなさい。第Ⅰ類用法:ibe an ki. 私は食事
をする。

i b e r e <ibe (食べる) re (単数使役化語尾) 食
べさす。第Ⅰ類動詞。ene-an kewtum-wen ainu humbe
rika an-ibere ya. あんな心根の悪い人間の子供に
鯨の脂肪を食べさせようか、そんなことはしたくない。

i b e s o m o k i <ibe (食事) somo (否定辞) ki
(為す). 食事をしない。第Ⅱ類動詞。ibesomoki an
kusu neno-satek-an. 食事をしないのでこのように瘦
せてしまった。第Ⅰ類用法:ibe an-somoki-kusu ne-
no-satek-an. 同上

i b e y a r <ibe (食べる) yar (複数使役化語尾)
人々に食べさす。第Ⅰ類動詞。ushiw utar an ibey-
ar. 召使達に食べさせる。

i e r a u s h i <i (それを「相互理解」) e (そこ
の) ra (下: 元の処) ushi (付ける) 元通りにする。
第Ⅰ類動詞。an-mipi an-ieraushi-wa sui hotke-an.
着物(寝巻き)元通りにして(乱れを直して)また
寝ました。

i e u t a n n e <i (その) e (そこで) utar
(仲間)ne (になる)。仲間になる。一員となる。第
Ⅱ類動詞。nen e iki yakne kamuimoshitta e-ieu-
tanne e eaikap nankoro. そんなことをしたら神界で
神の仲間になることはできないであります。

i k a r a n <i (我を) kar (成す) an (中相)
私はさせられる。kotan-kor-kur ikaran. 村長に私
はさせられている。私は村長である。

i k o k a n t a m a <i (人を) kokantama (騙す、
欺く)。人を騙す。第Ⅱ類動詞。chironnup ikokan-
tama yak-a-iyē. 狐は人を騙すということです。

i m e k k a r <imek (食べ物を椀に盛ること) kar
(為す、する) 食べ物を椀に盛る。第Ⅱ類動詞。imek
に同じ anonu i-imekar an. 母が私に食べ物をよそっ
てくれた。

i m e k k a r p a <imekka (盛) pa (①目的物複
数②主格複数③尊敬) ①たくさん盛る。pirika-amam
anonu i-imekarpa-an. おいしいご飯を母は私にたく
さん盛ってくれた。②ai-sa-utari i-imekka-
pa-an. 姉たちが私に給仕しました。③Nea-kamui-nean me-
noko i-imekka-
pa-an. その神なる女性が私に給仕し
て下さった。

i n a w a s h i <inaw (イナウ) ashi (立てる)
イナウを立てる。第Ⅱ類動詞。inawashi-an-wa ton-
oto an puni kane kamui-nomi-an. イナウを立て酒を
奉りつつ神に祈りを捧げる。万葉集 (3229). 『斎串
立て神酒坐奉る神主部のうずの玉かげ見ればともし
も』の句と酷似。

i o s h i k k o t e <i (私の) oshi (osh『中を』
の所属形) kote (結び付ける) 私に恋慕する。Ko-
shimpui-tono ioshikkote-an-na. 妖精の首領が私に
恋慕したのでした。

i t a k k u s h p a r e <itak (言葉) kush (通
る) pa (主格複数化語尾) re (使役化語尾) 言葉
を通す 祈る。第Ⅱ類動詞主格複数形。但し神謡に
おいて語り手は複数形で語る。tokor kamui itakku-
shpare an. 湖の神に私は祈る。

i t a k o k u s h <itak (言葉) okush (倒れる)
口論に負ける。第Ⅱ類動詞。an-huchi an-chacha it-
akokush-an. 私の祖母は私の叔父に口論に負けた。

i y e a s h i n <iyē (膿み) ashin (出る) 膿が
出る。pir-oma-ta an-rayē-yakne iyenu-ashin-an.
怪我のところを押すと膿が出た。

i y e o t <iyē (膿み) ot (ゴチャゴチャつく)
化膿する。ku-teke piri-oma-wa e-iyēot-an. 手を
怪我し、そこが化膿した。

K

k a. 撚る。合成語の中に現れる。

k a e k a <ka (糸) e (それで) ka (撚る)。糸を
撚る。第Ⅰ類動詞。anokai menoko ne kusu keshto
an kaeka-an. 私は女ですので毎日糸を撚っています。

k a m u i n e <kamui (神) ne (になる) 神になる。
第Ⅱ類動詞。nea-onne-chip kamuine-wa kanto-oro
rikin-an. その老船は神となって天へ昇っていった。

k a m u t a c h i k a r <kamutachi (麴) kar
(作る) 麴を作る。第Ⅱ類動詞。susukap usa an ta
ta ine kamutachikar an. 柳の皮やらを何度も叩い
て麴を作る(ウサギの言葉) 第Ⅰ類用法:kamutachi
an kar. 麴を私(たち)は作る。

k a r a n k e. 近づける、近寄らす。第Ⅰ類動詞。
ayubi okkai i-ko karanke somoki an. 兄は男を私
に近づけなかったな。

k a r i k a r i. ぶら下がる 第Ⅱ類動詞。i-resu-
yupi rekuchi-wa karikari-an. 育ての兄の首にぶら
下がる。妹が兄に甘えているときに用いる常套句。

k a r p a r e <kar (作る) pa (目的物複数語尾)
re (単数使役語尾) 人に沢山の物を作らせる。第Ⅰ
類動詞。anona i sake karpare. an. 父は私に沢山の

酒を造らせた。

karpayar <karpa(𪛗)yar (複数使役語尾) 人々に沢山の物を作らせる。anona 'ushiw utari sake karpayar an. 父は召使たちに沢山の酒を造らせた。

karushkar <karush(茸)kar(採る) 茸狩りをする。第Ⅱ類動詞。chuk-an-yakne karushkar an-kusu ekimun-paye-an. 秋になったらきのこ狩りに山へ行く。第Ⅰ類用法: karush an kar. 私は茸狩りをする。

kasure. 語源未詳。勝れている。第Ⅰ類動詞。anaki anak-ne nep-ki-yakka i-akkari kasure. 弟は何をしても私より勝れている。

kem. 嘗める。第Ⅰ類動詞。itanki-kem-ashikepet (腕を・嘗める・指) 人差し指。食事の際、右手の人差し指を『コ』の字に曲げて腕の中に入れ、中の食べ物をその上に盛って食べる。そしてその後指に残っている食べ物を衣服や頭髮に付ける。着物は寒さからまた女性であれば羞恥から身を守ってくれる。着物にはchi-mip-ush-kamui (着物に付いている神)が憑いているので供物を捧げるのである。脳の血管は細くそして寒さに弱いという。それを守ってくれるのが頭髮である。この動作はアイヌにとって厳粛な『祈り』であった。しかし日本人にはそれが理解できなく、ためにアイヌは『不潔である』という偏見ができてしまった。

keoshsak <kew(骨)osh(中)sak(無い) ①元気がない。疲労困憊している。形容詞、第Ⅱ類動詞。eikoshi apkash an kusu neno keoshsak-an. 歩きすぎてこのように疲労困憊している。②痩せこける。setakko ibe-an ka somoki kusu neno keoshsak-an. 永いこと食事を執らなかったのがこのように痩せこけてしまった。

kepare <ke(削る)pa(目的物複数)re(単数使役語尾) 人につならず二つ以上、もしくはたくさん削らせる。anona ianw i-kepare. 父はイナウを私に一本ならず二本以上もしくはたくさん削らせる。

kepayar <ke(削る)pa(目的物複数)yar(複数使役語尾) 人々に一本ならず二本以上、もしくはたくさんを削らせる。anona ikushpe i-kepayar. 父は一本ならず二本以上もしくはたくさんの柱を私たちに削らせる。

kerapirika <kera(味)pirika(良い)。美味しい。主格三人称動詞。tan-chep sonno kera-pirika-na. この魚は本当に美味しい。

kerawen <kera(味)wen(悪い)。不味い。

主格三人称動詞。tam-kami kerawen. この肉は不味い。

keriushi <keri(靴)ushi(身につける)。靴を履く。第Ⅱ類動詞。keriushi-an wa ekimun paye-an. 靴を履いて狩猟に行く。第Ⅰ類用法: kerianushi. 私は靴を履く。

ketushikar <ketushi(婦人の身の回りの品を入れる幅60センチ長さ90センチ程の蒲の茎で作った靴で、通常自分の身の回りに置いておくが旅行や嫁に行くときこれに縄を掛け額から背に負って持つて行く)kar(作る)。ケトゥシを作る。第Ⅱ類動詞。

anokai menoko ne kusu shikina kar wa sakte wa ne an be ani ketushkar an. 私は女ですので蒲を刈り、干してそれでケトゥシを作ります。第Ⅰ類用法: ketushi an kar. 我ケトゥシを作る。

kimwen <kimui(頭)wen(悪い)。不安に思う。第Ⅱ類動詞。

kinacha <kina(草)cha(刈る) 草刈りをする。第Ⅱ類動詞。nisatta kina-toi-ta kinacha an. 明日草原で草刈りをする。この場合のkinaは蒲、菅のこと。第Ⅰ類動詞用法: nisatta kina-toi-ta kina-an-cha. 同上。

kipare <ki(する)pa(目的物複数形)re(単数使役語尾) 人につならず二つ以上、もしくはたくさんのことをさせる。oshike wen iresu unaru-be i-kipare-kor-an. 心根の悪い育ての叔母は私にたくさんのことをさせていました。

kipayar <kipa(↑)yar(複数使役語尾) 人々に一つならず二つ以上、もしくはたくさんのことをさせる。nea nishpa ne kur 'ushiwutar usa an be kipayar. その富者の如き者は召使たちにいろいろなことをさせている。

kirapa <kira(逃げる)pa(主格複数語尾) 複数の者、物が逃げる。第Ⅱ類動詞主格複数形。

kirare <kira(逃げる)re(単数使役語尾) 人、物を逃がす。第Ⅰ類動詞。nen kamui i-kirare an-na. いづれの神が私を逃がしてくれた。

kire <ki(する)re(単数使役語尾) 人にさせる。第Ⅰ類動詞。Nep-e-i-kire? あなたは私に何をさせるのか。

kiru. 転覆させる。ひっくり返す。荒らす。第Ⅰ類動詞。ainu-kotan chi-kiru-kuni an-ram-an. 人間の村をひっくり返してやろうと思っている。

kisa. 擦る。合成語に現れる。chikisani <chi(我等)kisa(擦る)ni(木) 火を起こす木。ハル楡。

kito <邦語「祈祷蒜」行者ニンニク。アイヌ語では「pukusa」という。

kitoetaye <kito(𪛗)etaye(引き抜く)

行者ニンニクを引き抜く。第Ⅱ類動詞。恋占い:引き抜いた根に古い皮と一緒に付いて抜けたら恋人に巡り合え、上の方の新しい葉より抜けてくると合えない。(参考資料: 更科源蔵著 アイヌ文学の生活誌 日本放送出版界発行)

kiyar <ki (する) yar (使役複数接尾辞) 人々にさせる。第Ⅰ類動詞。ai-sa nepka ki ka somoki-no ushiwutarihi kiyar-an. 姉は何にもせずに召し使いたちにさせていた。

koitak <ko (～に対して) itak (話す) ～へ話す。第Ⅰ類動詞。an-e-koitak kusu pirikano i-nu. あなたに話しますのでよく聞きなさい。

komo <kom (曲がる) o (他動詞化語尾) ①折り曲げる。第Ⅰ類動詞。ni-tek an-komo-wa an-kaye-an. 枝を折り曲げて折った。②引っ込める。an-pon-po raike-an-irushka an-komo-eaikap-an. わが子を殺された怒りを引っ込めることはできない。

komore <komo (曲) re (単数使役化語尾) 人に折り曲げさせる。ayubi ku i-komore an. 兄は私に弓を折り曲げさせた。

kompa <komo (曲) pa (目的物複数) 一本ならず二本以上、もしくはたくさんの物を曲げる。第Ⅰ類動詞。satni an-kompa-wa an hokao. 乾いた木を一本ならず二本以上折り曲げて火にくべる。

kompayar <kompa (曲) yar (複数使役化語尾) 人々に一本ならず二本以上、もしくはたくさんの物を折り曲げさせる。anona ku i-kompayar. 父は弓を私たちに折り曲げさせた。

konchiekam <konchi (邦語: 巾子) ekamu (被る) 頭巾を被る。第Ⅱ類動詞。konchiekam an. 我頭巾を被る。第Ⅰ類用法: konchi-an-ekam. 同上。

konuina <ko (～に) nuina (隠す) ～を隠す。第Ⅰ類動詞。wen-kamiash ek-yakaiye-kusu shinto-ko osh-ke an-e-konuina kushne. 恐ろしい魔神がやって来るということなので行器の中にお前を隠すつもりです。

kooman <ko (～へ) oman (行く) ～へ行く。第Ⅰ類動詞。tuima-kotan an-kooman. 遠くの村へ行く。第Ⅱ類用法: tuima-kotan-ta oman-an. 同上。

kooripak <ko (～に対して) oripak (恐れ憚る) ～を恐れ憚る。第Ⅰ類動詞。oina-kamui an kooripak-kane a-wa-an. オイナ神を恐れ憚りつつ座っていました。

koramkor <ko (「と共に」の意味の接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) ramkor (性行為をする) ～と性交する。第Ⅰ類動詞。an e-koramkon rusui. あなたと性交したい。i-koramkon na. 私と性交しま

しょう。
koranke <kore (与える) ranke (反復態語尾) 何度も与える。与え続ける。第Ⅰ類動詞。an t-ekekarpe an-e-koranke kushne. 私の手芸品をあなたに与え続けるつもりです。

koraoshma <ko (位置を示す接辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える。～へ) ra (低) oshma (瞬間態接尾辞) 急に下る。第Ⅰ類動詞。atui-asam an-koraoshma. 海の底へ下った。海の底へ潜っていった。

korar <kor (持つ) yar (複数使役接尾辞: 子音で終わる語幹の前ではarの形をとる。) ①一人ならず二人以上の者をして所有さす。第Ⅰ類動詞。ainu utar shito an-korar. 人々に染を私は与える。

korarpa <kor (持つ) ar (複数使役接尾辞) pa (目的物複数語尾) 第Ⅰ類動詞。人々に沢山の物を与える。korpayar に同じ。

kore <kor (持つ) re (単数使役化語尾) rr の発音がないので「kore」となる。持たしむ。①与える。文語例/ne-an-be e-i-kore. それをあなたは私にくれる。口語例/ne-an-be e-en-kore. 同上。②結婚させる。an kor ponpe repun kamui an kore kushne. 私の子供をシャチ神に嫁がせようと思う。

korek <kor (持つ) ek (来る) 持って来る。合成第Ⅰ類動詞。aisa nep-an-be-ka i-samta korek an. 姉は何かを私の側に持って来た。

korikoshma <ko (それに向かつての意の接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) rik (高いところ) oshma (瞬間体語尾) 急いで上る。第Ⅰ類動詞。kanto-oro an-korikoshma-a. 天へ私は急いで上った。

koroman <kor (持つ) oman (行く) 持って行く。第Ⅰ類合成動詞。atui-kor-kamui ekota isepo sampe an koroman. 海の神のところへ兎の心臓を持って行く。

korpayar <kor (持つ) pa (目的物複数) yar (複数使役化語尾) たくさんのものをたくさんの人に与える。kotan kor kur chep utarihi korpayar an. 村長はたくさんの魚を村人達に与えた。

korsap <kor (持つ) sap (san 「下る」の主格複数) 持ちて下る。第Ⅰ類動詞。chikoikip an korsap. 我ら獲物を持ちて山を下る。

kosan <ko (「それ」に向かつてという意の接辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) san (山から下る) そこへ山から下る。第Ⅰ類動詞。an-machi ihoppa-ine shinenne an-chise kosan. 妻は私を置いて一人で家へ山から下った。

kosanke <ko (「それ」に向かつてという意の接辞) sanke (下す) そこに下す。第Ⅰ類動詞。ekor

-katkemat ainuutar ainu-kotan kosanke-na. おま
えの奥さん(罷)をアイヌ達は自分の村へ下した(連
れて行った)

koshikir <ko (～に向かって: 第Ⅱ類を第
Ⅰ類に変える) shi (再帰) kiru (転ずる) ~の方
を見る。第Ⅰ類動詞。apa an-koshikiru. 戸口の方
を私は見る。

kosomoyaikatanu <ko (～に対して:
第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) somo (否定辞) katanu (恐
れ憚る) 恐れ憚ることをしない。失礼なことをする。
第Ⅰ類動詞。shi-pase-kamui an-kosomoyaikatanu.
最高神に私は失礼なことをしてしまった。

kotom. 似合いである。相応しい。第Ⅱ類動詞。
repun-kamui-anakne chi-kor-ponpe kotom. 沖の神は
私の子供に似合いである。

koyaikatanu <ko (～に対して) yaika-
tanu (慎み深くする) 神、人に対して慎み深くする。
第Ⅰ類動詞。chacha-kamui an-koyaikatanu-an. 翁
神に私は慎み深くしていました。

kuchakar <kucha (狩り小屋) kar (造る)
狩り小屋を造る。第Ⅱ類動詞。kenash noshke-ta
kuchakar an wa neita reush-an. 木原の真ん中に狩
り小屋を造ってそこで泊まった。第Ⅰ類用法: Kucha-
an-kar. 狩り小屋を造る。

kuchiri <kuchir (小便) i (他動詞化語尾)
小便を垂らす。第Ⅰ類動詞。Penambe an-chise apa
samne kuchiri-tek kira-an. ペナンペは我が家の入
り口の側に小便を垂れて逃げた。

kupare <ku (飲む) pa (目的物複数) re (単
数使役化語尾) 人にたくさん飲ませる。第Ⅰ類動詞。
文語用例: ne-kur tonoto i-kupare. その方は私に(た
くさん) 酒を飲ませた。口語用例: ne kur tonoto
poronno en kure an. 同上

kushratki <kush (通る) ratki (下がる)
立ち籠む。主格三人称合成動詞。chise onnai ta r-
etar urar e-kushratki na. 家の中に白い霧が立ち籠
んでいた。

ku'tchikar <ku'tchi (猿梨の果実: コクワ
の果実) kar (採取する) コクワを採る。第Ⅱ類動詞。
chuk an ita kimta ku'tchikar an. 秋に山でコクワ
を採る。第Ⅰ類用法: ku'tchi an kar. 我コクワを採
る。

kuyar <ku (飲む) yar (使役複数化語尾) 二
人以上の人に、もしくはたくさんの人に飲ませる。
第Ⅰ類動詞。nea nishpa an utari tonoto kuyar.
あの富者は私たちに酒を飲ませる。

M

machiosura <machi (mat 『女』の人称形
で妻の意) osura (捨てる) 妻と離縁する。第Ⅱ類
動詞。machiosura-an. 私は妻と離縁した。第Ⅰ類動
詞用法: machi an osura. 同上。

makirisanke <makiri (小刀) sanke (取
り出す) 小刀を取り出す。第Ⅱ類動詞。makirisanke
an-wa ikushipe an-otke. 小刀を取り出して私は柱
を突き刺した。第Ⅰ類用法: makiri ai-sanke. 私は
小刀を取り出す。

mawa. 飢えている。第Ⅱ類動詞。mawa chikoik-
ip. 飢えたる獣。

menukuri <me (寒さ) nukuri (嫌う) 寒
さを嫌う。寒いのが嫌い。第Ⅱ類動詞。menukuri-an.
私は寒いのが嫌いです。第Ⅰ類用法: me an nukuri.
同上。

mewkosanu <mew (欠き砕ける) kosanu (瞬
間態語尾) 直に欠き砕ける。音を立てながら直に崩
れ落ちる。kai koban chikuni anakne oushike wano
mewkosanu an. 折れたくない立ち木は根本から音を
立てながら直に崩れ落ちた。

minayar <mina (笑う) yar (複数使役化語尾)
人々を笑わす。ainu minayar monraike ku ki kush-
ne na. 人々を笑わす仕事をするつもりです。

mokorar <mokor (眠る) ar (複数使役化語
尾) 人々を寝せる。第Ⅰ類動詞。an-kor ekattara
an mokorar orowa monraike an. 子供たちを寝せて
から仕事する。

mondabi. 忙しい。第Ⅱ類動詞。nisatta mo-
ndaibi-an-nankoro. 明日私は忙しくなるであろう。

mondabire <mondabi (忙しい) re (単数使
役化語尾) 人々を忙しくさせる。Nep-kusu neno e-i-
mondabire. 何故このようにあなたは私を忙しくさせ
るのですか。

moshirhori <moshir (大地) hori (遺す。
後にする)。死ぬ。第Ⅱ類動詞主格単数形。moshir-
hori an yakne eshi tootekno okai ya. 私が死んで
もあなたがたは元気に暮らさない。第Ⅰ類用法: mo-
shir an hori. 我死す。

moshkar <mosh (葎) kar (刈る) 葎を刈
る。第Ⅱ類動詞。獲物 (獣、魚) を安置させる草を
刈り取る。Moshkar-an-kor an-hoku an-tere-an. 魚
を安置させる草を刈りながら夫を待っています。

moshkarpa <moshkar (葎) pa (主格三人称
複数語尾) 葎を刈る。主格三人称複数動詞。ainu u-
tara moshkarpa-wa mosh-ka-ta iama-an. 人間たちは

魚を安置させる草を刈り取りその上に私たち（鮭）を置いてくれます。

N

nanuattere <nanu (顔) atte(懸ける) re (使役化語尾) 瓜二つである。第Ⅱ類動詞。e kor matne ekatchi e saha nanuattere na. あなたの娘さんはあなたのお姉さんと瓜二つですね。

nibeki. 輝く。第Ⅱ類動詞。nea kamui sasuni okkaipo nanu nibeki na. その神出の若者の顔は輝いていた。

nimakaka <nimak (歯) maka (開ける) 歯をむき出してしかめ面をする。第Ⅱ類動詞。Nea wen-kamiashi nimakaka kor rok an. その魔神は歯をむき出してしかめ面をしながら座っていた。

nina <ni (薪) na (拾う)。薪を採る。第Ⅱ類動詞。mat-ne-an-kusu nina-ash-kor-an. 私は女ですので薪採りをしています。

ninka <nin (消える) ka (他動詞化語尾) 消す。第Ⅰ類動詞。Nep ainuhu upashi ninka eashikai ru we? 一体如何なる人が雪を消せるというのだ。

ninninke <ninnin (息が絶え絶えになること) ke (動詞化語尾) 息が絶え絶えになる。第Ⅱ類動詞。tasu ninninke-an kor hohupu an. 息も絶え絶えになりながら私は走る。

ninuy. 枕をする。第Ⅱ類動詞。an-teke nin-uy-kor mokor-an. 手を枕にして眠る。

nisattaan <nisatta(夜明け)an(になる) 翌朝になる。翌日になる。'oar-mokor an ka somokino an hoku tere yakne tane nisatta-an. 一睡もせずに夫を待っていたら翌日になった。

nise <ni (『擬声語』か?) se (動詞化語尾) 掬う。第Ⅰ類動詞。atui wakka an-nise-wa yata an e-ama. 海水を掬い陸に置いた。

nisewkar <nisew (ドングリ) kar (採る) ドングリ採りをする。第Ⅱ類動詞。chuk an yakne nisewkar an ro. 秋になったらドングリを採りましょう。第Ⅰ類用法:nisew an kar. 我(等) ドングリ採りをする。

nitara. 語源未詳。からかう。第Ⅰ類動詞。口語用例:Kuani ipokash ne kusu ainu opitta en nitara. 私は醜いのでみんな私をからかうのです。

niwkesh. ①困窮する。第Ⅰ類動詞。nep ka an-e-p isam kusu an niwkesh. 何にも食べ物がないので困窮しています。②忍びない。e-raike an nukar an e-niwkesh kusu okure kira ya. あなたが殺さ

れるのを見るのは忍びないので早く逃げなさい。

nokanuye <noka (絵) nuye (描く) 絵を描く。第Ⅱ類動詞。apeoi una kata an kor kotan noka (ha) nuye an. 炉の灰の上に我が村の風景を我描く。第Ⅰ類用法:noka an nuye. 私は描く。

nokoshke. やきもちを焼く。恠気する。第Ⅱ類動詞。an hoku ikka kamui menoko nokoshke-an. 夫を奪った神の女に私はやきもちを焼いている。

nonoe. 語源未詳。狙う。狙いをつける。第Ⅰ類動詞。nea yuk an nonoe wa i-chotcha an. その鹿に狙いをつけて矢を放つ。

noy. 振れている。第Ⅱ類動詞。

noye <noy(振る)e (他動詞化語尾) 振る。第Ⅰ類動詞。chinoyetatni<chi (汎称) noye (振る) tatni (白樺) 燈明。tatni an noye wa sune an kar. 白樺の樹皮を振って松明を作る。

nukarar <nukar (見る) yar (複数使役複数形) 人々に見せる。第Ⅰ類動詞。kanto orowa ratki kambi ai sa i-nukarar an. 天から降りて来た手紙を姉は私達に見せた。

nukuri. 嫌う。嫌になる。第Ⅰ類動詞。nep kip nukuri an. 何をするのも私は嫌である。

num. 吸う。第Ⅰ類動詞。Shishpe to num. 赤ん坊は乳を吸う。

nupayar <nu (聞く) pa (目的物複数) yar (複数使役化語尾) 人々にたくさん聞かす。第Ⅰ類動詞。Kina huchi oina ne wa tuitak ne wa i nupayar an. キナおばあさんはオイナやらトゥイタックやらを私どもにたくさん聞かせてくれた。

nuyar <nu (聞く) yar (複数使役語尾) 単数のものを一人ならず二人以上もしくはたくさんの人々に聞かす。第Ⅰ類動詞。poro chise otta an kor huchi tuitak nuyar an. 大きな家で私の祖母はトゥイタックを大勢の人に聞かせた。

nuye. ①彫る、紋様を描く。第Ⅰ類動詞。Kesh-to-an-kor shirka-nuye emushka-nuye an-kor-oka-an. 毎日刀の鞘に紋様を描いています。男神々の天界での様子を示す常套句。shirika-nuye, emushka-nuyeは第Ⅱ類動詞。②書く。kambi an-nuye-kor-an. 私は手紙を書いています。

nuyuike. こぼす。第Ⅰ類動詞。Tonoto itanki orowa an: nuyuike pakno omare yan. 酒を椀からこぼれる程入れて下さい。an: 中相

O

o. 付いている。主格三人称動詞。地名:ruope' t<ru (道)o (付いている) pe't (川)

o a r i k i < o (『そこへ』の意味の指相接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) ariki (来る: 主格複数形) そこへ複数の人が来る。第Ⅰ類動詞。Nea-kotan an oariki. 我らはその村へ来る。第Ⅰ類用法: Nea-kotan-ta ariki-an. 同上

o e k < o (『そこへ』の意味の指相接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) ek (来る: 主格単数形) そこへ来る。第Ⅰ類動詞。Nea-kotan an-oek. その村に私は来る。第Ⅱ類用法: Nea-kotan-ta ek-an. 同上

' o h o. 深くなっている。主格三人称動詞。地名: 'oho (深くなっている) nai (谷川)

o k u i m a p a < okuima (放尿する) pa (主格複数) 放尿する。主格複数第Ⅱ類動詞。chikap-utara ikashke-ta okuimapa-an. 鳥たちが私の上に放尿した。

o m k e p a < omke (咳をする) pa (主格複数化語尾) 主格複数第Ⅱ類動詞。複数の者が咳をする。

o o m a n < o (『そこへ』という意味の指相接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) oman (行く: 主格単数形) そこへ行く。第Ⅰ類動詞。Nea-kotan an-ooman. その村へ我行く。第Ⅱ類用法: Ne-kotan-ta oman-an. 同上

o p k e p a < opke (おならをする) pa (主格複数化語尾) 主格複数第Ⅱ類動詞。複数の者がおならをする。

o r a m s a k < o (そのことに就いて) ram (知識) sak (無い) 何も知らない。愚かである。第Ⅱ類動詞。

o r a m s a k k a < oramsak (馬鹿) ka (他動詞化語尾) 愚かにする。馬鹿にする。第Ⅰ類動詞。nep k-usu eani en neno oramsakka ruwe? どうしてあなたは私をそんなに馬鹿にするのですか。

o r a n < o (位置を示す接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) ran (下る) そこへ下る。第Ⅰ類動詞。ainu-moshir an-oran. 人間界へ私は下る。第Ⅱ類用法: ainu-moshitta ran-an. 同上

o r i k i n < o (『そこへ』の意味を表す指相接頭辞で第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) rikin (昇る: 主格複数形) そこへ昇る。第Ⅰ類動詞。wen kut an-orikin. 険しい崖を我昇る。第Ⅱ類用法: wen kut-kari rikin-an. 同上

o r i k i p < o (主格複数形) rikip (rikinの主格複数形) そこへ複数の人が昇る。第Ⅰ類動詞。kanto an-orikip. 天へ我ら昇る。第Ⅱ類用法: kanto-oro rikip-an. 同上

o r i p a k p a < oripak (慎み深くする) pa (主格複数化語尾) 複数の者が慎み深くする。第Ⅱ類動詞。oripak-an-kane rok-an. 私たちは慎み深く座っていました。神謡において、語り手は第一人称複数

形を用いるので「私は慎み深く座っていた」の意味になる。

o s e < o (『そこへ』という意味の指相接頭辞) se (背を向ける) そこへ背を向ける。第Ⅰ類動詞。ano-naha keshto an-kor nepka-ki-ka somokino ape-ose patek-an. 父は毎日何もせず背中あぶりばかりしている。

o s h i k e 編む。第Ⅰ類動詞。ya-an-oshike. 私は網を編む。yaoshikep<ya(網を)oshike (編む) p (者) 蜘蛛。

o s h i k i r u < ho (尻) shikiru (前後・左右・上下の向きを変える) ①ふり返る。第Ⅱ類動詞。①nea kamu i-ekota oshikiru-a-wa ene itaki. その神は私にふり返って次のようにおっしゃるのです。②向かう。ekimun oshikiru-an. 山へ私は向かう。

o s h i t t e s u < o (尻が) shir (大地を) tesu (迂る) ツルッと迂る。迂って転ぶ。第Ⅱ類動詞。rutomotuye ita oshttesu-an. 道を横切ったとき迂って転んだ。

o t o p o h o r k a < otopo (頭髮) horka (逆戻りする)。小鳥が昇ったと思ったら下り、下ったと思ったら昇ったりする。主格三人称動詞。chibiyak kanto hanke ta pakno rikin wa otopohoroka an. シギが天の近くまで昇って逆戻りした。

o w a r i s a m < o (そこから) w (挿入音) ar (まったく) isam (無くなる) そこから何処かへ出かけてまったくなくなる。主格三人称動詞。nea seta too ashin-wa owarisam. その犬は遠くへ行ってそこからいなくなった。

o y a k e n e - a m a < oya (別の) ke (処) ne (へ) ama (置く) 物を除ける。別な処へ置く。第Ⅰ類動詞。nean-be neitaka oyakene-ama. それを何処か別な処に置きなさい。

P

p a e k o i k i < pa (口) e (それで) koiki (戦う)。口喧嘩をする。第Ⅰ類動詞。ta-an umurekkur pael-koiki patek-an. あの夫婦は口喧嘩ばかりしている。

p a e o t k e < pa (頭) e (そこへ) otke (突く) 頭を入れる。第Ⅰ類動詞。an-mipi attusa an-e-paeotke-kor-wa nea-chacha ne-kon-iki-hi nukaru-an. 夜具の片方の袖に頭を入れてそのお爺さんがどうするのかを見ていた。

p a e t o k < pa (口) etok (出る)。雄弁である。第Ⅱ類動詞。paetok rusui-an. 雄弁になりたい。tan kotan kon nishpa paetok wa rameun. あの村長は雄弁でしかも度胸がある。

pak. どの程度であるかを推し量る。比較する、比べる。第Ⅰ類動詞。u-nupur-pak-anroh. 巫術比べをしましょう。

paknoan < pakno (量) an (ある) それ程になる。一人前となる。第Ⅱ類動詞。akor matnepo t-ane paknoan. 我が娘も今や一人前になった。

panaye < pa (口) naye (条を入れる) 口に入れ墨を彫る。第Ⅱ類動詞。teeta-kane menoko-utara panaye. その昔女たちは口に入れ墨を彫った。meno-ko-utara machiya-ekota paye ita panaye e-ukao kor paye-yakaiye. 女たちは街へ出掛けるとき、口に入れ墨を隠しながら出掛けたいことです。第Ⅰ類用法: pa-an-naye. 私は口に入れ墨を彫る。

para 広がっている。主格三人称動詞。地名: para moi < para (広がっている) moi (湾)

paraparakkore < paraparak (ワーワー泣く) kor (つつ) e (使役化語尾) ワーワー泣かせる。第Ⅰ類動詞。nea poi seta an kikki wa an paraparakkore hoshibi-an. その子犬を叩いてワーワー泣かせながら帰った。

pariraat < parira (湯気) at (立つ) 湯気が立っている。su-orowa parira-at-wa keraan hura an nu. 鍋から湯気がたつてうまそうな匂いがしている。

paru. 飛び散る。第Ⅱ類動詞。Shitumbe-kamui mun-paru-neno koshne-tereke-an. 狐神は草が飛び散るように軽々と飛び跳ねていた。

pechan < 邦語: ペチャンコ? 瘦せている。第Ⅱ類動詞。pechan-rusui-an. 私は瘦せたい。

pesh. 沿って下る。主格三人称動詞。地名: ru-peshpe < ru (道) pesh (沿って下る) pe (処) 山越えをするときに通る沢で道内いたところにある。chipeshnai < chi (不体称) pesh (それに沿って下る) nai (沢)

pettura < pe't (川を) tura (伴う) 川沿いに上る。第Ⅱ類動詞。pettura-ash. 私は川沿いに上る。

pewtanke annu < pewtanke (語源未詳。変事を知らせるために女性がかん高い声でウオーイ、ウオーイと発する叫び。) an (不定称) nu (聞く) ペウタンケが聞こえる。nep-ka wenpe an kotom an kusu pewtanke an nu. 何か恐ろしいことがあったらしくペウタンケが聞こえる。

pichari < pi (種) chari (蒔く)。種を蒔く。第Ⅱ類動詞。piyapa-pichar-an. 稗の種を蒔く。第Ⅰ類用法: piyapa-pi an-chari. 同上

picharpa < pichari (量) pa (①目的物複数 ②主格三人称複数 ③尊敬) 第Ⅱ類動詞。①poro toi

an kusu picharpa-an kush-ne. 大きな畑があるので種をたくさん蒔こう。②ainu-utar picharpa. 人々は種蒔きをする。③ekash-ka picharpa-na. 翁も種蒔きをされている。

pikkokishma < pi (ちょっと) ko (反意語) kishma (掴む) きつく抱き締める。第Ⅰ類動詞。

pinopoiye < pinopo (小声で) iye (言う) 囁く。第Ⅰ類動詞。nen-ka an-kisara-ta pinopo-iye-an. 誰かが私の耳元で囁いた。

pirakkaushi < pirakka (下駄) ushi (付ける) 下駄を履く。第Ⅱ類動詞。pirakkaushi-an. 私は下駄を履く。第Ⅰ類用法: oirakka an-ushi. 同上

pirikanoakayan < pirika (よい) no (連用形化語尾) oka (居る) yan (軽い命令形) 去る者が残る者に対する別れの挨拶。お気をつけて。

pirikare < pirika (よい) re (使役化語尾) よくさせる。よくする。第Ⅰ類動詞。an-kor kotan pirikare yan. 私たちの村をよくしましょう。

pishke. ①一つづつ取り出す。第Ⅰ類動詞。saranip orowa turep an pishke an. サラニップの中からウバユリを一つづつ取り出していた。②数える。第Ⅰ類動詞。tan-ekatchi na re-pa an-koroka tane i-pishke eashai-na. この子はまだ三才なのですがもう数を数えることができます。③数。名詞。e-ko-iki chep pish henbakpe an? 魚を何匹捕らえましたか。

piwki. 荒れ狂う。熊等が襲ってくる。第Ⅱ類動詞。地名: piwkinai < piwki (水がどっと押し寄せる) nai (谷川) 知里真志保全集第3巻 p329 平凡社

poike. 混じる。第Ⅱ類動詞。an-kor-'okai-ekatchi matkachi-utara poike-wa shinot-an. 私の男の子は女の子たちに混じって遊んでいる。

poipa < poye (混ぜる) pa (目的物複数) たくさん混ぜる。第Ⅰ類動詞。ta-an-kur tonoto wakka ekota poipa wa iku. あの方は酒に水をたくさん混ぜて飲むのです。

pokash < pok (下) ash (立つ) 劣る。第Ⅱ類動詞。合成語の中に現れる。ipokash < i (それ: 美貌) pokas- h (劣る)。醜い。ipokash menoko. 醜女。

ponepase < pone (邦語「骨」) pase (重い) 病気や老衰などで体が言うことを聞かなくなる。第Ⅱ類動詞。Tane onne-an-wa ponepase-an-kusu nep-kip ka ponepase-an. もう年を取ってしまったので何をしても体が言うことを聞いてくれない。

poro < pono < ponu < po (子供) nu (持っている) 親である、親の。年老いた、大きい (知里真志保編著: 地名アイヌ語小辞典。「pon」の項) 大きくなる。

第Ⅱ類動詞。Tane ponno poro-an. 今では私は少し大きくなりました。

pos. ①通る。第Ⅱ類動詞。①keme nitai choro-pok horkew kamui pos an. 榛の木の林の下を狼神は通った。②通り越す。yaunkur atui pos-an wa repunkur atui an oshima an. 陸の人の海を通り越えて沖の人の海へ入った。

poye. 混ぜる。第Ⅰ類動詞。amam-ekota ratashkep an-poye-wa suke-an. 米に山菜を混ぜて料理する。

pummakar <pumma (邦語: 分米) kar (作り為す) 支払う。第Ⅱ類動詞。e-unu ninakur-ka wakatakur-ka pummakar. おまへの母は薪を取る人にも水汲みをする人にもお金を払う。

puita <pui (エゾノリュウキンカの根) ta (掘る) エゾノリュウキンカの根を掘る。第Ⅱ類動詞。chuk an ita puita an. 秋に我(々)はエゾノリュウキンカの根を掘る。第Ⅰ類用法: pui an ta. 我(々)はエゾノリュウキンカの根を掘る。

pikusaetaye <pukusa (行者ニンニク) etaye (引き抜く)。行者ニンニクを引き抜く。恋を占う。第Ⅱ類動詞。春に行者ニンニクを引いたとき去年の古い皮が付いたまま抜けるとその恋は成就し、新しい葉より抜けるとその恋は実らないという。参考資料: 更科源蔵著アイヌ文学の生活誌。p47. NHK出版会

pummakore <pumma (邦語「分米」) kore (与える) 支払う。第Ⅱ類動詞。wakka ta kur ka nina kur ka pummakore an. 水を汲む者にも薪を取る者にも我(々)は支払う。第Ⅰ類動詞用法: pumma an kore. 我(々)は支払う。

push. 擬声語: バーンという音がする。主格三人称動詞。pushpe <push (バーンという音がする) pe (物) 鉄砲

pushkosanu <push (ㇿ) kosanu (一回態語尾)。主格三人称動詞。バーンと一回音がする。nea ni tai oshketa pushkosanu-an. その林の中でバーンと一回音がした。

putamaka <puta (邦語「蓋」) maka (開ける)。蓋を開ける。第Ⅱ類動詞。su putamaka an. 鍋の蓋を我開ける。第Ⅰ類用法: su puta an maka. 同上

putatusse <puta (ㇿ) tusse (勢いよく開ける) 蓋を勢いよく開ける。第Ⅱ類動詞。kanka putatusse an ike neita poro suma an ama an. 上の蓋を勢いよく開けるとそこに大きな石があった。第Ⅰ類用法: puta an tusseka. 蓋を我勢いよく開ける。

putaushi <puta (蓋) ushi (被せる) 蓋をする。第Ⅱ類動詞。shintoko putaushi-an. シントコに蓋をする。第Ⅰ類用法: puta-an-ushi. 我蓋をする。

R

raikeokere <raike (殺す) okere (完了態語尾) 殺してしまう。第Ⅰ類動詞。otasutunkur an raikeokere kuni an ram-kor san-an. オタスト人を殺してしまおうと思いつつ山を下った。

raikepa <raike (殺す) pa (①目的物複数②主格三人称複数③尊敬) ①たくさん捕る。たくさん殺す。第Ⅰ類動詞。chep an-raikepa. 私は魚をたくさん捕る。②a-yubi-utari chep-raikepa-kor-an. 兄たちは魚を捕っていた。③kimun-kamui chep-raikepa-an. 熊神は魚をお捕りになった。

raikor <rai (死ぬ) kor (進行形語尾: つつある)。死につつある。瀕死の状態である。第Ⅱ類動詞。tane atui kor matnepo raikor yak a iye. 海の神の娘が瀕死の状態であるということである。

ram. 低い、低くなっている。第Ⅱ類動詞。kewe ram an. 我背が低い。地名: orannai <o (河口が) ram (低くなっている) nai (沢)

ramkor <ram (心) kor (持つ) 同意する。(性行為を) 合意する。第Ⅱ類動詞。e-ramkor an rusui. あなたと性行為をしたい。

ramtuika <ramtui (驚く) ka (使役化語尾) 驚かす。びっくりさせる。第Ⅰ類動詞。moshim-ano an kor an chise ta hoshi-pi-an-wa anonu-ka anona-ka an-ramtuika-kushne. 黙って家へ帰って父と母をびっくりさせてやろう。

ramtuipa <ramtui (驚く) pa (主格複数形化語尾) 一人ならず二人上の人が驚く。第Ⅱ類動詞。kamui utar ankarpe nukarpa wa ramtuipa an. 神々は私の造った物を見て驚いた。

ramuap <ramu (思う) a (主格単数完了の助動詞) p (反意語尾) 思ったのであったが。nea-kur ekatchi ne-tek an ramuap. その方を子供だと私は思っていたのであったが(実はそうではなかった。)

ramruokpe <ramu (ㇿ) rok (主格複数完了の助動詞) pe (反意語尾) 思ったのであったが。nenno an ramu rokpe... そう私達は思ったのであったが(実際は違っていた)

rapte <rap (ran「下る」の主格複数形) te (単数使役語尾) 単数の者に一つならず、二つ以上、もしくはたくさん下げる、下す。kanto or un kamui i-ikor rapte-an na. 天の神様が私にたくさんの宝物を下したのでした。

rapyar < rap (𐰺) yar (複数使役語尾) 複数の者に一つならず二つ以上、もしくはたくさん下す。kanto oro un kamui i-usa ikoro rapyar an na. 天の神様が私たちに色々な宝物を下されたのでした。

ra'tchike < ratki (ぶら下がる) ke (他動詞化語尾) 吊す。ぶら下げる。第I類動詞。poro shirar ainu netopake epitta kompu ra'tchike ka-ne ek-an. 大きな岩のような人間が体中に昆布をぶら下げてやって来た。

rauiruke < ra (低く) uiruke (置く) 杯や碗を下げる。第I類動詞 itanki an-uk-ine an rik-uiruke wa an rauiruke wa an-ko-onkami wa an-ku ruwene. 碗を受け取り高く戴き低く戴いて礼拝をして我飲みたり。

rawne 細く深く掘れている。主格三人称動詞 地名:rawnenai < rawne (細く深く掘れている) nai (谷川)

rekte < rek (鳴る) te (使役化語尾) 鳴らす。演奏する。第I類動詞。mu'tkuri an-rekte. ムックリを私は弾く。

rekuchiotke < rekuchi (喉) otke (突く) 喉を突く。第II類動詞。an kot sapo yaiko reku-chiotke wa rai an. 姉は自分で喉を突いて死にました。

rekuchi-satsatke < rekuchi (rek-ut 『喉』の人称形) sat (乾いた) sat (乾いた) ke (動詞化語尾) 喉がカラカラである。第II類動詞。

shini ka somokino monraike-an-kusu tane rekuchi-satasake an-na. 休むことなく働いたのもう喉がカラカラである。

rewe. 貴人に対して腹這いになって進み出る。第II類動詞。kamui neno an kur ekota rewe kane shinu kane oman-an. 神のようなお方のところへ腹這いになって膝を擦るようにして私は進み出た。

rikuiruke < rik (高く) uiruke (置く) 左手に杯や碗を持ち右手でそれを軽く押さえる様にして額の辺まで持ち上げる。(女性の杯や碗を受け取る礼儀)。第I類動詞。tuki an uk ine an rikuiruke, an rauiruke wa an-ko-onkami orowa ku wa okere. ku-wa-okere. 杯を受け取りて高く戴き低く戴いてより、礼拝をして我飲みたり。

rimse < rim (ドンという擬声音) se (動詞化語尾) ドンという音を立てる。踊る。第II類動詞。an kor hoku shino-ma't aratusa-wa set-okari rimse-kor-an. 夫の本妻がすっ裸になって熊の檻の回りで踊っていた。

rishtekka < ri (高い) shi (大きく) tek

(手) ka (他動詞化語尾) ①上の方から掴む。第I類動詞。nen ka an-kor totto rishtekka-an. 誰かが私の乳房を上の方から掴んだ。②振りかざす。i-resu totto ape kesh rishtekka-wa-itoikokikki-an. 育ての母は燃えさしを振りかざして私をひどく叩いた。

riya. 越冬する。第II類動詞。nea mata-kotan-ta shinepa riya-an. その冬の村で一年越冬した。

ronnu. 屠殺する。第I類動詞。chi-ronnu-p < chi (アイヌ一般が) ronnu (屠殺する) p (物) 狐。狐は罠で捕らえてから殺したと思われる。

ronnupa < ronnu (𐰺) pa (目的物複数化語尾) 一匹ならず二匹以上屠殺する。

ruike < rui (砥石) ke (動詞化語尾) 研ぐ。第I類動詞。rui-ani makiri an-ruike. 砥石で小刀を研ぐ。

rukaroman < ru (道) kar (造る) oman (行く)。トイレに行く。第II類動詞。an kor ponpe ibe okaketa nani rukaroman. 私の小さい子供は食事の後すぐにトイレに行く。大小便両方に用いる。ちなみに男も立ち小便ではなくして座り小便であった。

rumokor < ru (接頭辞: 半分) mo (静けさ) kor (持つ) 半分眠る。うとうとする。第II類動詞。an-kor pon eka'tchi rumokor-kor numanibe an. 下の子供はうとうとしながら夕飯を食べている。

S

saimonki < saimonn (邦語『祭文』? 探湯 (上代、神に誓って熱湯に手を入れ、行為の正邪を判断した行事。正しいものの手はただれず、不正なものの手はただれたという。岩波古語辞典。) ki (為す)。探湯を為す。第II類動詞。Saimonki-yaknee-pi rika-ka somone-ka an-eraman-nankoro. 探湯をしたらおまえが正しいか否か分かるであろう。

sakanke. 語源未詳。茹でる。第I類動詞。ane-tui hurai-ine shippo-turano an-sakanke. 小腸を洗って塩と一緒に茹でる。

sakka < sak (無い) ka (他動詞化語尾) 無くす。滅ぼす。第I類動詞。ainu-kotan an-sakka ku-shne ari wen-kamiash yainu-kor-an. 人間の村を滅ぼしてやろうと魔神は考えている。

sama < sam (側) a (動詞化語尾) 横になる。倒れている。転がる。第II類動詞。合成語の中に現れる。

sampe pake sampe keshi-be ratki. 心臓の上から心臓の下へ食べ物下る。食べ物は何でも美味しいと感じる。第II類

動詞。

saniyo. 思う。考える。第Ⅰ類動詞。nea ok-kaipo itak-hawe u-kani-mayu-neno chi-e-saniyo. その若者の言う言葉を金属が鳴り響くような音と思いました。

sap te < sap (出る) te (単数使役化語尾) 単数の者に一つならず二つ以上もしくはたくさん出さす。第Ⅰ類動詞目的物複数形。chachakamui matne ekat-chi mun-sap te an. 翁神は娘にごみをたくさん出させた。(掃除をさせた)

sapyar < sap (出る) yar (複数使役化語尾) 複数の者に一つならず二つ以上、もしくはたくさん出さす。anonu i- mun sapyar. 母は私たちに掃除をさせる。

sar. 出ている。第Ⅱ類動詞。o-sar-pet. 河口が出ている川。冬でも河口が凍らない川。オサラッペ川。

sare < sar (𐄂) re (他動詞化語尾) 出す。取り出す。第Ⅰ類動詞。otasut-un-kur an-kami opitta-no sare-an. オタスト人は私(𐄂)の肉をすべて取り出した。

sash < sash (擬声語: カラカラ鳴る。ザーザー音がする) ①カラカラ鳴る②ザーザー音がする。ザーザー降っている。主格三人称動詞。①yukara-kur u-sh pirakka sash. ユーカラを吟ずる人の履く下駄がカラカラ鳴っている。②kunnanowano ruyampe sash. 朝から冷たい雨がザーザー降っている。

sashnatara < sash (𐄂) natara (持続態語尾) ずっとザーザー降っている。主格三人称動詞。kunnanowano ruymabe sashnatara. 朝から冷たい雨がザーザー降っている。

setok. 忍び泣く。第Ⅱ類動詞。keshi to an kor an-chise-otta shinenne setok-kor-an. 毎日家で一人で忍び泣いていた。

shiashpare < shi (自身) ashpa (聞こえない) re (使役化語尾) 聞こえぬ振りをする。第Ⅱ類動詞。nea onne-kur i-itakpa-an koroka shiashpare an kor an. その老人が私にいろいろ語ったのですが聞こえぬふりをしていました。

shichupu < shi (自身) chupu (縮める) 死ぬ。第Ⅱ類動詞。nea nishpa shichupu-a shir-an. 首領は死んでしまった。

shietaye < shi (自身) etaye (引き抜く) (家の中に) 引き篋る。第Ⅱ類動詞。nea otasutunl-kur shietaye wa hawe ene anihi: そのオタスト人が家に引き篋ってこう言いました。

shihumnuyar < shi (自身) hum (音) nu

(聞く) yar (複数使役化語尾) 複数の人々に自分の音を聞かせる。咳払いをしたり、戸口に立てかけてある棒を打ち鳴らして来訪をその家人に告げる。第Ⅱ類動詞。nea chise soiketa shihumnuyar-an ike shine pon menoko ashin ine i-nukartektek sui ahun an. その家の側で来訪の合図である咳払いをすると一人の娘が出て来て私をちらっと見てまた家の中に入った。

shiiyoshikire < shi (自身を) iyoshiki (酔う) re (使役化語尾) 酔った振りをする。第Ⅱ類動詞。shiiyoshikere-an-kor iku-an. 私は酔った振りをしながら酒を飲んでいる。

shikar < shi (美称: 『大きく』 kar (造る)。大きく塞ぐ。主格三人称動詞。i-shikar. 地名: 石狩川

shikishimayar < shi (自身を) kishima (掴む) yar (複数使役化語尾) 一人ならず二人以上の人、もしくはたくさんの人に自分自身を故意に掴えさす。第Ⅱ類動詞。nea kur emushi etaye wa rai kunak iye kor shikishimayar an. その者は刀を抜き死ぬと言いながら故意に自身を掴えさせた。

shikka < shik (一杯である) ka (他動詞化語尾) 一杯にする。第Ⅰ類動詞。saranip oshke chep ani an shikka. 小出しの中を魚で一杯にする。

shiknakki < shiknak (盲目) ki (する)。目が見えない。第Ⅱ類動詞。e-shiknakki ya? おまえは目が見えぬのか

shikopayar < shi (自身を) kopa (間違える) yar (複数使役化語尾) 人々に自身を間違えせしむ。第Ⅰ類動詞。恰も～の如し。nea wen kamiash oka wa ratki shikopayar kor an chise ta ahun an. その魔神は恰も戸口の上から落ちるが如く我が家へ入ったのでした。

shikte < shik (一杯である) te (①単数使役語尾②他動詞化語尾) ①人をして一杯にさせる。第Ⅰ類動詞。a-yubi turep saranip oshke i-shikte an. 兄はウバ百合を小出しの中に私に一杯にさせた。②一杯にする。turep ani saranip an shikte an. ウバ百合で小出しを私は一杯にした。

shikushpare < shik (目を) ushi (付ける: pa の前の母音は脱落する) pa (目的物複数語尾) re (使役化語尾) . 目をたくさん付けさす。目を凝らして見る。第Ⅱ類動詞。kimun metocho shikushpare-an. 山の奥の方を目を凝らして見る。

shini. 語源未詳。休む。第Ⅱ類動詞。shinki-an kusu ponno shini anroh. 疲れたのでちょっと休みましょうよ。

shinishpanere < shi (自身を) nishpa

(富者) ne (である) re (使役化語尾)。富者のように装う。第Ⅱ類動詞。Shinishpanere-an-wa ne-kot-an-oman-an. 富者のように装ってその村を訪ねた。

shinki-e-hoshibi <shinki (疲れる) e (それで: 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える。) hoshibi (帰る)。疲れて帰る。第Ⅰ類動詞。an shinki-e-hoshibi. 私は疲れて帰る。

shinki-e-hoshippa. 疲れて帰る (主格複数) 第Ⅰ類動詞。an shinki-e-hoshippa. 私たちは疲れて帰る。

shinotchaki <shinotcha (踏舞) ki (する) 踏舞を為す。シノッチャをする。諸々の感情を込めて歌い、舞い踊る。第Ⅱ類動詞。ai sa shinotchaki kor wakka ta na. 姉はシノッチャをしながら水を汲んでいる。

shinrit-icharpa <shinrit (先祖: shir『大地』rit『筋』) i (それ『酒、カヌ、米等の供物』) chari (撒く) pa (目的物複数語尾) 先祖供養をする。第Ⅱ類動詞。tanto shiri pirika kush pitara kata shinrit-icharpa an. 今日は天気がよいので川原で先祖供養をする。

shinukare <shi (再帰) nukar (見る) e (他動詞化語尾) 見える。第Ⅱ類動詞。kotan kem-ush yakne kunne chup oro anani-notarap-epush pechan-no shinukare-nankoro. 村が飢饉になると月の中の私が持っている干し魚を糸で通した物が瘦せて見えるでしょう。

shio kote <shi (自身) o (後) kote (付ける) 連れて行く。第Ⅰ類動詞。chi-kor-ponpe chi-shio-kote an. 子供を連れて行く。

shipita <shi (自身を) pita (解く)。家に帰って装いを改める。第Ⅱ類動詞。okimun san-an wa chise otta shipita-an. 山から戻り家で装いを改めた。

shiran <shir (状態) an (ある) 時が経過する。na-ponno shiran yakne kamui-utari arki nan-koroh. もう少ししたら神々がやって来られであろう。

shiretokkor <shir (大地) etok (端) 岬⇒美しさ、美貌 kor (持つ) 美しい。第Ⅱ類動詞。e-neno shiretokkor kur kanto-otta-ka isam. 汝の如き美貌の持ち主は天界にも居らぬ。

shirkanuye <shirka (刀鞘) nuye (彫る) 刀鞘に紋様を彫る。第Ⅱ類動詞。天界での男神の仕事。keshto-an-kor shirkanuye an kor an. 毎日刀の鞘に紋様を彫っている。第Ⅰ類用法: shirika an nuye. 刀の鞘に我紋様を彫る。

shirkoraye <shir (地面) ko (に対して) raye (引く)。さっと無くなる。主格三人称動詞。

retar urar shirkoraye an. 白い霧がさっと無くなった。

shirok <shir (地面) rok (a『座る』の主格複数形) (動物たちが) 地面に伏して動けなくなる。第Ⅱ類動詞。a-yubi turano apkash-an-ine tane shirok-an. 兄とずっと歩いて地面に伏して動けなくなった。

shisuye <(自身を) suye (揺する) 揺れる。揺れている。第Ⅱ類動詞。rera-ash-wa hat-punkar-shisuye-an. 風が吹き葡萄の蔓が揺れている。

shisuyekar <shi (自身を) suye (揺さぶる) kar (為す)。揺れる。揺れている。第Ⅱ類動詞。an nanko'tchake ta shitumbe-kamui poro-saraha shisuyekar-an. 私の面前で狐神の大きな尾が揺れている。

shisuyeiyekar <shi (自身を) suye (揺する) iye (言う) kar (為す) 体を揺すって言う。興奮しながら言う。まくしたてる。第Ⅱ類動詞。nea shirun wen kamiash shisuyeiyekar-an ene an-ih. その最低の魔神に私は次のようにまくしたてたのでした。

shi'tchiwranke <shi'tchiw (どっと倒れる) ranke (多回態語尾) 何度もどっと倒れる。第Ⅱ類動詞。an kor ponpe mum kok wa shi'tchiwranke an. 私の子供は草に引っかかって何度もどっと倒れたのです。

shitekka <shir (状態にある) tek (軽微態) a (座る)。怒りを鎮めて静かに座れ。お許しください。第Ⅱ類動詞。an-ki-katu wen-be-ne kusu i-shittekka-wa-ikore. 私がわるうございました。お許し下さい。

shitesu <shi (再帰) tesu (反らす) 反る。第Ⅱ類動詞。kani-imanit-kata ayubi shitesu kor an. 金属の焼串の上で兄は反っていた。

shitturainu <shir (空間をも含む大地) tu (二つ。たくさん) rai (死ぬ) nu (強勢辞) 方角が分からなくなる。第Ⅱ類動詞。a-yubi oshi oman an koroka ru-hontom-ta shitturainu an. 兄の後を付けたのですが途中で方角が分からなくなってしまいました。

shituri <shi (再帰) turi (伸ばす) ①伸びる。第Ⅱ類動詞。①sak ita ha'tchiri-ni shituri kana-an. 夏の間に倒れた木が伸びていた。(横たわっていた)。②栄える。an kor kotan sasushiri-pakno shituri eashikai-kunine inaw-kara-wa onkami-an. 我が村が生涯栄えるようにイナウを作って祈りました。

soikosampa <soi (戸外) kosaampa (一回態語尾主格複数形) さっと戸外へ飛び出る。第Ⅱ類動詞。ainu-utari-soikosampa. 二人以上の人間が戸外へ飛び出た。

soikosanu <soi (戸外) kosanu (一回態語尾主格単数形) さっと戸外へ飛び出る。第Ⅱ類動詞。shine-okkai-po soikosanu. 一人の若者がさっと戸外へ飛び出た。

soine <soi (戸外) ne (である) 外出する、外出している。第Ⅱ類動詞。an-hoku chise soine wa hoshibishiri ka-isam. 夫は外出して帰ってくる気配もない。

sokare <sokar(座所を作る)re(使役化語尾) 人に座所を作らせる。第Ⅰ類動詞。chacha-kamui nea pon menoko sokare-an. 翁神はその娘に座所を作らせた。

somoki <somo (否定辞) ki (為す) しない。第Ⅰ類動詞。anona-anakne nep-ka ki-ka somoki-wa apeose patek-ki-na. 父は何にもしないで背中炙りばかりしています。

sonkoaniyar <sonko (言告げ) ani (持つ) yar (使役複数語尾) 複数の者に言告げる。第Ⅰ類動詞。Inumpe-kamiash ne-an-be kamui-utar sonkoainyar-an. 炉縁の魔神がそのことを神々に言告げた。

suipa <suye (煮る) pa (①目的物複数化語尾 ②主格三人称複数語尾) 第Ⅰ類動詞。①一つならず二つ以上もしくはたくさん煮る。ai-sa tane chep suipa-kor-an. 姉は今魚を一匹ならず煮ている。②複数の者が煮る。ai sa-utari chep suipa kane-an. 姉たちは魚を煮ている。

suneare <sune (松明) are (燃やす) 松明を燃やす。第Ⅱ類動詞。kunne an kor suneare an kane chep an koiki kor an. 毎晩松明を燃やしながら漁をしています。第Ⅰ類用法。sune an are. 我松明を燃す。

suppakar <suppa (束) kar (作る) 束ねる。第Ⅱ類動詞。chipperpani suppakar an. 薪を私は束ねる。

supuya-at <supuya (煙) at (群れている) 煙が出ている。poro chise rikun puyar orowa supuya-at an. 大きな家の天窓から煙が出ている。

supuyaatte <supuya (煙を) atte<at (群れている) te (使役化語尾) ①煙を立てる。第Ⅱ類動詞。nea yar-chise otta ai-sa supuyaatteen. その木皮葺きの家で姉は煙を立てていた。②子孫を繁栄させる。ne-kon-ka e-i-ki-wa teta orowa e

kira-wa supuya-atte na. 何とかしてここから逃げて子孫を繁栄させよ。

sush. 沐浴する。第Ⅱ類動詞。sak-an-ita pet-otta sush-an. 夏に川で沐浴をする。

suwe. 煮る。第Ⅰ類動詞。pone-ko-kami an suwe-wa utatturano-an-e-okore. 骨付きの肉を煮てみんなで食べてしまった。

T

ta. 第Ⅰ類動詞。自分の生活に必要なものを手に入れる。(「シンポジウムアイヌ」北海道大学図書刊行会。p232. 浅井亨発言)

ta. 拾い集める。第Ⅰ類動詞。cha-usa-an-ta-ine kuchakar-an. 柴なんかを集めて小屋を作る。

taka <tak (招く) a (完了) 呼んできた。henba-noikaoikikur taka! 急いで医者を呼んで来なさい。

takaroomante <takar (夢) o (そこへ) omante (送られる) 夢を見る。第Ⅱ類動詞。takaroomante an wa kut kip ka ta rikin an. 夢の中で崖の頂上へ上っている。

takma <tak (塊) ma (動詞化語尾) 塊になっている。集められて小山のようになっている。主格三人称動詞。chise oshke ta mun takma-an. 家の中に草が小山のようになっている。

taknere <takne (短い) re (他動詞化語尾) 短くする。第Ⅰ類動詞。chi-mip an taknere wa an mi. 着物を短くして着る。

tanak <ta (現実、現) nak (無い) 現実が無い。気が遠くなる。何が何だか分からなくなる。第Ⅱ類動詞。irukai shiranaike tanak an wa mokor an. しばらくすると何が何だか分からなくなり眠ってしまった。

tanbakoku <tanbako (タバコ) ku (飲む) タバコを吸う。喫煙する。第Ⅱ類動詞。tanbako-ku somoki an. 私はタバコを吸いません。第Ⅰ類動詞用法:tanbako-ku-ku-somoki. 同上。kamiash nakka tanbakoku rusui yakaiye. 魔神もタバコを吸いたがるということです。

tantarke. ikupasui(奉酒箸)を上下させて神に祈る。第Ⅱ類動詞。ainu utar tantarke kor an. 人間たちは奉酒箸を上下にさせながら神に祈っていた。

tap. 丸くなっている。主格三人称動詞。合成語の中に表れる。

tapkar <tap (擬声音) kar (作る)。①舞踏する。第Ⅱ類動詞。iku noshiki ta ainu utar tapkar kor ekiroro an. 酒宴の最中にアイヌたち舞踏を

して楽しんでいる。②舞踏 **tapkarki** < tapkar (舞踏) ki (する) 舞踏する。第Ⅱ類動詞。tapkarki an. 我(等) 舞踏を為す。第Ⅰ類動詞用法: tapkar an ki. 同上

tapkarkire < tapkarki (舞踏する) re (単数使役化語尾) 舞踏をさせる。ai sa i tapkarkire. 姉は私に舞踏をさせた。

tapkarkiyar < tapkarki (舞踏する) yar (複数使役化語尾) 人々に舞踏をさせる。ai sa i tapkarkiyar. 姉は私たちに舞踏をさせた。

tarar. 渡す。与える。第Ⅰ類動詞。nea chacha kamui shitoki i-ko-tarar-a-an. その翁神は私に首飾りを渡しました。

tare < ta (汲む) re (単数使役化語尾) 人に汲ます。第Ⅰ類動詞。ai-sa wakka i-patek-tare. 姉は私ばかりに水を汲ますのです。

tare < ta (掘る) re (単数使役化語尾) 人に掘らせる。第Ⅰ類動詞。a-yubi i-patek turep tare. 兄は私だけに乳母ゆりを掘らすのです。

tare < ta (耕す) re (単数使役化語尾) 人にひとつの物を耕さす。第Ⅰ類動詞。an kor totto en toyta tare-an. 母は私に畑を耕させた。

tare < ta (拾い集める) re (単数使役化語尾) 人に拾い集めさす。第Ⅰ類動詞。tane mata hanke-an kusu an ekatchi satni-an-tare. もう冬が近いので子供に枯れ木を拾い集めさせた。

tasumekot < tasum (病気) e (それで) kot (没する) 病没する。第Ⅱ類動詞。a-yubi shine-pa etokta tasumekot-an. 兄は昨年病没した。

teakaushi < teaka (邦語「手垢」) ushi (付ける) 手垢を付ける。第Ⅱ類動詞。nea chep teakaushi an. その魚に手垢を私は付けた。第Ⅰ類用法: nea chep teaka an ushi. 同上

teketokkor < tek (手) etok (先) kor (持つ) 手先を持つ。手先が器用である。針仕事で上手である。第Ⅱ類動詞。eani pakno teketokkor menoko an erametek na. あなた程針仕事の上手な女性を私は知りません。

teketunashi < tek (手) tunashi (速い) 手仕事速い。第Ⅱ類動詞。hembano ai-sa neno teketunashi rusui an. 早く姉のように手仕事速くなりたい。

tekkikki < tek (手を) kikki (叩く) 手を叩く、拍手する。第Ⅱ類動詞。an-reshka-kamui tek-kikki-wa tereke-tereke kane-an. 私の養い熊は手を叩き踊っているのです。

tekerke < tek (手) pere (割る) ke (自動

詞化語尾) 手が割れる。あかざれになる。第Ⅱ類動詞。yam wakka ani chioipep hurai kusu neno tek-perka an. 冷たい水で食器を洗ったのでこのようにかざれになった。

tekesaikare < tek (手) e (それで: 第Ⅱ類を第Ⅰ類に変える) saikare (掴む、巻きつける) 手で 掴む。第Ⅰ類動詞。nea rukani hayokpe an tekesaik-are wa an tomama an ko-yupuyupu an. その水銀の鎧 (敵がこれに触れると溶けてしまうという) を手で掴み胴へしっかりと締めた。

temkor < tem (両腕) kor (持つ) 両の腕で抱擁する。第Ⅱ類動詞。nea kamui neno an kur i-temkor wa i-kushma-an. その神様のようなお方が私をきつく抱き締めるのでした。

temnikor < tem (両腕) nikoro (抱く) 両腕でく。第Ⅱ類動詞。an-ponpe temnikoro-an. 私は子供を両腕で抱く。

tempa 撫でる。第Ⅰ類動詞。Teeta-kane oper-totto kuani-ka tempa-tempa-na. その昔俺も娘の乳房を撫でまわしたものだ。知里真志保採集シノッチャの一説。

tereyar < tere (待つ) yar (複数使役化語尾) 二人以上の人、もしくは大勢の人を待たす。第Ⅰ類動詞。Moireno hopuni-an-kusu neno an-eschi-tereyar-an-na. 寝坊したのでこのように皆さんを待たせてしまった。

teshkar < tesh (梁) kar (造る) 梁を作る。第Ⅱ類動詞。teshkar an wa chep an koikpa-an. 梁を作って魚をたくさん捕る。第Ⅰ類動詞用法。tesh-an-kar-wa chep-an-koikpa-an. 同上。

teshmaushi < teshma (かんじき) ushi (付ける) かんじきを付ける。第Ⅱ類動詞。teshmaushi-an. 我(等) かんじきを付ける。第Ⅰ類用法: teshma an ushi. 同上

toitare < toita (耕す) re (単数使役化語尾) 人に耕せる。第Ⅰ類動詞。ai-sa i-patek toitare-na. 姉は私ばかりに畑をおこさせるのです。

toitayar < toita (耕す) yar (複数使役化語尾) 人々に耕せる。第Ⅰ類動詞。Nea-nishpa 'ushiw-utartoitayar-an. その富者は召使たちに耕せる。

tokse < tok (突起物) se (状態を表す接尾辞) 突き出ている。山のようになっている。主格三人称動詞。toi ta mun pishkanta an-uwekarire-wa tokse-an. 畑に草が到る所に集められて山のようになっていた。地名: toksei < tokse (突き出ている) i (山)

tomata < toma (エゾノエンゴサク) ta (掘る) トマ掘りする。第Ⅱ類動詞。tomata-ash kor-an. 私

はトマを掘っていた。第Ⅰ類用法: *toma an ta kor an*. 同上。

t o m a t a r e < *tomata* (トマ) *re* (単数使役語尾) 人にトマ掘りさせる。第Ⅰ類動詞。 *ai sa i-tomata-re*. 姉は私にだけトマ掘りをさせる。

t o m a t a y a r < *tomata* (トマ) *yar* (複数使役語尾) 人々にトマ掘りをさせる。 *an unarbe i-tomataya r*. 叔母は私たちにトマ掘りをさせる。

t o m o i t a k < *tomo* (tom『中』の所属形) *o* (指相接辞『そこで』) *itak* (言う) なだめる。慰撫する。第Ⅲ類動詞。 *e-tomo-an-oitak*. 我(等) 汝を慰撫す。 *eshi-tomo-an-oitak*. 我(等) 汝等を慰撫す。 *to- mo-an-oitak*. 我(等) 彼(等) を慰撫す。 *i-tomo-e-oitak*. 汝我(等) を慰撫す。 *tomo-e-oitak*. 汝彼(等) を慰撫す。 *i-tomo-eshi-oitak*. 汝等我(等) を慰撫す。 *tomo-eshi-oitak*. 汝等彼(等) を慰撫す。 *i-tomo- oitak*. 彼(等) 我(等) を慰撫す。 *e-tomo-oitak*. 彼(等) 汝を慰撫す。 *eshi-tomo-oitak*. 彼(等) 汝等を慰撫す。 *shitumpe okkaipo itomo-itak-koroka an-e-nu somoki-an*. 黒狐の若者が私(隼) をなだめてくれたのですが私はそれを聞き入れることができなかった。

t o m t e < *tom* (輝いている) *te* (他動詞化語尾) 輝かせる。飾る。第Ⅰ類動詞。人名: 門野ハウトムテイ *haw* (声を) *tomte* (飾る) *i* (者)。旭川男アイヌ。

t o n o t o k u < *tonoto* (邦語: 殿乳) *ku* (飲む) 飲酒する。第Ⅱ類動詞。 *tnotoku-an*. 我飲酒す。第Ⅰ類動詞用法: *tonoto-an-ku*. 同上

t o p a t t u m i s a n k e < *topa* (群) *at* (たくさんいる) *tumi* (戦) *sanke* (出す)。壮烈な戦いをしかける。第Ⅱ類動詞。 *kotan kesh ta un utari an kotan ta topattumisanke an*. 村の下手のものども側が村に戦いをしかけた。

t o p s e < *top* (擬製音) *se* (発声する) 痰や唾を吐く。第Ⅱ類動詞。 *neita nakka echiki topse!* 何処にでも唾を吐くな。

t o r a n n e. 怠ける。第Ⅱ類動詞。 *nep ka ki ka somokino neno toranne patek an*. 何もせずにこのように私は怠けてばかりいる。名詞: 怠惰

t o r i < 邦語「逗留する」第Ⅱ類動詞。 *neita ku-cha an kar wa tori an*. そこに仮小屋を造って逗留した。

t o t e k. 第Ⅱ類動詞。①病気が平癒する。 *an machi shiye ki koroka Otasut-un-kur kerai kusu tane totek an*. 妻は病気に罹っていたのですがオタスト人とのお陰で今は平癒しています。②傷が癒える。 *chikiri an kai koroka tane tootek an*. 足を

折ったのですがもう癒えました。③元気で暮らす。 *S etakko an e nukar somoki koroka totek na?* 暫くお会いしませんでしたがお元気ですか。

t o t e k n o a n < *totek* (元気で暮らす) *no* (連用形化語尾) *an* (いる「主格単数形」) 元気に暮らす。第Ⅱ類動詞。 *toteknoan an*. 私は元気に暮らしている。

t o t e k n o o k a i < *totekno* (トマ) *okai* (いる「主格複数形」) 元気に暮らす。第Ⅱ類動詞。 *totek-nookai an*. 私たちは元気に暮らしている。

t u i m a r u k a r < *tuima* (遠い) *rukar* (トイレ、トイレに行く) 大便。大便をする。第Ⅱ類動詞。 *Tuimarukar ku oman*. 大便をしに行く。

t u k a t u k a < *tuk* (出る) *a* (継続) *tuk* (出る) *a* (継続) どんどん出る。どんどん大きくなる。第Ⅱ類動詞。 *nea chikuni tukatuka an*. その立ち木はどんどん大きくなった。

t u k u n n e. 痺れる。主格三人称動詞。 *setakko ku a kusu ku chikiri tukunne an*. 永いこと私は座っていたので足が痺れた。(口語)

t u m i k o r < *tumi* (戦争) *kor* (持つ) 戦争をする。第Ⅱ類動詞。 *oyak-ta-an-moshir tumkor-an-wa ainu-utar poronno rai-an*. 外国と戦争をしてたくさん人間がたくさん死にました。

t u n u i s e < *tuntun* (金属音) *se* (発声する) チンチンという音がする。 *n* の前の *s* は *i* に shift する。

t u p a s e a s h k e r e p a s e a s h k e e - p u n i < *tu* (二つの) *pase* (重き) *re* (三つの) *pase* (重き) *ashke* (手) *e* (それを) *p-uni* (上げる) 手のひらを上にして二度三度と上下させながら願い事や頼み事を唱える。第Ⅰ類動詞。 *ki-rousere an wa horkew kamui an tu pase ashke re pase ashke epuni kane nea humbe rika ikore kuni an-ko onkami an*. あぐらをかき狼神にその鯨の脂肪をくれるよう私はお願いしました。

t u r a e k < *tura* (伴う) *ek* (来る)。連れて来る。合成第Ⅰ類動詞主格単数形。 *an e turaek na*. 私はお前を連れて来た。

t u r a h o s h i b i < *tura* (伴う) *hoshibi* (帰る) 連れて帰る。合成第Ⅰ類動詞主格単数形。 *an kor okkai eka'tchi an chise ta an turahosibi an*. 私は息子を家へ連れて帰った。

t u r a h o s h i p p a < *tura* (伴う) *hoshippa* < *hoshibi* 「帰る」の主格複数形。連れて帰る。合成第Ⅰ類動詞主格複数形。神謡においては語り手は主格複数形を用いる。 *an machi an turahoshippa an*. 私は妻を連れ帰った。

t u r a o k a i < *tura* (伴う) *okai* (an「いる」の主

格複数形) 一緒にいる。合成第Ⅱ類動詞。kakkokuw-ariwneutar turaokai-an. カッコウの若君たちと一緒にいる。(神謡においては語り手は一人称複数形で語る)

turaoman < tura (伴う) oman (行く)。連れて行く。合成第Ⅰ類動詞主格単数形。anaki kimta an-turaoman kushne. 弟を山へ連れて行くつもりです。

turarikin < tura (連れて行く) rikin (上る) 連れて上る。合成第Ⅱ類動詞。kakkoku tonokanto otta i-turarikin. カッコウの殿様は私を天へ連れて上った。

turepta < turep (ウバユリの鱗茎) ta (掘る) ウバユリ掘りをする。第Ⅱ類動詞。ekimne-an-wa turepta anro. 山へ行ってウバユリ掘りをしましょう。第Ⅰ類用法: Ekimne-an-wa turep-an-ta. 同上

tusseka < tusse (勢いよく飛ぶ) ka (他動詞化語尾) 勢いよく飛ばす。第Ⅰ類動詞。nea wen kam-iashi penrekuchi emush ani an tuye-wa penrekuchi an-tusseka-an. その魔神の首を刀で切り、首を勢いよく飛ばした。

tuyke < tuy (散る) ke (他動詞化語尾) 散らす。第Ⅰ類動詞。ota an-tuyke-kane e-shinot-an. 砂を散らして遊んでいる。

tuyte < tuy (篩う) te (使役化語尾) 篩わせる。ota an tuyte wa shinotkor okai an. 砂を私は篩わせて遊んでいた。

U

ueat < u (両) e (それを) at (紐のように結ぶ)。結婚する。第Ⅱ類動詞。nea kamui sasuni menoko ueat an kushne. その神の出の娘と私は結婚するつもりです。

uekataratkke < u (両) e (そこで) ka-ta (kat 『仕方』の所屬形) ratki (落ちる) ke (他動詞化語尾) 助け合う。第Ⅱ類動詞。ai sa turano nep ki yakka uekatarakke kor oka an. 姉と何をするにも助け合って暮らしています。

uepnu < u (両) ye (言う) p (こと) nu (聞く) 話し合いをする。第Ⅱ類動詞。nep nakka e uepnu rusui an. 何でもあなたと話し合いをしたい。

uerampokin < u (両) e (そのことに就いて) ram (心) pok (下) wen (痛む)。互いに慈しみ合う。第Ⅱ類動詞。aisa tura tunne uerampokin-kor okai an. 姉と互いに慈しみ合いつつ暮らしています。

uetunush < u (両) e (そこで) tun (二人) ush (付く)。並ぶ。第Ⅱ類動詞。a yubi utari uet-

unush wa tesh kar an. 兄たちは並んで川止めを作っていた。

uitak < u (両) itak (話す) 二人で話し合う。第Ⅱ類動詞。nep nakka uitak wa ki. 何でも話し合いなさい。

ukar < u (両) kar (作る) 対を作る。第Ⅱ類動詞。shiro kani amushpe kon kani amushpe ukar an. 銀の蟹と金の蟹の対を我は作る。

ukochapise < uko (互いに) cha (口) pi (小詞) se (発声する) ひそひそ話しをする。ないしょ話をする。第Ⅱ類動詞。nea pewre umurekkur ukochapise-an. その若夫婦はひそひそ話をしていた。

ukochoprakote < uko (互いに) choprakote (キスをする)。キスをし合う。ainu okkaipo utar ancor ponpe ukochoprakote-an. 人間の子供たちは私の子供とキスをし合っています。

ukohopi < uko (互いに) hopi (置いて行く: 主格単数) 別れる。第Ⅱ類動詞主格単数形。e-ukohopi an. 我汝と別れる。

ukohoppa < uko (互いに) hoppa (hopiの主格複数形) 別れる。第Ⅱ類動詞主格複数形。e(shi) ukohoppa-an. 我ら汝 (等) と別れる。

ukohoshipi < uko (互いに) hoshipi (帰る: 主格単数形) 互いに別れる。第Ⅱ類動詞主格単数形。nisatta an chiki sui unukar kushne ari i-ye kor an utari ukohoshipi-an. 明日にまた会おうと言いながら私は友と別れた。

ukohoshippa < uko (互いに) hoshippa (hoshipi「帰る」の主格複数形) 別れて帰る。別々に帰る。第Ⅱ類動詞主格複数形。an utari ukohoshippa an. 我ら仲間と別々に帰る。

ukoipuni < uko (互いに) i (それ『酒、桑』を) puni (捧げる) 酒食を共にする。第Ⅱ類動詞。kanto otta kamui utar ukoipuni-an. 天界で神々は酒食を共にしていた。

ukooman < uko (互いに) oman (行く: 主格単数) 互いに進んで行く。chise pakno an poro koi ukooman. 家程の大波が互いに進んで行くのです。

ukopaye < uko (互いに) paye (oman『行く』の主格複数形) 互に行き来する。第Ⅱ類動詞。a-yubi ekota keshpa an-kor ukopaye-an. 兄のところへ私たちは毎年行き来している。

ukopaykay < uko (互いに) paykay (巡り歩く) ukopayeに同じ。

ukopoye < uko (互いに) poye (雑ぜる) 雑ぜ合わす。第Ⅰ類動詞。amam toma an-ukopoye-wa an suye. 米にエゾノエンゴサクを雑ぜ合わせて炊く。

ukore <ukor (結婚する) e (単数使役化語尾) 結婚させる。第Ⅰ類動詞。an kor matnepo pon repun kamui an ukore-rusui. 娘を若きシャチ神と結婚させたい。

ukot <u (双方) kot (付いている) 交尾している。nea menoko ne ekon-riyap ukot yakaiye. その娘はあなたの越冬熊が交尾しているということだ。

ukouina <uko (互いに) uina (たくさん取る) 繰り返す。第Ⅰ類動詞。nea okkaipo-utara shine itak ukouina-kor-an. その若者たちは同じ言葉を繰り返していた。

ukousaraye <uko (互いに) usa (いろいろ) raye (押しやる)。分かち合う。第Ⅱ類動詞。nea sat kami ayubi tura ukousaraye an kor e an. その乾肉を兄と分かち合って食べました。

uminare <u (互いを) mina (笑う) re (単数使役化語尾) 互いを笑わせる。主格三人称動詞。nea tun okkai ekattara uminare-kor isam-ta ari-ki-an. その二人の男の子は互いに笑わせながら私のそばにやって来た。

un. 合成語の中に表れる。①いる②来る③挟まっている④ne-kotan-un-kur. その村にいる人。⑤retachir un to<retar (白い) chir (鳥) un (来る) to (沼) 地名。⑥sapaunpe<sapa (頭に) un (挟まっている) pe (物) 男の冠

unaotke <una (灰) otke (突き刺す) 灰に突き刺す。第Ⅱ類動詞。shine sarki unaotke an wa uhuikar an. 一本の葦を灰に突き刺して燃やした。第Ⅰ類動詞用法: shine sarki an e-unaotke-wa uhuikar-an. 同上

unapte 招き入れる。第Ⅰ類動詞。chacha-kamui i-unapte-an. 翁神は私を招き入れた。

unukar <u (両方) nukar (見る) 会う。会見する。第Ⅱ類動詞。ta-an samamni ta unukar an ro. あの倒れ木のところで会いましょう。

unukare <unukar (互いに見る) e (使役化語尾) 見せ会う。第Ⅱ類動詞。chise shikkew otta aisa utari nep-an-be ka unukare-kor-an. 家の隅のところで姉たちは何かを見せ合っていた。

unupurpakte <u (両) nupur (巫術) pak (計る) te (使役化語尾) 巫術競べをする。第Ⅱ類動詞。unupurpakte an ro. 巫術競べをしよう。

uoshikote <u (両) oshikote (惚れる) 惚れあう。第Ⅱ類動詞。tan umurekur na uoshikote an. あの夫婦はまだ惚れあっている。

osura <u (両) osura (捨てる)。夫婦別れをする。離婚する。第Ⅱ類動詞。tan umurekur tane u-

osura yakaiye. あの夫婦はもう別れたということですよ。

upaore <u (両方) pa (言葉) o (生じる) re (使役化語尾)。口論する。第Ⅰ類動詞。an totto tura-no an upaore-an. 私は母と口論した。

upashke <upash (雪を) ke (掻く) 雪掻きをする。第Ⅱ類動詞。mata ita kesh-to-an-kor upashke an. 冬に毎日雪掻きをする。第Ⅰ類用法: upash-an-ke (古語) upash-ku-ke (現代語) 私は雪掻きをする。

upsoroomare <upsoro (懷) oma (入る) re (他動詞化語尾) 懷の中に入れる。第Ⅱ類動詞。shirokani pon chikappo shinep an uk ine upsoro-omare-an. 銀色の小鳥一羽を捕まえて懷の中に入れた。第Ⅰ類用法: shirokani pon chikappo shinep an uk ine upsoro an-omare. 同上

urairkar <urai (梁) kar (造る) 梁を造る。第Ⅱ類動詞。urai kar an wa chep an raike. 梁を作って魚を捕る。第Ⅰ類用法: urai an kar. 我(等) 梁を造る。

urawketarap <u (挿入音) raw (低い) ke (処) ta (へ) rap (第Ⅱ類動詞 'ran' 「降臨する」の主格複数形) 神々が人間界へ降臨する。第Ⅱ類動詞。ai-nu moshitta urawketrap-an. 我人間界へ降臨する。

ureshka <u (両方) resh (育つ) ka (他動詞化語尾) 育て合う。協力し合って生きていく。第Ⅱ類動詞。tan tewano ayubi turano ureshka an kushne. これからは兄と協力し合って生きていこう。

urorea <u (互いが) ror (上座) e (そこに) a (座る) 上座に並んで座っている。第Ⅱ類動詞主格単数形。数詞がある名詞や、翁神と媼神の様に対してになっている名詞は単数扱いとなる。chacha kamui ne wa rupnemat urorea an. 翁神と媼神が上座に座っている。

uruki <u (互いを) ruki (呑み込む)。紐で通して合わせる。転じてボタンを掛ける。第Ⅱ類動詞。hayokpe uruki an. 鎧を紐で合わせる。kani uruki humi ki kosanu. 金属のボタンを掛け合わせる音が一回した。

useshe <u (両方) seshke (塞ぐ) 両方を塞ぐ。第Ⅱ類動詞。seta sui poka enrum sui poka useshe an. 犬が出入りする穴とねずみが出入りする穴の両方を私は塞いだ。

ush¹ いつも～する。地名に現れる。iyapteushi<i (荷物) yapte (たくさん揚げる) ush (いつも～する) i (ところ) 荷物をいつも揚げるところ。

ush² 群生している。主格三人称動詞。地名: kit-

oushi-kito (行者にんにく) ush (群生している) i (ところ)

ushka <ush (消える) ka (他動詞化語尾) 消す。第Ⅰ類動詞。ape-an-ushka. 火を消す。

ushte <ush (消える) te (単数使役化語尾)
①消す。第Ⅰ類動詞。ape-an-ushte. 火を消す。②無くす。an kor yup kotan kamuishiyee e-yan-wa an-ar-ushte-yakaiye. 兄の村に疱瘡が上陸して全滅したということです。an:中相

utapke 繕う。継ぎ当てをする。第Ⅱ類動詞。mip yara-ta utapke-an. 着物の破れたところに継ぎを当てる。

utapkeush <utapke (継ぎ当て) ush (付いている) 継ぎ当てが付いている。主格三人称動詞。utapkeush mip. 継ぎ当てが付いている着物。

utapkeushi <utapke (継ぎ当て) ushi (付ける) 継ぎ当てをする。第Ⅱ類動詞。onne chi-mip utapkeushi an wa sui an mi kushne. 古い着物に継ぎを当ててまた着よう。

utarkeshkor <utar (仲間) kesh (端) kor (娶る) 妻を娶る。人文神 (サマイクル、オキクルミ) が妻帯する。Samaikur-poho nepka ewenka somokino utarkekor-an. サマイクルの子息は何にも支障なく妻を娶った。

utasare <u (互いに) tasa (返す) re (使役化語尾) 交換する。第Ⅰ類動詞。kamui menoko kor raunkut ne wa an kor raunkut an utasare-an. 神の女の下帯と私の下帯びを交換した。

utumammokor <u (互いを) tumam (抱く) mokor (寝る) 抱き合って寝る。性交する。合成第Ⅱ類動詞。nea pewre umurekkur anakne keshkuran-an kor utumammokor yakaiye. その若夫婦は毎晩性交するということだ。

uwampare <u (両) w (挿入音) arpare (行き来させる) あれこれと考える。よく調べて見る。第Ⅱ類動詞。kotan epitta uwampare-an-koroka an-hoku neine omanihi erambetek-an. 村中をよく調べて見たのですが、夫が何処に行ったのか分からないのです。

uwechi <u (互いに) w (挿入音) e (そこで) chi (火傷をする) . 霜焼けに罹る。凍傷に罹る。第Ⅱ類動詞。an teke uwechi-wa mayaike-an. 手が霜焼けになって痒い。

uwekap 挨拶をする。第Ⅱ類動詞。nea okka-ipo-utari-ka uwekap-an. その若者たちにも私は挨拶をいたしました。

uwekatarotke <u (互いに) w (挿入音)

e (そのことに就いて) kat (振る舞い) ar (強勢辞) otke(突く) 仲良くする、助け合う。第Ⅰ類動詞。n-ina nakka nep-nakka ne-menoko tunne an-uwekatar-otke. 薪採りでも何でもその女性と二人で助け合っています。

uweushi <u (互いに) w (挿入音) e (そこで) ushi (付ける)。分離している物をつき合わせる。第Ⅱ類動詞。pishkan-ta an pone an wekarpa wa ainu katkoro kuni uweushi kane an. あちこちに散らばっている骨を集めて人間の姿にすべくつき合わせている。

uworomare <oro (水) omare (入れる) 水の中に漬ける。浸す。第Ⅱ類動詞。uworomare an mipi an-huraye-an. 水に漬けていた着物を洗った。

uyuyke <uyuy (ブルブル) ke (動詞化語尾) 寒さの余りブルブル震える。第Ⅱ類動詞。chise soita shine eka'tchi uyuyke-kor-an. 家の外で一人の男の兄が寒さの余りブルブル震えている。

W

waise <wai (ワーワー) se (発声する) ワーワー声を出して泣く。第Ⅱ類動詞。nea kamui neno an menoko mosem shikkew otta waise an. その神のような娘が納屋の隅でワーワー泣いていた。

wakkake <wakka (水) ke (掻く)。船の中に浸水した水を掻く。第Ⅱ類動詞。henbano wakkake somoki yakne tan chip ren nankoro. 速く浸水を掻かなければこの船は沈んでしまう。第Ⅰ類用法:wakka an ke. 我浸水を掻く。

wakkaku <wakka (水) ku (飲む) 水を飲む。第Ⅱ類動詞。wakkaku an. 我水を飲む。第Ⅰ類用法。wakka an ku. (文語形) wakka ku ku. (口語形) 同上。

wakkakuta <wakka (水) kuta (開ける) 水を開ける。第Ⅱ類動詞。taru orowa wakkakuta an. 樽から水を開ける。

wakkamomte <wakka (水) momte (流される) 水に流される。第Ⅱ類動詞。pet otta ma an i-ne wakkamomte an. 川で泳いでいるうちに流された。

wakkanise <wakka (水) nise (掬う)。水を掬う。第Ⅱ類動詞。konkani pishaku ani atui wakkanise an. 金の柄杓で海の水を私は掬った。第Ⅰ類用法:pishaku ani wakka an nise. 柄杓で私は水を掬う。

wakkatapa <wakkata (水を汲む) pa (①主格複数語尾②目的物複数) 第Ⅱ類動詞。①複数の人々が水を汲む。an utari wakkatapa. 私の仲間たちが

水を汲む。②たくさんの水を汲む。kesh to an kor wakkatapa an. 毎日私はたくさんの水を汲む。

wakkatapare < wakkata (水を汲む) pa (目的物複数) re (単数使役) 人にたくさんの水を汲ます。第Ⅰ類動詞。ai sa i-wakkatapare. 姉は私にたくさんの水を汲ます。

wakkatapayar < wakkatapa (汲) yar (複数使役) 人々にたくさんの水を汲ます。a yubi usshiw utari wakkatapayar. 兄は召使たちに水をたくさん汲ませる。

wakkatayar < wakkata (汲) yar (複数使役化語尾) 複数の人々に水を汲ませる。第Ⅰ類動詞。anonu usshiw-utarihi wakkatayar. 母は召使たちに水を汲ませる。

wen < een (鋭い) 第Ⅱ類動詞。①悪い。wen-ke-wtum. 悪い心。nenō wen-kewtum e-kor yakne kamui chipanapte an-ro. そのような悪い心を持ったなら神罰が当たるであろう。②貧しい。自然採取経済の下では労働に従事しないことは悪であって、そしてそれは貧しさにつながる。wen-kur. 貧者。③険しい。wen-kut. 険しい崖。wen-nai. 険しい沢。④恐ろしい。wen-kamiash. 恐ろしい魔神。名詞：無様。

wenerai < wen (悪いこと) e (それで) rai (死ぬ) .ぶざまな死に方をする。第Ⅱ類動詞。nenō wenkewtum e-kor yakne e-wenerai nankoro. そのような悪い心を持つなら無様死に方をするであろう。

wenkewtumkor < wen (悪い) kewtum (心) kor (持つ) 悪い心を持つ。第Ⅱ類動詞。wenkewtum-kor an kusu nenō iki an. 私は悪い心を持ったのでこのようになった。第Ⅰ類用法:wenkewtum an kor. 私は悪い心を持っている。

wenkurashpa < wen (悪い) kur (者) ashpa (聞こえない) そこにいない者の悪口を言う。第Ⅱ類動詞。echiki nenō wenkurashpa na. そのようにここにいない人の悪口を言ったらいけません。

wenreshka < wen (悪い) reshka (育てる) 第Ⅰ類動詞。ひどい育て方をする。nea kamui ne an kur an wenreshka an na. その神なる者はひどい育て方をされた。an: 中相

wentarap. 夢を見る。第Ⅱ類動詞。numan wentarap an. 昨晚私は夢を見た。

wentarapte < wentarap (夢を見る) te (単数使役化語尾) 夢を見せる。chepattekamui i-wentarapte kusu neanbe an eraman na. 魚を増やしてくださる神が私に夢を見せてくれたのでそのことが分かりました。

wente < wen (悪い) te (使役化語尾) 悪くさ

す。荒らす。第Ⅰ類動詞。ainu-moshir okimumpē ani an-wente-kushne. 人間界を洪水で荒らしてやろう。

woro < wor (水中) o (他動詞化語尾) 水に浸す。第Ⅰ類動詞。sat pukusa an woro wa an e. 乾燥した行者にんにくを水に浸したから食べる。

woroshma < wor (水中) oshma (瞬間態語尾) 急に、突然水の中に落ちる。第Ⅱ類動詞。pet sam ta shinot kor an ekatchi woroshma na. 川の側で遊んでいた私の子供が突然水の中に落ちてしまったのです。

Y

yaikar < yai (自身) kar (作り替える) 身を変える。第Ⅱ類動詞。Ekor an rusui kusu ainu ne yaikar an ine kanto orowa rap-an. あなたと結婚したいので人間の姿に身を替えて天から降りて来たのです。

yaikoan < yaiko (自身に対し) an (「いる」: 主格単数形) 独りである。独居している。第Ⅰ類動詞主格単数形。tan poro chise otta ai yaikoan. この大きな家で独りである。

yaikoerampetek < yaiko (自身に対し) e (そのことに就いて) ram (思う) pe (こと) uitek (遣わす) 分からない。第Ⅰ類動詞。ainu a-nakne yaikoerampetek an yakne chinita ani nep nakka eramanpe ne na. 人間というものは分からなくなると夢で何でも分かるものです。

yaikoitak < yaiko (自身に対し) itak (言う) .独り言を言う。第Ⅰ類動詞。nea kamui nenō an kur yaikoitak kor hopuni an. その神の様な方が独り言を言いながら立ち上がった。

yaikokishma < yaiko (自身に対し) kishma (掴む) 掴む。抱き締める。第Ⅰ類動詞。an kor ponpe ai yaikokishma kor an chise tahoshibi an. わが子を抱き締めながら家へ帰った。

yaikonukar < yaiko (自身に対し) nukar (見る) 自分自身を見る。第Ⅰ類動詞。ai yaikonukar ike mour ka mip ka opitta isam an na. 自分自身を見ると下着も着物も何にもないのです。

yaikotaiye < yaikota (自身対して) iye (言う) 独りごとを言う。第Ⅰ類動詞。「yaikoitak」の口語表現。nen ne yakka onne yakne yaikotaiye na. 誰でも年をとると独り言を言うようになる。

yaikotayayapapu < yaikota (自身に対し) yai (自身を) apapu (責める) 本当に申し訳ないと思う。第Ⅱ類動詞。nea kamui ne an pon meno-

ko yaikotayayapapu an. その神なる娘に本当に申し訳ないと私は思っている。

yaikoyukar < yaiko (自身に対し) yuka (ユーカルを吟ず)。一人でユーカルを吟ず。第Ⅰ類動詞。pet kus ta pewre okkai yaikoyukar an. 川向かいで若者が一人でユーカルを吟じていた。

yaikoyupu < yaiko (自身に対し) yupu (締める) 帯などを自分に締める。第Ⅰ類動詞。ashir kut ai yaikoyupu. 新しい帯を自分に締める。

yainuinak < yai (自身を) nuinak (隠す) 隠れる。第Ⅱ類動詞。sankuma yaikar ine yainuinak an koroka kamiash i pa an. 横木に身を変えて隠れていたのですが魔神に見つかってしまった。

yainumen. 病気である。第Ⅱ類動詞。ta-an kur yainumen yak-a-ye. あの方は病気だということです。

yaipuni < yai (自身を) puni (上げる) 意識的に自身を持ちあげる。他者を見下げる。ばかにする。第Ⅱ類動詞。echiki neno yaipuni. そのように人をばかにしてはいけません。

yaishitoma < yai (自身を) shitoma (恐れる) 恥ずかしく思う。第Ⅱ類動詞。nea kamui meno-ko yubihi aratusare wa eikosh yaishitoma kusu mosem shikkew otta chish kor an. その女神は兄に丸裸にされ恥ずかしさのあまり納屋の隅で泣いていた。

yaitomoitak < yai (自身) tom (中) o (そこで) itak (語る) 自身の感情を外へではなくして、自身の中で語る。心を和らげる。許す。第Ⅰ類動詞。an ki katu wenpe ne kusu yaitomoitak na. 私の為した事が悪うございましたお許し下さい。

yamkar < yam (栗) kar (採る)。栗拾いをする。第Ⅱ類動詞。chuk an ita kimta yamkar an na. 秋に山で栗拾いをする。第Ⅰ類用法: yam an kar. 我等栗拾いをする。

yankere < yanke (陸揚げする) re (単数使役)。人に陸揚げをさせる。a-yubi i-patek chihoki yankere na. 兄は私ばかりに交易品を陸揚げさせた。

yaoshke < ya (網) oshke (編む) 網を編む。第Ⅱ類動詞。yaoshke an. 私は網を編む。第Ⅰ類用法: ya an oshke. 同上。

yapyar < yap (yan「陸に揚がる」の主格複数形) yar (複数使役化語尾) 一人ならず二人以上(たくさんの人)に一つならず二つ以上(たくさん)の物を陸揚げさす。ayubi 'ushiw utarihi uimam to-noto yapyar an. 兄は大勢の召使たちに交易で得たたくさんの酒を陸揚げさせていた。

yarpeush < yarpe (おしめ) ush (着けている)。おしめを着けている。第Ⅱ類動詞。an kor po-npe tu pa ne korka na yarpeush ne. 私の子供は二才なのですがまだおしめを着けている。

yarpeushi < yarpe (着ける) ushi (着ける) おしめを着ける。第Ⅱ類動詞。anokai totto ne kusu an kor shishpe yarpeushi an. 私は母親ですので赤ん坊におしめを着ける。第Ⅰ類用法: an kor shishpe yarpe an ushi. 私は赤子におしめを着ける。

yayiriwakkor < yayiriwak (一人っ子) kor (持つ) 一人っ子である。第Ⅱ類動詞。久保寺逸彦博士は「男の兄弟は自分だけで、妹が一人あると記している。アイヌ語・日本語辞典稿。北海道教育委員会。平成4年。p309。」yayiriwakkor an wa an. 私は一人っ子です。

yayokurunte. 語源未詳。反論できないで黙っている。第Ⅱ類動詞。nea kur an seme koroka yayokurunte an. その人を私は責めたのですが反論できないで黙っているのです。

yayuwampare < yai (自身) u (互い) w (挿入音) arpa (行き来する) re (使役化語尾)。あれやこれやと考える。第Ⅱ類動詞。yayuwampare ancor an chise ta hoshibi an. あれこれ考えながら家へ帰った。

yoko. 獲物を狙う。狙いをつける。第Ⅱ類動詞。ai yuk ekota yoko an. 矢を鹿に狙いをつける。

yukarki < yuka (ユーカル) ki (する) ユーカルをする。第Ⅱ類動詞。yukarki an. 私はユーカルをする。第Ⅰ類用法: yuka an ki. 同上

主要参考文献

- 金田一京助著 アイヌ語研究 金田一京助選集Ⅲ 三省堂 1960年
知里真志保著 知里真志保著作集4 アイヌ語研究 編平凡社 1974年
久保寺逸彦編著 アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究 岩波書店 1977年
服部四郎編 アイヌ語方言辞典 岩波書店 1964年
ジョン パチュラー編著 アイヌ英和辞典 第3版 協文館 1926年
中川裕校訂 大塚一美編訳 キナラブック口伝アイヌ民話全集Ⅰ 北海道出版企画センター 1990年
杉村キナラブック 大塚一美 三好文夫 杉村京子著 旭川叢書(第三巻) キナラブック・ユーカラ集 旭川市 1969年
神々の物語 STORIES OF GODS 切

替英雄訳 1. オタスト人の禪の垢によって娘を生んだ山の中腹の神の話 (トゥイタック) 2. 人間をけなしたら、オタスト人に殺された山の中腹の神の話 (トゥイタック) 3. 天の神の娘に下帯を授かって幸せな結婚をした人間の女の話 (トゥイタック) 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会

1981年

英雄の物語 STORIES OF MEN 切替

英雄訳 海に浮かぶ山を泳いで引っ張ったオタスト人の話 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会

1982年

アイヌの民話 AINU FOLKORE 1 切

替英雄訳 ベッキタイの村長の次男の話。財団法人アイヌ無形文化伝承保存会 1983年

人々の物語 FABLES OF MEN 切替英

雄訳 神々や妖怪に欺かれた姉を救ったオタストの子供の話 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会

1983年

魚井一由編著 市立旭川郷土博物館研究報告第14号

太田コウンテカン オイナ・トゥイタック集

1983年

一市立旭川郷土博物館研究報告第17号 アイヌ語日

常会話編 1987年

一市立旭川郷土博物館研究報告第19号 1991年

一市立旭川郷土博物館研究報告第20号 1992年

一旭川市博物館研究報告第1号 旭川採集動詞 I

1995年

一旭川市博物館研究報告第2号 旭川採集動詞 II

1996年

一旭川市博物館研究報告第3号 旭川採集動詞 III

1997

旭川市内の在来タンポポ（エゾタンポポ）（I）

鈴木 紘一¹⁾ 盛 久良²⁾ 塩田 惇³⁾

1) 旭川市博物館

2) 旭川市大町1条9丁目

3) 旭川市10条通12丁目

1 はじめに

セイヨウタンポポは明治時代の中頃に札幌市内で栽培されたのが日本に入ってきた最初と言われる。以降北海道から全国に広まったといわれている。この帰化タンポポ（セイヨウタンポポ、図1）と在来タンポポ（エゾタンポポ、図2）に関する調査・研究については、これまでに様々な角度からされている。最近の報告の中では在来タンポポと帰化タンポポの雑種の確認などもされている。

一方、旭川市内での在来タンポポは近年ではほとんど見られなくなったという声も良く耳にするようになった。そこで、旭川市内の在来タンポポを確認しようと考え調査をしたので報告をする。

現地調査並びに在来タンポポ生息地に関する情報を寄せて協力いただいた武部孝治氏（旭川市永山町4丁目）、佐藤由雄氏（旭川市神楽6条2丁目）、高柳昭男氏（旭川市東光13条1丁目）に厚くお礼申し上げる。

2 調査方法

調査者並びに協力者の情報をもとに現地確認をした。確認方法は外総苞片が内総苞片についているものを在来タンポポ、外総苞片が反転して下に垂れ下がっているものを帰化タンポポとした。調査時期は在来タンポポの開花時期にあわせて、5月下旬～6月上旬に実施した。

又、在来タンポポの多く見られた旭山公園と神楽岡公園で10m×1mの方形区を設定しその植生調査を行った。方形区内のタンポポについては

総苞片による見分けで在来タンポポとそれ以外のタンポポに分けた（写真1・2）。

3 調査結果

東鷹栖地区の秋葉、興国両神社境内、神居地区の神居神社境内、神居墓地、嵐山公園、神楽地区の神楽岡公園、東旭川地区の旭山公園、東桜岡の旧道でそれぞれ確認をしたが、すべての個所で帰化タンポポと混在していた（図3）。

確認個所の多くは、明治～大正時代につくられた神社、墓地の造成敷地内であった。それ以外の場所では、山道脇か旧道脇の日当りのよい場所で生育していた。

4 考察

今回の調査で確認された在来タンポポの生育していた個所数は8個所であった。そのうち、嵐山公園の山道脇、東桜岡の旧道脇、興国神社境内の在来タンポポは極めて個体数が少なかった。秋葉神社、神居神社、神居墓地の3個所は数十株程度は確認できたがこれらの土地は私有地であり神社や墓石の立て替えの際に、消滅することも考えられる。旭山公園と神楽岡公園の2個所は旭川市の公園用地であり減少の著しい在来タンポポの保存に対して配慮がなされるべきと考えられる。

又、旭山公園と神楽岡公園の両公園で今回設定した方形区は今後も追跡調査ができるように設定したので次年度以降も随時調査することによりこの方形区内の在来タンポポの盛衰を見極めたい。

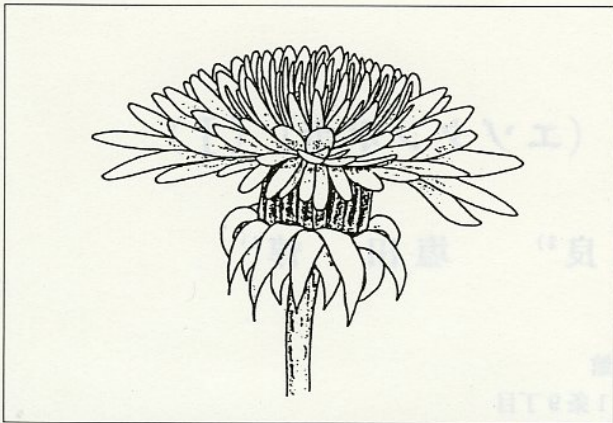


図1 帰化タンポポ（セイヨウタンポポ）

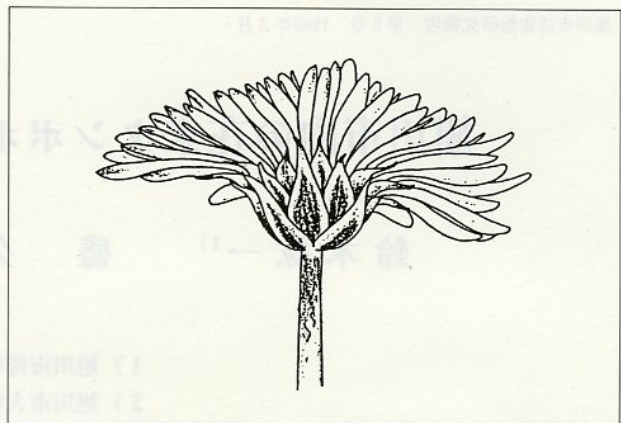


図2 在来タンポポ（エゾタンポポ）

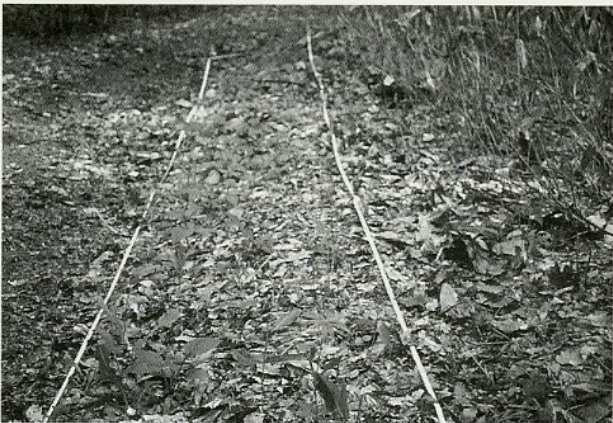


写真1 神楽岡公園の方形区

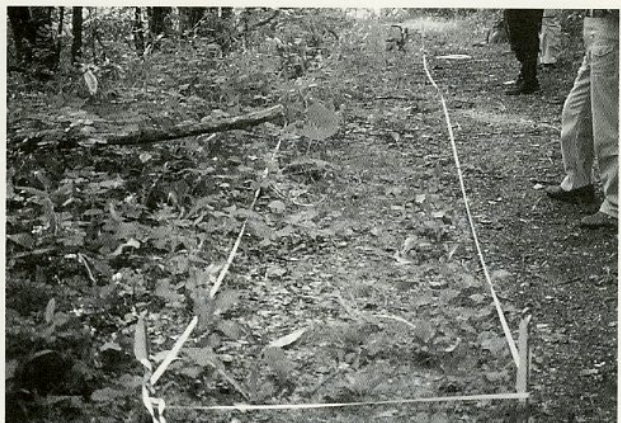


写真2 旭山公園の方形区

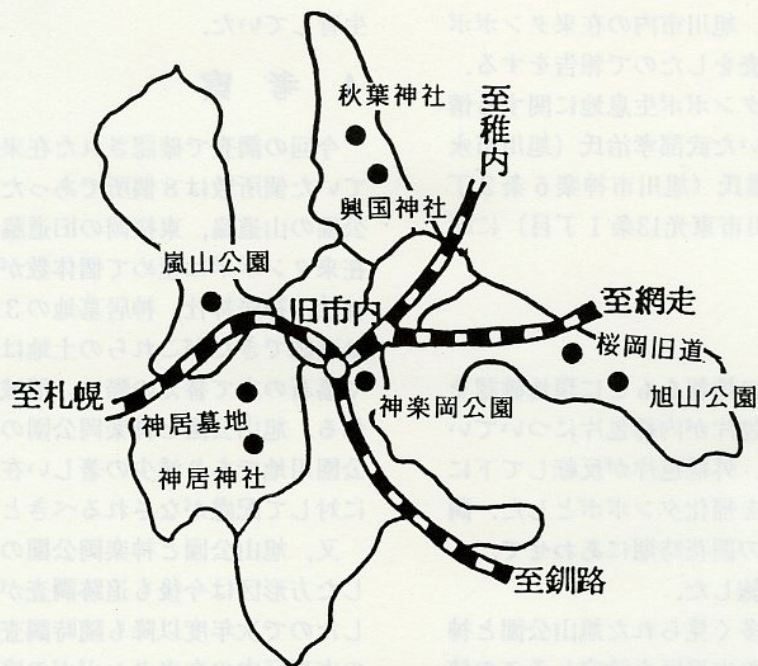


図3 在来タンポポ生育確認箇所図

調査月日 平成10年6月10日

調査区の植生一覧

記載順序は、環境庁自然保護局編「植物目録」1987に準拠した。

※数字の1・2は被度・郡度。

		〈神楽岡〉	〈旭 山〉
タデ科	エゾノギンギシ		1・2
ナデシコ科	オオヤマフスマ	2・2	1・1
キンポウゲ科	エゾカラマツ		1・2
オトギリソウ科	オトギリソウ	1・1	
バラ科	キンミズヒキ	1・2	1・2
	ミツバツチグリ	1・2	+
マメ科	ウスバヤブマメ		1・1
カタバミ科	カタバミ		1・1
ブドウ科	ヤマブドウ	1・1	
スミレ科	ミヤマスミレ		+
	ツボスミレ	1・2	
セリ科	エゾニュウ	1・1	
	オオハナウド	2・2	
	ヤブニンジン	2・2	1・1
	ウマノミツバ	1・1	
サクラソウ科	オカトラノオ	1・2	
	コナスビ	1・1	1・1
ムラサキ科	ヒレハリソウ		1・1
シソ科	ミヤマトウバナ	1・1	
ゴマノハグサ科	クガイソウ	1・2	
オオバコ科	オオバコ	1・2	2・3
キク科	シラヤマギク	1・2	
	エゾノサワアザミ	1・2	
	ハナニガナ	1・2	
	ヤマニガナ	1・1	
	アキノキリンソウ	1・2	1・2
	エゾタンポポ	1・1	+
	セイヨウタンポポ	1・2	2・2
	オオハングンソウ	1・1	
ユリ科	ヤブカンゾウ		1・1
	クルマユリ	+	
イネ科	カモガヤ	1・1	3・4
	クマイザサ	2・2	1・1
カヤツリグサ科	ヒメシラスゲ		

表1 群落組成調査表〔神楽岡・旭山公園のエゾタンポポ〕 1・2

文 献

小川 潔 (1990) : 都市化とタンポポ. 日本の生物
4号, 60-65

渡邊 幹男・小川 美穂・芹沢 俊介・神崎 護・山倉 拓
夫 (1997) : 雑種性帰化タンポポの在来タンポ
ポ生育域への侵入. 植物分類地理, 48 (1), 73
-78,

環境庁自然保護局(編) (1987) : 「植物目録」 大
蔵省印刷局

旭川市博物館に持ち込まれた斃死鳥類について

南 尚 貴

旭川市博物館

1 はじめに

近年、人間の生活圏の拡大と野生生物の人家周辺への進出に伴い、人為的原因による野生生物の事故が増加していることが報告されている(柳川, 1993; 柳川・澁谷, 1996, 1998)。旭川市博物館にも、市民の方々から斃死鳥獣や傷病鳥獣が届けられるが、これら斃死鳥獣の解析はその地域の動物の生息状況や鳥類の渡来状況についての基礎的な資料となる。

今回は、旭川市博物館に届けられた斃死鳥類について、種類と季節などをまとめて報告する。

2 結果と考察

1988年から1998年の10年間にわたって52種117体の斃死鳥類が持ち込まれた(附表)。この内上川管内以外で拾得されたトウネンとミヤマホオジロ(いずれも紋別市で拾得)を除いて以下報告する。

学名は日本産鳥類リスト(日本鳥学会目録編集委員会, 1997)によった。また、各種の渡りの有無については、日本鳥類目録(日本鳥学会, 1974)及び石川(1991)を参考にした。

なお、拾得された鳥類のうち、ハイイロウミツバメ、キジバトは保護された後に衰弱死、トビやオオタカは国道などでの交通事故死、コハクチョウは送電線に接触して死亡したものであるが、その他の各個体については死因の特定はしていなかった。多くはガラスなど建築物への衝突と猫による捕殺と思われた。

図1に拾得鳥類を渡りの習性別にその比率を示した。夏鳥が種数で49%、拾得数では46.9%を占め最も多く、次いで留鳥が種数で35%、拾得数で33.1%を占めている。冬鳥は種数で14%、拾得数で19.1%を占めていた。

図2に種ごとの拾得数を示す。キレンジャク(9羽)、センダイムシクイ(6羽)、カワラヒワ(6羽)、シメ(6羽)、スズメ(6羽)、ヒレンジャク(5羽)、ハイタカ(4羽)、コウライキジ(4羽)、アオバト(4羽)、シジュウカラ(4羽)が多かった。シメ、カワラヒワ、シジュウカラ、スズメについては、柳川ほか(1998)がガラス衝突死数が多いことを報告している。拾得された鳥類の中には、旭川市のような内陸で記録されるのが珍しいハイイロウミツバメとウトウが含まれている。ハイイロウミツバメは、1977年1月5日にも旭川市内で保護された記録がある(石川, 1991)。ウトウはこれまでに旭川市内で記録されたことがなく、これが初記録と思われる。

図3は拾得数の季節的な変動を渡りの習性別にまとめたものである。

夏鳥の渡来と冬鳥の渡去が始まる4月に拾得数が多く見られ、繁殖期の7月にはわずかに減少した。また、秋季の渡りの時期である10月及び11月に微増する傾向が見られ、1月を除いて冬季は減少している。

留鳥は1月から12月まで各月に拾得されているが、11月が全体の23%を占め特に多く見られた。夏鳥は4月から10月まであまり変動することなく拾得されているが、冬鳥は1月(23%)及び4月

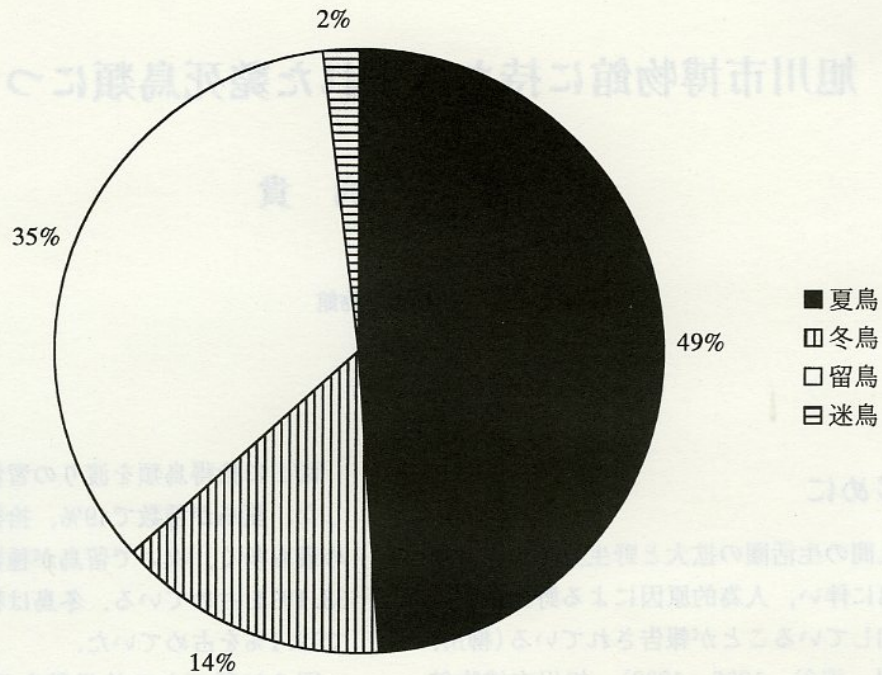


図1 拾得鳥類の習性別比

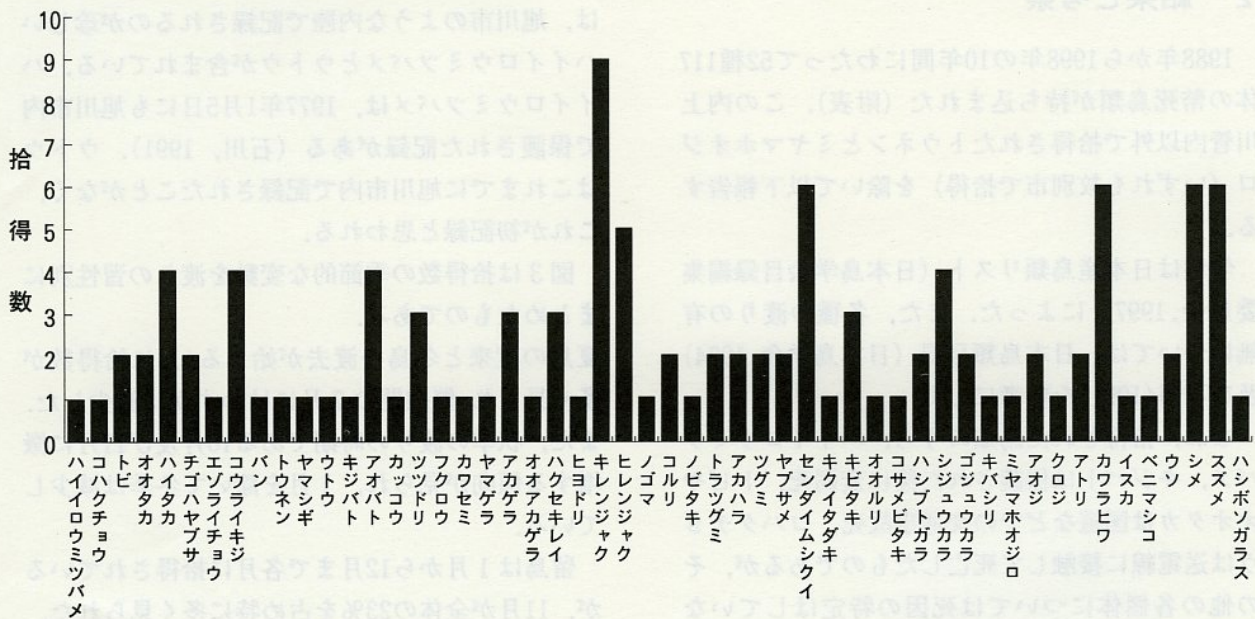


図2 種類別拾得数

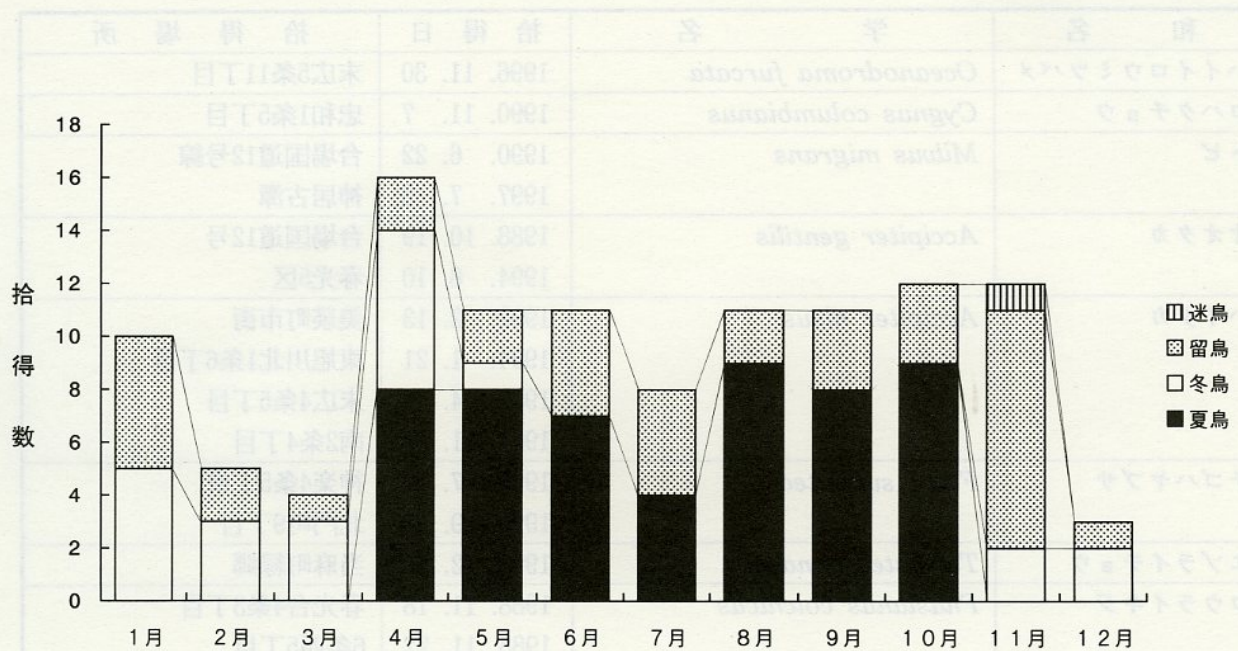


図3 拾得鳥類の季節的变化

(26%) に多くなる傾向があった。

3 引用文献

- 石川 信夫, 1991. 旭川の鳥類. 旭川市自然保護調査報告書総集編, 133-195 旭川市.
- 日本鳥学会, 1974. 日本産鳥類目録. 学習研究社, 東京. 120pp.
- 日本鳥学会目録編集委員会, 1997. 日本産鳥類リスト. 日鳥学誌, 46:59-91.
- 柳川 久, 1993. 北海道東部における鳥類の死因. Strix, 12:161-169.
- 柳川 久・澁谷 辰生, 1996. 北海道東部における鳥類の死因Ⅱ. 帯広畜産大学学術研究報告 自然科学, 19(4):73-80.
- 柳川 久・澁谷 辰生, 1998. 北海道東部における鳥類の死因Ⅲ. ガラス衝突死. 帯広畜産大学学術研究報告 自然科学, 20(4):253-258.

附表 拾得鳥類リスト

和 名	学 名	拾 得 日	拾 得 場 所
ハイイロウミツバメ	<i>Oceanodroma furcata</i>	1996. 11. 30	末広5条11丁目
コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>	1990. 11. 7	忠和1条5丁目
トビ	<i>Milvus migrans</i>	1990. 6. 22 1997. 7. 3	台場国道12号線 神居古潭
オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	1988. 10. 19 1994. 8. 10	台場国道12号 春光5区
ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	1992. 2. 13 1994. 1. 21 1994. 4. 9 1997. 11. 26	美瑛町市街 東旭川北1条6丁目 末広4条5丁目 南2条4丁目
チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	1990. 7. 20 1990. 9. 28	神楽4条5丁目 北門町9丁目
エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>	1990. 12. 10	当麻町緑郷
コウライキジ	<i>Phasianus colchicus</i>	1988. 11. 18 1988. 11. 22 1989. 11. 2 1994. 1. 29	春光台4条3丁目 6条西5丁目 東神楽町11号 春光台
バン	<i>Gallinula chloropus</i>	1994. 6. 28	神居古潭
トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	1991. 10. 9	紋別市興部町沙留
ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	1993. 10. 20	神楽3条7丁目
ウトウ	<i>Cerorhinca monocerata</i>	1992. 11. 15	末広
キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	1993. 10. 7	神楽3条7丁目
アオバト	<i>Sphenurus sieboldii</i>	1989. 9. 1 1990. 8. 10 1991. 6. 9 1998. 6. 30	4区2条3丁目 神居3条7丁目 神居墓地 東5条西4丁目
カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	1988. 9. 3	末広8条1丁目
ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>	1989. 9. 6 1990. 9. 5 1994. 8. 25	忠和8条6丁目 神楽6条8丁目 旭岡1丁目
フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	1990. 2. 20	嵐山
カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	1992. 7. 8	東旭川町日の出
ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>	1991. 9. 10	神楽6条8丁目
アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	1990. 6. 15 1990. 8. 25 1998. 9. 1	春光町 嵐山 神楽3条7丁目
オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	1992. 1. 20	神楽6条8丁目
ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	1989. 4. 13 1989. 4. 13 1996. 6. 15	6条10丁目 6条10丁目 神楽3条7丁目

和 名	学 名	拾 得 日	拾 得 場 所
ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	1990. 5. 14	嵐山
キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>	1988. 12. 20	神楽6条8丁目
		1988. 12. 22	美瑛町
		1989. 1. 19	神楽岡2条
		1989. 1. 19	神楽岡2条
		1989. 1. 19	忠和1条
		1989. 4. 11	神居5条13丁目
		1989. 5. 12	春光台2条2丁目
		1995. 4. 3	旭岡1丁目
ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	1997. 2. 13	神居2条21丁目
		1995. 2. 10	西神楽中学校
		1995. 3. 4	東旭川南1-8
		1995. 4. 1	神楽岡8条3丁目
		1995. 4. 3	旭岡1丁目
ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	1995. 4. 3	旭岡1丁目
コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	1993. 9. 1	神楽3条7丁目
ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>	1989. 5. 19	旭川西高校
		1991. 4. 26	嵐山
トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	1990. 6. 12	嵐山
アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	1990. 10. 27	南7条26丁目
		1998. 7. 4	美瑛町北瑛
ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	1995. 10. 26	美瑛町市街
		1997. 4. 29	神楽3条7丁目
ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	1990. 3. 12	東光14条7丁目
		1996. 11. 12	神楽3条7丁目
センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	1989. 5. 8	神楽4条3丁目
		1998. 8. 30	神楽3条7丁目
		1988. 9. 5	永山3条23丁目
		1991. 10. 7	6条10丁目
		1992. 8. 10	6条9丁目
		1993. 10. 9	神楽3条7丁目
キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	1996. 10. 5	西神楽
		1998. 8. 25	神居1条13丁目
キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	1993. 11. 2	6条10丁目
		1994. 5. 12	5条18丁目
		1994. 5. 16	嵐山
オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	1994. 6. 30	嵐山
コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	1997. 5. 13	下江丹別
		1992. 8. 8	東川町市街

和 名	学 名	拾 得 日	拾 得 場 所
ハシブトガラ	<i>Parus palustris</i>	1991. 10. 30	4条8丁目
		1997. 4. 18	神楽岡4条7丁目
シジュウカラ	<i>Parus major</i>	1990. 4. 19	神楽6条8丁目
		1992. 6. 5	神楽岡8条3丁目
		1996. 5. 20	神楽3条7丁目
		1996. 11. 2	神楽3条7丁目
ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	1991. 11. 5	比布町
		1992. 1. 20	神楽6条8丁目
キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	1991. 10. 28	10条10丁目
ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	1990. 11. 22	紋別市興部町沙留
アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	1992. 7. 15	神楽6条8丁目
		1994. 5. 18	西神楽南2条3丁目
クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	1998. 5. 14	東川町西4北4
アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	1990. 1. 25	神楽6条8丁目
		1991. 4. 25	春光町4区1条1丁目
カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	1989. 9. 1	6条10丁目
		1991. 4. 26	6条10丁目
		1991. 6. 22	神楽岡5条4丁目
		1993. 8. 30	神楽3条7丁目
		1993. 8. 30	神楽3条7丁目
		1994. 8. 25	旭岡1丁目
イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>	1995. 3. 22	忠和6条1丁目
ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	1998. 4. 15	美瑛町北瑛
ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	1992. 1. 20	神楽6条8丁目
		1995. 2. 17	神居6条6丁目
シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	1989. 5. 26	神居町雨紛園芸センター
		1990. 10. 23	春光2区3条
		1991. 10. 9	神楽6条8丁目
		1997. 4. 29	神楽3条7丁目
		1998. 4. 6	神楽3条7丁目
		1998. 4. 6	神楽3条7丁目
スズメ	<i>Passer montanus</i>	1988. 7. 26	神居町雨紛
		1991. 6. 22	神楽岡4条7丁目
		1991. 11. 14	神楽岡4条7丁目
		1993. 9. 1	神楽3条7丁目
		1997. 1. 7	神楽3条7丁目
		1997. 7. 13	神楽岡8条3丁目
ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	1998. 7. 21	神楽3条7丁目

旭川から産出する黒曜石について

The Obsidian from the area of Asahikawa

向 井 正 幸

Masayuki Mukai

旭川市博物館 Asahikawa City Museum

1 はじめに

黒曜石は、全国ほとんどの遺跡からも多数発見されているように、先史時代の人々にとって、尖頭器・石鏃・石匙などの剥片石器の材料として利用されてきた重要な石材のひとつである。また現代人にとっても、遺跡から出土する黒曜石と様々な原産地の黒曜石を蛍光X線分析法により分析・比較することで、遺跡から出土する黒曜石の原産地が特定できたり、FT法(フィッショントラック法)の分析により黒曜石の原石自体の噴出年代や原産地を特定したり、水和層年代測定法を適用することにより遺跡の年代も明らかにすることができるなど、その利用価値は計り知れないものがある。

黒曜石の原産地は、現在まで知られているだけでも北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州など離島を含めた全国各地に分布している。原産地の数も各地における遺跡の発掘や周辺の地質調査が進むにつれて年々増加し、既に70箇所以上確認されている(藁科 1998)。そのうち北海道における原産地は、白滝、赤井川、置戸、名寄、十勝三股、秩父別、美蔓、豊泉、滝川、近文台(旭川市)、下川などが知られている。

今回、筆者による地表踏査により、旭川における黒曜石について若干の知見を得たので報告する。

2 地質概説

黒曜石を産出する旭川の周辺における地質(図

1)は次のようになる。すなわち下位より先新第三系(日高累層群、蝦夷累層群、神居古潭変成岩類)、新第三系中新統の中期中新世堆積岩類、中新世火山岩類、鮮新統の鮮新世溶岩と旭川層、第四系更新統の中位段丘堆積物、完新統の低位段丘堆積物と現河川氾濫原堆積物より構成される(岡ほか 1997)。以下に、その地質概説を記述する。

2-1 先新第三系

a) 日高累層群

旭川東方の東旭川旭山周辺に分布する。砂岩や泥岩の他、チャートや石灰岩、更に緑色岩類から構成される。大雪山系の基盤岩としてもひろく分布する。

b) 蝦夷累層群

旭川を中心付近一帯の基盤岩として分布する他、旭川北方の鷹栖町付近の丘陵地一帯にひろく露出する。炭質物が目立つ泥岩や砂岩で構成される他、化石を含んだ石灰岩を局所的にはさむ。

c) 神居古潭変成岩類

石英片岩・泥質片岩・緑色片岩・藍閃石片岩などの各種結晶片岩類と蛇紋岩・石灰岩・角閃岩からなる。旭川西方の幌内山地を構成し、それを東西に横切る神居古潭峡谷で大規模に露出している他、江丹別峠や幌加内峠でも良好に露出する。旭川市内では、伊野川流域、江丹別川流域など上川盆地の西側に分布する他、当麻町付近にも一部露出する。

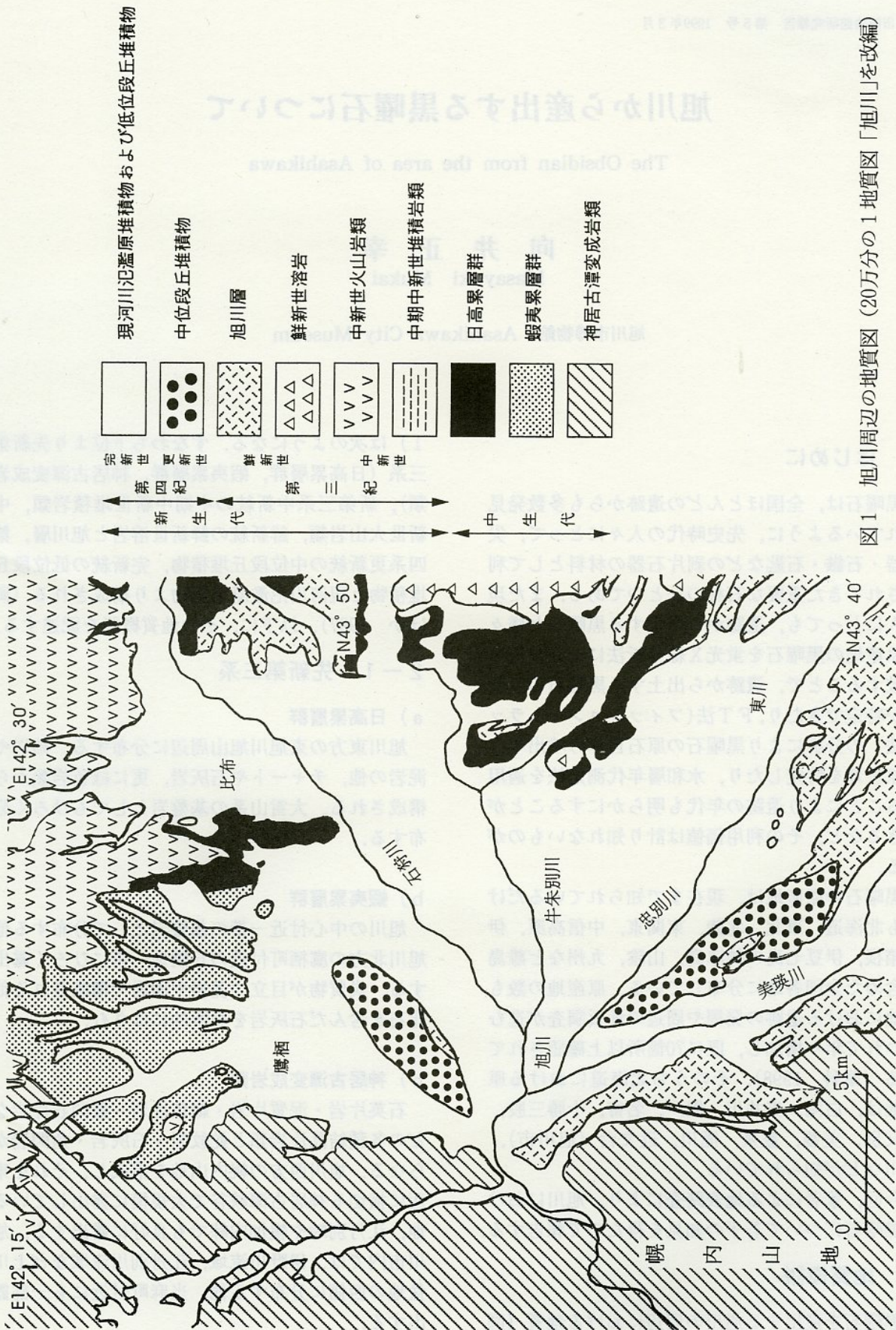


図1 旭川周辺の地質図 (20万分の1地質図「旭川」を改編)

2-2 新第三系中新統

a) 中期中新世堆積岩類

旭川市南西方の上雨紛地区、雨紛川沿いの限られた範囲で露出する。チリワレ状に細かく碎ける灰～黒色の塊状の砂質泥岩。広葉樹の葉の化石も含まれる。美瑛町美開地区で見られる美瑛層中の泥岩部にやや類似する。

b) 中新世火山岩類

旭川市南西方の雨紛台神居町共栄地区の狭い範囲と南東方の東神楽忠栄地区の狭い範囲に分布する。火砕流堆積物として存在するが、基質部分はかなり粘土化して著しく赤褐色に変色している。含まれる安山岩や流紋岩質の岩石も粘土化が進み、かなり風化が進んでいるのが特徴である。

東旭川米飯地区の一部には、変質により緑色を呈する凝灰角礫岩が露出する。

2-3 新第三系鮮新統

a) 鮮新世溶岩

旭川東方にひろく分布する両輝石安山岩。東旭川米飯地区で良好に露出する。上岐登牛付近の米飯山溶岩のK-Arの放射性年代測定によると 3.4 ± 0.2 Ma (池田・田近 1983) の値が知られている。下位の緑色に変質した凝灰角礫岩を覆う。

b) 旭川層下部(砂礫岩・泥岩部層)

砂礫岩・泥岩から構成される。旭川市街中心部における層厚は最大約200mに達する。含まれる礫種は、緑色片岩やチャートなどの変成岩類、安山岩や閃緑岩などの火成岩類、そしてシルト岩や泥岩などの堆積岩類から構成される。また、泥岩と砂礫岩の不規則な互層やそれらに含まれる一部炭化した材化石の存在などから、河川堆積物と考えられる。

雨紛台北部の高砂地区や富沢地区などの伊野川流域、雨紛地区や上雨紛地区などの雨紛川流域、神楽岡公園周辺の忠別川河床、見本林裏側の美瑛川河床に露出している他、ボーリング調査等により上川盆地を構成する基盤岩の上に堆積しているのが知られている。

c) 旭川層上部(火砕岩部層)

旭川層の火砕岩部層に相当する。上川盆地内では、ガウス正帯磁期後半(2.7Ma前後)に堆積した雨月沢火砕流堆積物と松山逆帯磁期のオルドバイ事変(約1.75Ma前後)の頃の美瑛火砕流堆積物が知られている(池田・向山 1983)。

雨月沢火砕流堆積物は主に雨紛台と旭川南西部に分布が知られている。基盤岩類を不整合に覆い、美瑛火砕流堆積物に不整合で覆われる。層厚は、旭川南西部において約70m以上あり、その一部は雨紛川により浸食され大きな崖として露出している。紫褐色～灰色の流紋岩質凝灰岩で、溶結部と非溶結部が存在する。斑晶は少なく(10vol.%以下)、石英・斜長石・斜方輝石からなる。広域的に見ると、大雪～十勝火山列の北西方向に広がる。

美瑛火砕流堆積物は、雨紛台、旭川南方、そして近文台の一部に分布する。雨月沢火砕流堆積物・基盤岩類・米飯山溶岩を不整合に覆う。灰色の石英安山岩質の凝灰岩で、溶結部と非溶結部が存在する。斑晶はやや多く(20～25vol.%以下)、石英・斜長石・黒雲母・角閃石・斜方輝石からなる。広域的に見ると、大雪～十勝火山列の北西方向に広がる。かつて美瑛軟石の名称で建築用石材として利用された。

2-4 第四系更新統

神楽岡～緑が丘～西神楽にかけての神楽台と近文台の台地を構成する。下部礫層と上部泥層に分けられる。

a) 中位段丘堆積物 下部礫層

下位の火砕流堆積物を不整合に覆う。主に安山岩質からなる火山岩が層中に含まれる他、緑色片岩、チャート、ホルンフェルス、石英閃緑岩、石英安山岩や粘板岩も含まれる。5mm程度のものから握り拳大の円礫が多く含まれる。どちらも基質は、一部粘土化した火山灰質の堆積物である。

b) 中位段丘堆積物 上部泥層

緑が丘南端部から西神楽の台地の表層にひろく分布する。ここに分布する粘土は神楽粘土として知られており、現在でも煉瓦の原料として利用される。火山灰質起源の粘土である。

2-5 第四系完新統

雨紛台・近文台・神楽台以外の低地にひろく分布する。

a) 低位段丘堆積物

旭川市内を流れる四大河川である石狩川・牛朱別川・忠別川・美瑛川により形成された。礫種は、火成岩類の礫が多く見られる他、砂層や泥層も見られる。かつては微地形として市街地にも数多く存在したが、現在ではほとんど都市開発によって消失している。河川敷に多く露出する。

b) 現河川氾濫原堆積物

各河川を囲むように分布する。礫種は河川の後背地を反映している。砂層や泥層も所々で見られるが、数m程度の厚さである。

3 黒曜石礫の特徴について

従来より、河川の浸食から取り残された旭川の台地から黒曜石礫が採集されることが知られている。それは大きく分類して雨紛台北部、雨紛台南東部、近文台南東部一帯、近文台北西部（図2）に集中する。今回筆者によって新たに採集された近文台北西部は、高規格道路の建設工事に伴って産出したものである。

3-1 雨紛台北部（高砂地区）

火山灰採取のために削られた露頭から黒曜石礫が産出する。露頭（写真1）の下部には塊状の軽石流堆積物が見られ、ほとんどが5～6cm前後の軽石（最大で20cm程度）と少量の1cm前後からなる安山岩や黒色のホルンフェルスなどの円礫と間を埋める火山灰からなり、部分的にブロックとして1m前後の凝灰質シルト岩を所々に含む。それらをレンズ状・楔状に削り込んで、黒曜石礫を含む礫層が見られる。礫層は塊状で、しかも礫が密に入っている。また礫と礫との間を埋める泥や砂の粒子は、褐鉄鉱によって赤茶けてかためられているため、全体的に赤茶けてややかたい礫岩という印象である。礫種は、蛇紋岩、緑色片岩、泥質片岩、チャート、ホルンフェルスなどの変成岩類や安山岩、流紋岩、石英安山岩、石英閃緑岩などの火成岩類、そして凝灰質シルト岩や頁岩、泥岩などの堆積岩類が見られ、礫の大きさは数mm～10cm程度の大きさである。

その中で黒曜石礫は周囲の礫と調和的に層中に含まれ（写真2）、大きさは4～8cm程度である。礫の内部は黒色を呈するが、礫表面は運搬時の磨耗によりほとんど平滑になっている。また堆積後の風化によって水和層が形成され、黒曜石礫の表面全体が濁ってかなり白色がかっている。肉眼では、黒曜石礫中にクリストバライトなどのスフェルライトは一切確認できない。今回このような黒曜石礫をType-1（写真3）と分類する。

この層を不整合によって礫層が更に幾層にも覆っている。礫層は成層している部分と斜交成層している部分が見られる。成層している部分の地層にも、5mm前後の黒曜石礫がわずかであるが含まれているのが確認できた。

火山灰採取場の露頭最上部の礫層中にも黒曜石礫を産し、高砂地区の露頭においては、ほとんどが最上部の礫層からの産出である。ここから産出する黒曜石礫は、数cm～10cm程度の円礫で、黒曜石自身の不均質さに起因すると一部考えられる深く太い皺（むしろ“溝”という表現が適当）によって、礫の表面が覆い尽くされているが目立つ。色は黒色を呈する他、灰色を呈するものも多数存在する。灰色を呈する黒曜石礫の断面では、冷却時におけるマグマの流動線である流理構造が、黒～灰色の帯状になっているのがよく観察できる。これらの黒曜石礫にもクリストバライトなどのスフェルライトは一切含まれていない。このような黒曜石礫をType-2（写真4）と分類する。

更に採集された量は少ないが、主に近文台北西部から産出するType-4（後述）に酷似した黒曜石礫も確認されている。

高砂地区ではType-1・2・4の黒曜石礫が見られるが、Type-2の黒曜石礫が他のタイプの礫に比べて数量的に卓越する。

高砂地区の露頭は、礫の構成種や堆積構造より河川堆積物と考えられる。露頭より上方には旭川層上部に相当する美瑛火砕流堆積物が見られる。すなわち雨紛台北部の高砂地区から産出する黒曜石礫の層準は、旭川層下部の砂礫岩・泥岩部層に相当する。

3-2 雨紛台南東部（雨紛地区）

雨紛地区から発掘された雨紛2遺跡のほぼ真南に当たる台地の畑地から、旭川市教育委員会の友

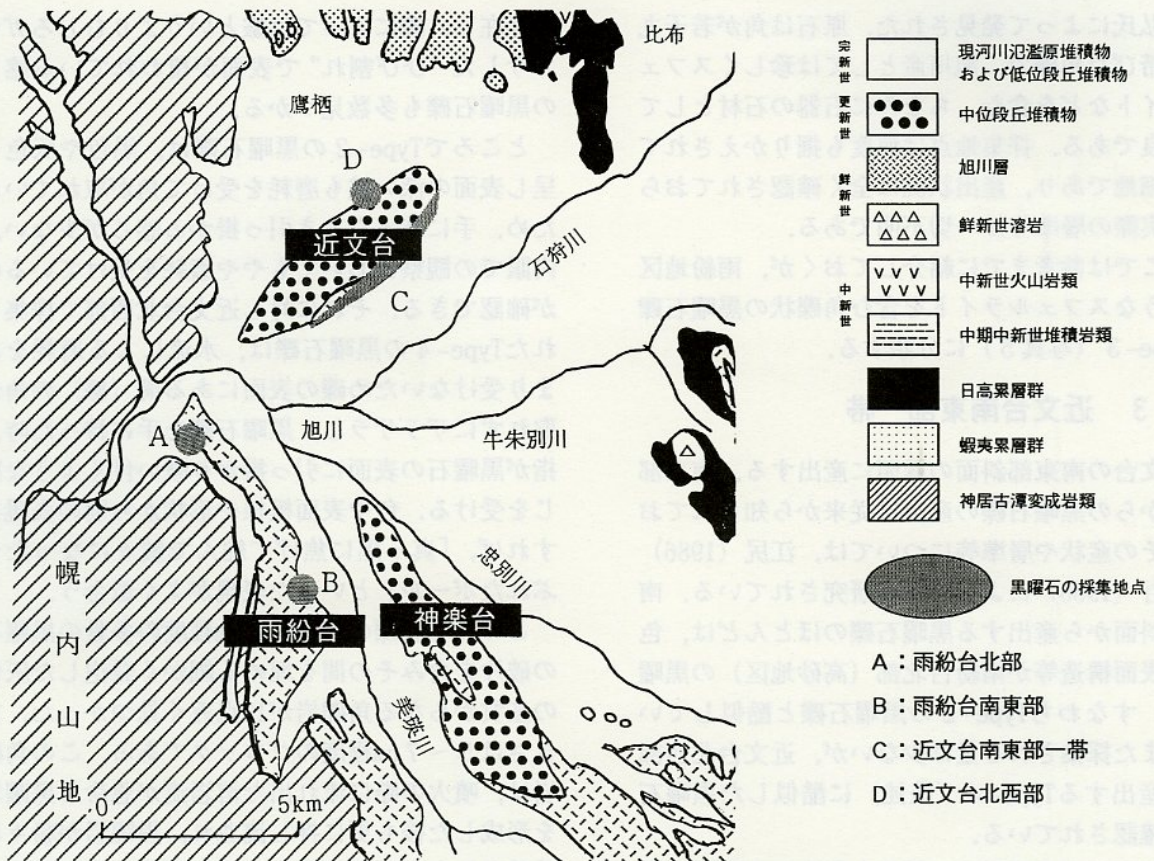


図2 台地から産出する黒曜石礫の採集地点

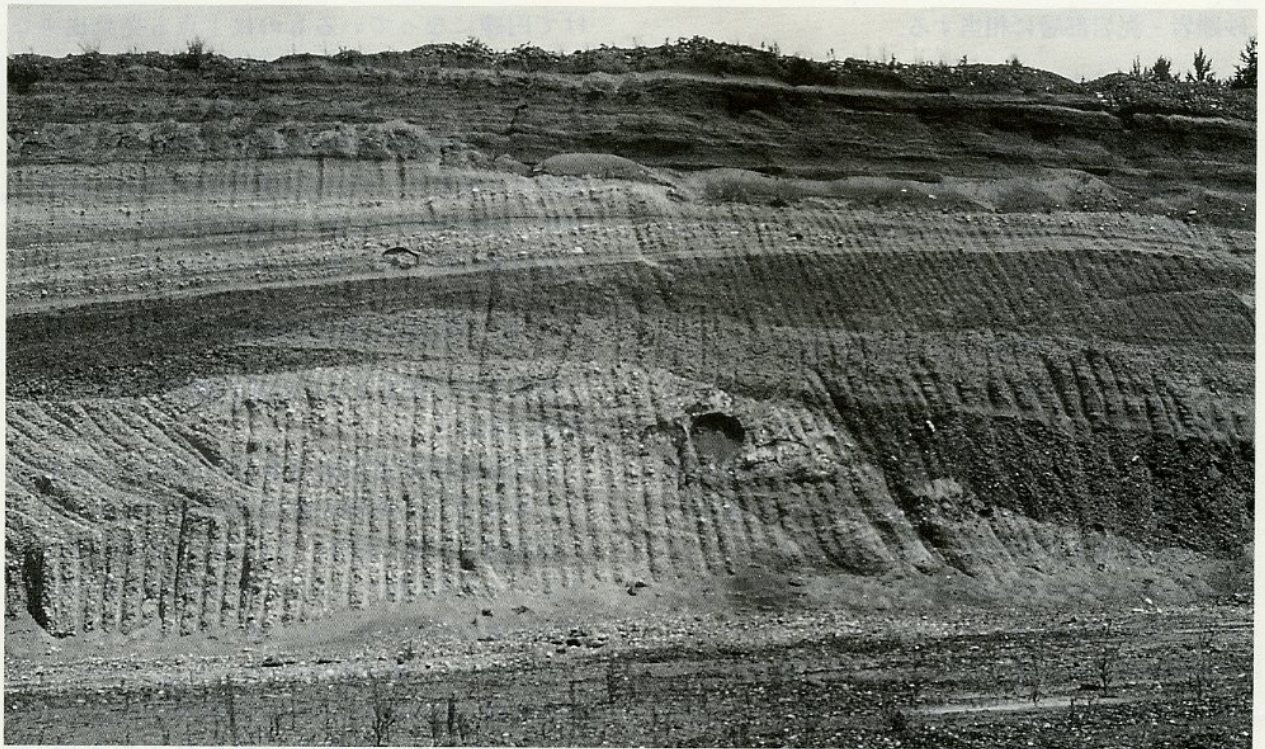


写真1 雨紛台北部の火山灰採取場の露頭

田哲弘氏によって発見された。原石は角が若干丸みを帯びた角礫で、旭川産としては珍しくスフェルライトなどを含む。ちなみに石器の石材としては不良である。採集地点は何度も掘りかえされている畑地であり、産出状況は全く確認されておらず、実際の層準等は一切不明である。

ここでは参考までに紹介しておくが、雨紛地区のようなスフェルライトを含む角礫状の黒曜石礫をType-3（写真5）に分類する。

3-3 近文台南東部一帯

近文台の南東部斜面の露頭に産出する。南東部斜面からの黒曜石礫の産出は従来から知られており、その産状や層準等については、江尻（1986）や中谷（1986）によって調査研究されている。南東部斜面から産出する黒曜石礫のほとんどは、色調・表面構造等が雨紛台北部（高砂地区）の黒曜石礫、すなわちType-2の黒曜石礫と酷似している。また採集される量は少ないが、近文台北西部から産出するType-4（後述）に酷似した黒曜石礫も確認されている。

近文台の南東部斜面一帯から産出した黒曜石礫の層準は、現地地で再検討を加えた結果、礫の構成種や堆積構造より高砂地区と同様の旭川層下部の砂礫岩・泥岩部層に相当する。

3-4 近文台北西部

近文台北西部（東鷹栖8線8号付近）の高規格道路の建設に伴い黒曜石礫が発見された。採集される礫はType-2も見られるが数としてはやや少なく、以下のType-4（写真6）の黒曜石礫が卓越している。

近文台北西部で採集される黒曜石礫はほとんど黒色を呈する。礫は3～4cm前後の小さいものでは扁平な形をするものが多く見つかるが、それより大きいものでは楕円体の形状をもった黒曜石礫が多く存在する。角が丸みを帯びやや三角錐状に近い黒曜石礫も見られる。全体的に大きさは、5mm程度のものから10cm程度のものまで幅広くかつ大量に採集できるが、ここでもクリストバライトなどのスフェルライトを含んだ黒曜石礫は存在しない。割れ口は鋭利で貝殻状断口で漆黒の色をしている。近文台北西部の黒曜石礫も表面全体に太さ0.5mm～1mm程度の虫喰い状の不規則な皺が多

数存在し、礫によっては皺というよりむしろガサガサした“ひび割れ”で表面が覆われている感じの黒曜石礫も多数見つかる。

ところでType-2の黒曜石礫は、黒色や灰色を呈し表面の深い皺も磨耗を受けて角が取れているため、手に持ったとき引っ掛かる感じが少ない。肉眼での観察においてもやや磨耗を受けているのが確認できる。それに対し近文台北西部で採集されたType-4の黒曜石礫は、水流による磨耗をあまり受けないため礫の表面にある溝（皺）の角が取れずにザラザラし、黒曜石礫を手に持った時、指が黒曜石の表面に引っ掛かり吸い付くような感じを受ける。色や表面模様や形状から別の表現をすれば、「真っ黒に焦げて縮んで皺々になったつぶれたボール」といった表現がよく似合う。

この黒曜石礫の他に、5mm程度の多量の黒曜石の破片を含みその間を埋める細かく発泡した灰色の基質からなる角礫岩が10点近く見つかった。大きさは5～7cm程度のブロックである。この角礫岩は、噴火の際に流れ出た溶岩流が急冷し黒曜岩を形成した後も更に押し流され、黒曜岩が粉々に破碎されながら不純物と一緒に固まった部分かもしれない。現地地で採集されたものは、人為的に割れて角礫になったことも考えられるが、磨耗を受けて円礫になっているものは1点も発見出来なかった。ほとんど黒曜石の破片からできている角礫岩をType-5（写真7）とする。

近文台北西部の東鷹栖8線8号付近は、第四紀更新世に堆積した中位段丘堆積物の層準に相当し、新第三紀鮮新世に堆積した旭川層下部の砂礫岩・泥岩部層とは、全く異なる時代である。

3-5 黒曜石礫の特性について

参考までに採集された黒曜石礫の特性について簡単に触れる。

近文台北西部（第四紀更新世の中位段丘堆積物）より採集された黒曜石礫500個のL（長径）－H（中間径）－W（短径）を計測したのが、表1である。それをL-Hグラフにしたものが図3であり、黒曜石礫の平均の比（L/H/W）は、4.6:3.5:2.5となる。礫の形状分類（Zingg, 1935）と球形度曲線（Krumbein, 1941）をあわせた図4にプロットすると、球状に分類されるのが243個（48.6%）、円盤状が180個（36.0%）、棒状が47



写真 2 : 雨紛台北部礫層中の黒曜石



写真3：黒曜石 (Type-1)

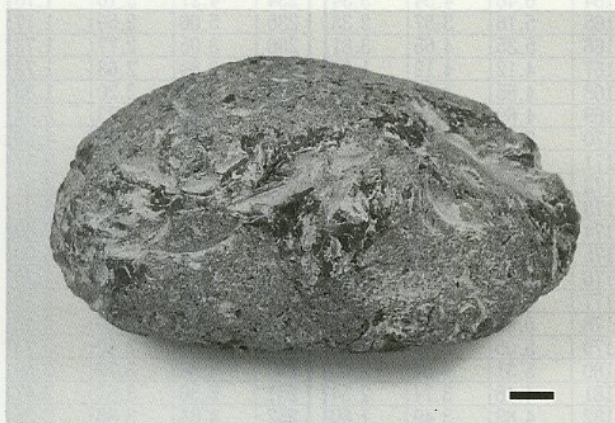


写真4：黒曜石 (Type-2)

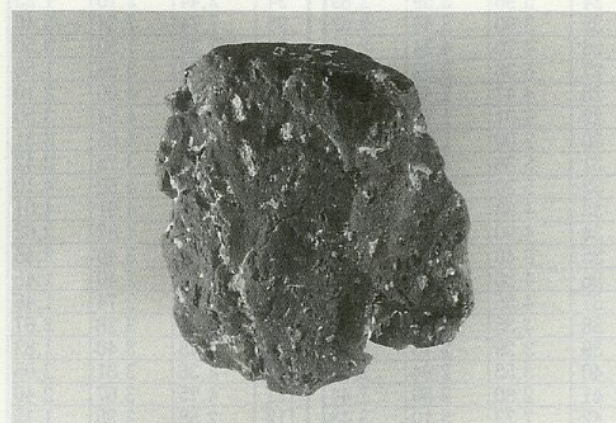


写真5：黒曜石 (Type-3)



写真6：黒曜石 (Type-4)

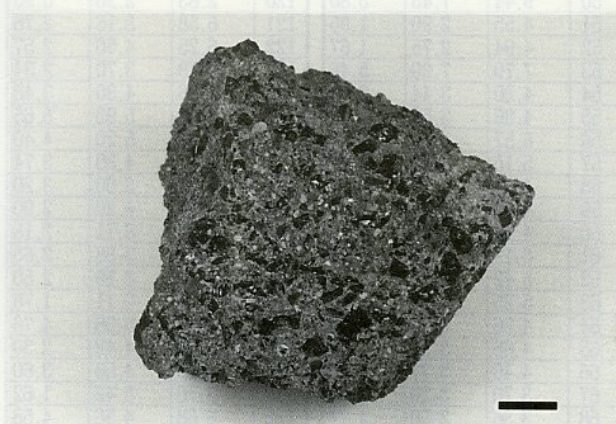


写真7：黒曜石 (Type-5)

スケールバー : 10mm

No.	(cm) 長	(cm) 中間径	(cm) 短径	No.	(cm) 長	(cm) 中間径	(cm) 短径	No.	(cm) 長	(cm) 中間径	(cm) 短径	No.	(cm) 長	(cm) 中間径	(cm) 短径
1	4.80	4.30	3.92	71	3.27	2.68	1.64	141	3.08	2.15	1.48	211	3.40	2.79	1.69
2	4.75	4.38	2.66	72	3.93	3.44	3.09	142	4.97	3.58	3.25	212	4.33	2.63	1.60
3	4.70	4.00	2.26	73	3.89	3.05	1.86	143	4.87	3.57	2.39	213	3.80	2.90	1.68
4	4.87	4.00	2.02	74	6.10	5.60	3.57	144	3.94	3.23	2.38	214	5.83	5.46	4.18
5	5.58	4.07	2.90	75	6.02	4.94	4.42	145	4.13	3.13	2.70	215	7.53	4.52	2.94
6	3.93	2.70	1.74	76	5.83	5.47	3.74	146	4.58	4.07	2.75	216	6.39	5.26	4.63
7	4.67	4.32	3.11	77	5.68	4.53	4.44	147	3.22	2.92	1.90	217	6.13	4.51	3.89
8	4.14	3.55	3.25	78	4.14	3.70	3.49	148	3.58	2.55	1.57	218	4.73	3.30	2.57
9	4.72	4.28	2.53	79	4.89	3.77	3.50	149	2.97	2.78	2.20	219	4.31	3.36	2.63
10	4.52	3.35	2.78	80	4.18	3.65	2.76	150	4.35	2.80	1.66	220	4.63	4.10	2.07
11	5.45	4.35	4.22	81	4.44	3.02	2.40	151	6.02	5.54	4.35	221	4.32	3.59	2.50
12	4.22	3.37	3.00	82	4.40	3.54	1.83	152	6.15	4.78	2.45	222	5.14	3.54	2.13
13	5.94	5.00	3.76	83	5.11	4.17	3.88	153	6.57	5.11	3.68	223	5.09	4.49	3.58
14	5.30	4.30	4.05	84	6.77	6.24	5.19	154	5.31	4.45	3.58	224	4.99	4.11	3.15
15	4.27	3.43	3.43	85	6.93	5.94	3.66	155	5.80	3.60	1.96	225	4.45	4.13	3.09
16	6.88	4.22	1.86	86	4.84	4.14	4.07	156	4.29	3.95	2.88	226	4.42	3.98	2.56
17	4.01	3.13	2.73	87	4.51	3.83	1.66	157	4.94	2.69	2.66	227	5.70	4.18	3.30
18	5.30	3.50	2.25	88	4.38	3.56	1.99	158	6.10	5.31	3.16	228	4.85	3.74	3.23
19	5.03	4.14	3.35	89	3.70	3.10	1.77	159	2.64	2.58	2.13	229	4.04	3.26	2.80
20	5.87	4.62	3.54	90	3.37	2.68	1.65	160	3.66	3.62	2.33	230	4.06	3.00	2.19
21	4.59	3.75	2.52	91	2.87	2.73	1.27	161	5.17	3.58	1.80	231	4.24	3.54	2.35
22	6.50	4.60	3.05	92	2.81	2.23	1.58	162	5.04	3.43	2.83	232	3.55	3.17	2.22
23	5.33	4.12	3.00	93	3.25	1.75	1.00	163	5.53	5.30	4.30	233	4.74	3.42	1.81
24	5.95	3.59	2.89	94	2.44	2.10	1.25	164	6.46	4.54	3.34	234	4.27	3.16	1.76
25	3.90	3.46	2.62	95	7.74	7.34	5.46	165	5.16	3.57	2.33	235	5.06	2.59	1.17
26	4.70	4.24	2.15	96	7.35	7.30	3.50	166	5.35	4.65	3.81	236	3.05	2.77	1.73
27	5.36	3.92	1.82	97	4.48	3.94	1.56	167	4.12	4.12	1.99	237	2.89	2.63	1.72
28	4.47	2.46	2.07	98	4.83	4.00	2.10	168	4.55	4.33	3.87	238	3.08	2.20	1.33
29	2.91	1.77	1.53	99	6.49	4.54	3.50	169	4.69	3.56	2.70	239	7.68	6.23	5.54
30	2.00	1.95	1.50	100	6.18	4.85	3.31	170	5.70	5.09	3.10	240	5.70	4.70	4.59
31	5.36	4.80	3.28	101	4.46	3.75	2.42	171	3.94	2.82	2.01	241	5.42	4.57	3.37
32	5.30	5.05	3.07	102	5.23	4.62	4.10	172	4.05	3.15	1.46	242	7.30	4.57	3.57
33	4.98	4.37	3.70	103	5.58	4.91	4.01	173	3.80	3.05	2.54	243	6.31	4.08	3.31
34	4.90	4.20	4.07	104	5.11	4.82	2.62	174	3.36	2.33	1.89	244	5.65	4.83	2.89
35	6.40	5.56	4.54	105	4.82	3.40	2.46	175	4.21	2.45	1.73	245	5.29	3.16	3.00
36	4.80	4.58	3.64	106	3.10	2.40	1.45	176	6.12	4.78	4.02	246	5.20	2.83	2.29
37	4.55	3.97	3.02	107	5.20	2.74	1.46	177	4.80	4.35	3.50	247	4.03	3.18	2.15
38	4.35	3.54	2.21	108	5.95	3.28	2.67	178	5.84	4.52	3.02	248	5.66	5.10	2.43
39	3.29	2.76	1.74	109	4.48	3.40	1.82	179	5.05	3.79	3.35	249	5.32	3.40	2.73
40	3.53	2.94	2.56	110	4.36	3.81	2.05	180	5.31	4.54	3.05	250	3.86	3.79	2.59
41	2.80	2.50	1.44	111	4.75	3.67	2.40	181	4.46	3.74	2.54	251	5.30	3.62	2.47
42	7.73	5.10	3.48	112	2.58	2.35	1.15	182	4.89	3.49	1.60	252	4.84	3.88	2.35
43	6.56	4.43	3.62	113	2.80	1.66	1.19	183	3.89	3.18	1.57	253	4.42	3.73	2.66
44	6.88	5.80	4.12	114	4.85	4.45	3.26	184	4.95	4.49	1.94	254	4.70	2.97	2.58
45	7.78	5.27	5.11	115	8.23	6.30	4.52	185	3.70	3.50	2.18	255	5.15	3.15	2.94
46	5.90	5.33	3.67	116	3.65	2.41	1.66	186	2.72	2.60	1.79	256	4.44	3.57	2.23
47	4.49	3.40	2.77	117	3.65	2.15	1.67	187	3.43	3.16	2.50	257	3.57	2.88	2.79
48	3.43	2.43	2.42	118	2.20	1.73	1.00	188	3.32	2.63	1.45	258	4.37	3.03	2.03
49	3.55	3.11	2.39	119	2.41	1.90	1.31	189	5.32	4.60	2.90	259	3.33	2.85	2.68
50	9.44	7.43	5.80	120	2.83	2.26	0.95	190	5.84	4.28	2.83	260	4.03	2.85	1.61
51	4.55	2.90	1.95	121	6.58	3.16	2.76	191	4.57	4.26	3.75	261	3.95	2.79	2.01
52	4.94	2.75	1.67	122	6.25	4.50	2.57	192	4.67	4.33	3.13	262	3.58	2.36	1.08
53	7.70	7.20	5.46	123	4.78	3.70	2.34	193	5.33	4.37	3.41	263	7.04	5.45	4.16
54	4.20	3.44	2.12	124	5.16	4.30	3.48	194	4.10	3.50	3.28	264	7.18	5.71	4.22
55	4.36	3.58	2.90	125	7.30	5.93	5.65	195	3.90	3.26	1.78	265	5.88	5.27	4.08
56	6.57	5.56	5.11	126	7.50	5.20	4.40	196	4.89	3.00	1.64	266	7.35	4.75	3.65
57	5.15	4.57	2.94	127	6.17	4.39	3.74	197	4.41	2.73	1.72	267	4.81	4.43	3.16
58	4.55	3.39	2.52	128	5.50	3.60	3.20	198	4.18	3.43	1.98	268	4.57	4.18	3.13
59	4.80	3.70	1.76	129	5.10	4.20	2.90	199	5.16	3.26	2.11	269	5.07	4.22	2.51
60	4.28	3.70	2.77	130	3.81	3.71	2.15	200	4.30	3.08	1.90	270	5.04	3.70	1.87
61	3.12	2.10	2.02	131	3.73	3.33	2.65	201	3.70	3.07	1.80	271	4.47	3.30	2.54
62	5.42	4.75	3.15	132	4.20	3.10	2.50	202	3.78	2.94	1.33	272	4.58	3.18	1.90
63	5.25	3.57	2.55	133	4.51	2.11	1.78	203	3.15	2.26	1.32	273	6.26	5.90	4.42
64	4.36	3.22	2.54	134	8.10	5.08	4.76	204	3.43	2.59	2.30	274	6.93	6.42	4.75
65	4.66	3.57	1.72	135	5.80	4.42	2.30	205	3.98	3.75	2.68	275	4.54	3.36	2.91
66	4.49	3.77	2.30	136	6.13	4.50	3.60	206	4.23	3.83	2.68	276	4.18	3.25	2.36
67	3.70	3.20	2.12	137	3.76	3.42	1.62	207	3.75	3.06	2.41	277	3.92	2.22	2.01
68	3.36	2.50	1.71	138	6.68	4.96	4.58	208	4.32	2.58	1.88	278	5.45	5.16	4.09
69	5.04	4.34	3.13	139	7.00	5.28	2.68	209	5.02	3.58	1.71	279	4.69	3.99	3.67
70	4.06	3.56	2.78	140	5.00	3.48	2.95	210	4.60	3.78	1.35	280	4.33	4.07	3.30

表1 近文台北西部より採集された黒曜石礫のL（長径）－H（中間径）－W（短径）

No.	(cm) 長 径	(cm) 中間径	(cm) 短 径
281	4.49	4.16	2.87
282	3.06	2.85	2.47
283	4.23	3.99	2.77
284	5.98	5.15	2.57
285	6.01	4.66	2.74
286	5.38	3.41	2.49
287	4.31	2.93	2.30
288	4.04	2.30	2.05
289	3.20	2.27	1.77
290	4.24	3.27	1.84
291	2.99	2.73	1.63
292	3.73	2.52	1.41
293	6.13	5.27	3.96
294	6.31	5.23	3.46
295	6.68	5.17	4.00
296	6.30	4.87	3.25
297	5.87	5.46	3.24
298	4.19	3.87	1.88
299	3.15	2.87	2.12
300	3.49	2.69	2.20
301	3.50	2.73	1.59
302	3.47	2.30	1.58
303	3.49	3.16	1.83
304	2.76	2.30	1.58
305	5.70	4.31	4.08
306	6.08	5.29	3.83
307	5.06	4.21	4.02
308	4.93	4.57	3.04
309	4.19	3.60	2.60
310	4.36	3.36	1.90
311	3.77	3.42	3.06
312	4.31	3.45	2.15
313	3.74	3.05	2.50
314	4.16	3.09	1.94
315	3.80	2.68	2.21
316	4.07	2.71	1.94
317	3.29	2.75	1.95
318	3.18	2.93	2.44
319	3.31	2.88	2.16
320	2.69	2.06	1.63
321	8.38	6.44	4.50
322	6.11	4.56	3.59
323	6.12	4.06	2.66
324	4.60	3.45	3.08
325	5.19	2.83	2.02
326	4.40	4.24	2.53
327	3.75	3.24	2.63
328	4.33	2.67	2.15
329	4.18	3.82	2.38
330	3.32	2.83	2.06
331	3.13	2.24	1.57
332	2.68	2.26	1.27
333	2.83	2.35	1.16
334	2.69	2.31	2.22
335	4.49	3.41	1.49
336	4.59	3.83	1.96
337	6.24	5.01	4.30
338	5.13	4.50	4.00
339	4.12	4.06	2.86
340	4.00	3.20	2.67
341	4.94	2.59	1.79
342	3.86	2.94	2.48
343	4.44	4.08	2.05
344	4.78	3.99	2.94
345	3.66	3.44	2.88
346	4.80	3.40	2.72
347	4.45	2.92	2.48
348	5.23	3.59	2.78
349	3.38	2.80	2.57
350	3.86	3.36	2.05

No.	(cm) 長 径	(cm) 中間径	(cm) 短 径
351	5.83	2.61	2.04
352	4.40	2.80	1.81
353	10.07	6.61	6.07
354	5.78	4.07	3.25
355	4.76	4.07	2.86
356	4.43	3.81	3.13
357	4.27	3.52	2.63
358	4.59	3.41	2.60
359	4.45	3.94	2.56
360	4.14	3.70	2.42
361	3.48	3.16	1.80
362	3.72	2.86	1.94
363	4.03	2.80	2.34
364	3.89	2.60	1.26
365	2.00	1.95	0.97
366	3.40	2.57	1.85
367	2.41	2.24	1.39
368	3.42	2.59	1.90
369	3.35	3.10	1.80
370	3.71	3.06	2.44
371	3.96	3.80	2.27
372	3.95	3.71	2.62
373	4.94	4.11	2.99
374	6.37	3.70	3.35
375	6.43	4.54	3.03
376	4.56	3.96	1.56
377	4.13	3.20	1.60
378	4.17	3.27	1.96
379	3.90	3.18	1.86
380	3.66	3.28	1.52
381	3.73	2.80	1.25
382	3.74	2.47	1.43
383	3.13	2.70	1.22
384	3.75	1.95	1.22
385	2.85	2.55	1.07
386	3.24	1.85	0.90
387	3.05	2.55	1.16
388	2.65	1.78	1.10
389	2.95	2.07	1.02
390	2.78	2.55	0.98
391	3.95	3.05	1.43
392	3.92	3.12	0.94
393	3.68	3.10	1.44
394	3.20	2.73	1.46
395	3.40	2.79	1.45
396	3.46	2.30	1.12
397	2.42	2.19	0.85
398	4.76	3.29	2.03
399	3.97	3.24	1.76
400	4.00	3.27	1.43
401	4.68	3.12	1.70
402	3.78	2.47	1.35
403	3.50	2.60	0.93
404	3.41	2.65	1.40
405	3.44	2.35	1.02
406	3.58	2.33	1.25
407	3.50	2.14	1.17
408	5.30	3.88	2.22
409	3.35	2.83	1.41
410	2.71	2.30	1.25
411	2.93	2.22	0.92
412	2.56	2.29	1.14
413	2.68	2.51	0.81
414	2.72	1.66	1.04
415	2.42	2.13	1.05
416	2.54	2.27	0.91
417	8.18	6.05	4.37
418	5.39	3.94	2.70
419	5.93	4.32	3.38
420	4.59	3.76	2.38

No.	(cm) 長 径	(cm) 中間径	(cm) 短 径
421	4.90	4.45	2.51
422	4.21	3.68	2.33
423	3.47	3.07	2.25
424	2.71	2.15	1.35
425	3.90	3.38	1.68
426	4.00	3.38	1.90
427	3.53	2.64	2.36
428	5.35	4.26	3.40
429	6.08	4.30	3.47
430	6.08	5.20	3.95
431	4.70	3.43	3.37
432	4.67	4.00	2.86
433	5.25	3.70	2.19
434	3.87	3.57	2.20
435	4.26	3.85	2.11
436	5.90	4.20	2.81
437	4.05	3.70	2.10
438	4.59	3.12	1.93
439	4.23	3.83	1.98
440	5.28	3.20	2.86
441	3.73	3.73	2.73
442	3.76	2.54	1.82
443	3.30	2.37	2.28
444	3.62	2.39	1.70
445	4.00	3.35	2.14
446	4.10	2.68	1.50
447	3.32	2.87	2.24
448	2.47	2.07	1.42
449	3.45	2.48	1.78
450	2.38	2.04	1.74
451	2.35	1.87	0.80
452	3.53	2.75	1.65
453	7.93	6.57	3.01
454	5.92	4.28	2.74
455	6.16	5.74	3.33
456	5.03	4.40	2.52
457	2.16	1.76	1.25
458	2.80	1.52	0.92
459	2.40	1.46	1.10
460	2.82	1.75	1.60
461	3.09	1.86	1.57
462	2.51	1.70	1.35
463	2.32	1.82	1.48
464	2.13	1.81	1.31
465	1.46	1.46	1.25
466	6.08	4.35	2.82
467	4.41	3.89	3.60
468	5.36	4.02	3.18
469	5.90	3.90	2.38
470	6.00	3.13	2.80
471	5.40	3.22	2.41
472	4.91	2.31	1.98
473	5.34	2.77	1.70
474	4.36	2.24	2.10
475	3.85	2.35	1.90
476	3.74	2.74	1.64
477	3.62	1.79	1.18
478	2.94	1.37	1.20
479	4.46	2.47	1.42
480	4.01	2.20	1.43
481	4.03	2.32	1.35
482	3.40	1.98	1.60
483	3.48	1.85	1.09
484	5.04	2.31	2.15
485	7.61	4.74	2.72
486	7.94	4.84	2.90
487	6.72	4.79	3.35
488	4.36	3.86	2.52
489	5.07	4.07	2.12
490	4.49	3.70	2.21

No.	(cm) 長 径	(cm) 中間径	(cm) 短 径
491	4.45	3.58	3.24
492	4.87	3.50	2.10
493	3.77	3.04	2.90
494	4.66	3.04	3.00
495	3.73	3.25	2.35
496	3.77	3.50	3.20
497	4.13	2.59	1.89
498	3.33	2.28	1.61
499	2.85	2.28	1.42
500	2.88	2.07	0.96

No.	(cm) 長 径	(cm) 中間径	(cm) 短 径
1	3.9	2.7	2.6
2	4.5	3.8	2.0
5	5.3	4.7	3.7
7	5.7	4.3	4.1
10	6.6	5.2	4.3
12	6.9	6.2	2.1
13	6.3	4.9	3.9
14	6.2	6.1	3.6
15	4.6	3.9	2.2
16	8.1	5.6	3.4
18	3.8	3.1	2.2
19	7.5	5.5	3.8
20	4.8	3.9	2.9
21	11.1	6.7	6.0
24	5.1	5.0	3.7
25	2.4	1.9	1.9
27	6.1	4.4	1.7

表2 雨紛台北部より採
集された黒曜石礫のL
(長径) - H (中間径) -
W (短径)

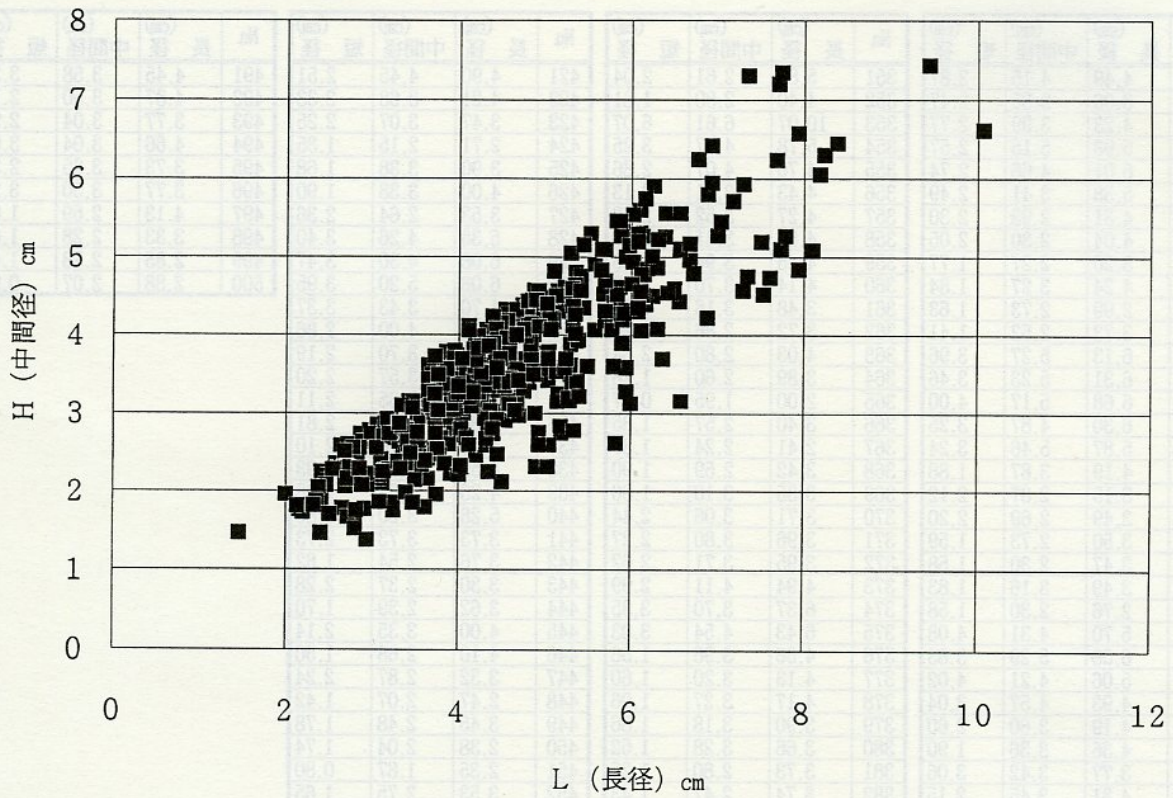


図3 近文台北西部から採集された黒曜石のL-Hグラフ

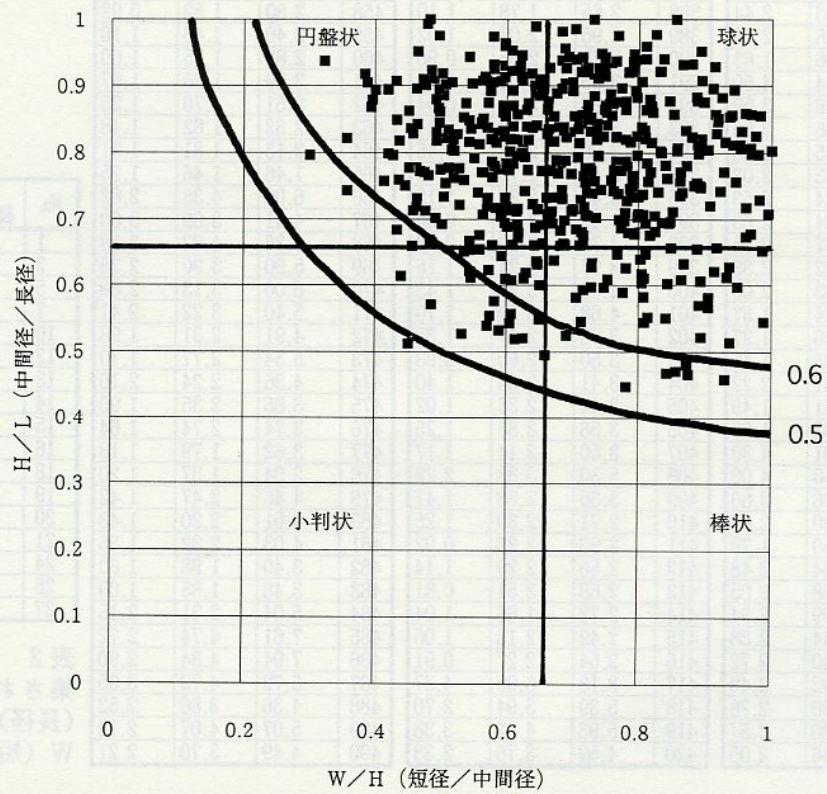


図4 近文台北西部より産出した黒曜石礫の形状分類 (Zingg,1935) と球形度曲線 (Krumbein,1941)

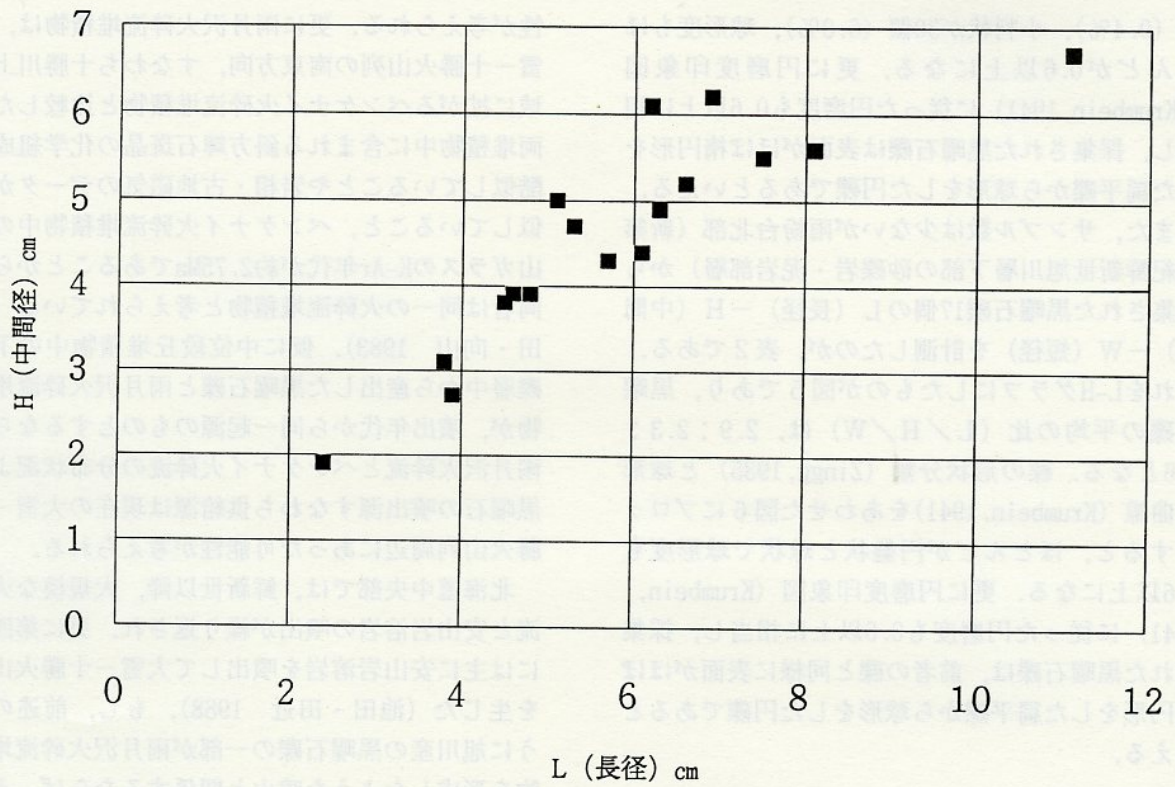


図5 雨舂台北部から採集された黒曜石のL-Hグラフ

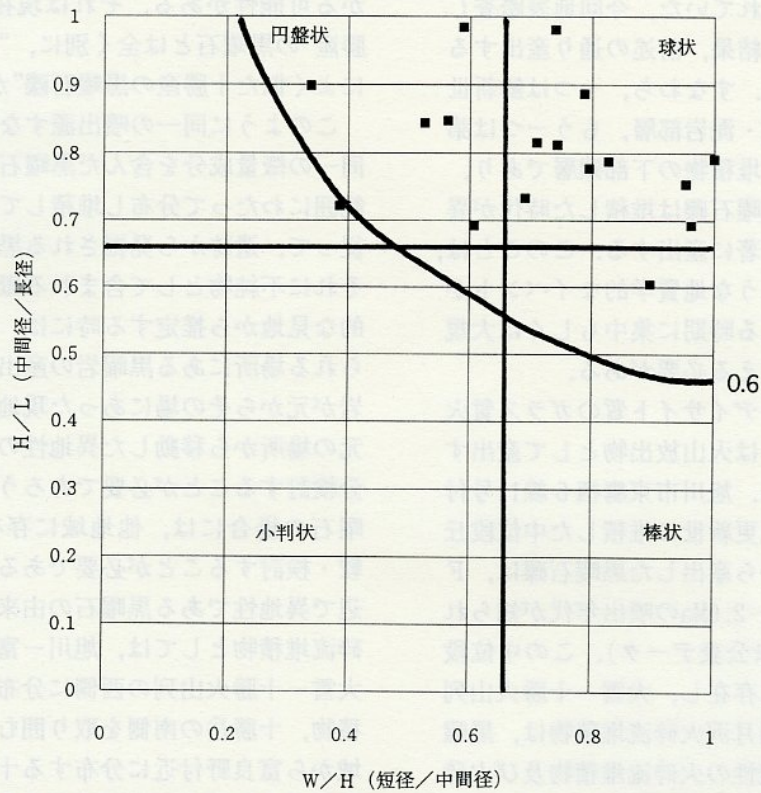


図6 雨舂台北部より産出した黒曜石礫の形状分類 (Zingg, 1935) と球形度曲線 (Krumbein, 1941)

個 (9.4%), 小判状が30個 (6.0%), 球形度もほとんどが0.6以上になる。更に円磨度印象図 (Krumbein, 1941) に従った円磨度も0.6以上に相当し, 採集された黒曜石礫は表面がほぼ楕円形をした扁平礫から球形をした円礫であるといえる。

また, サンプル数は少ないが雨紛台北部 (新第三紀鮮新世旭川層下部の砂礫岩・泥岩部層) から採集された黒曜石礫17個のL (長径) - H (中間径) - W (短径) を計測したのが, 表2である。それをL-Hグラフにしたものが図5であり, 黒曜石礫の平均の比 (L/H/W) は, 2.9:2.3:1.6となる。礫の形状分類 (Zingg, 1935) と球形度曲線 (Krumbein, 1941) をあわせた図6にプロットすると, ほとんどが円盤状と球状で球形度も0.6以上になる。更に円磨度印象図 (Krumbein, 1941) に従った円磨度も0.6以上に相当し, 採集された黒曜石礫は, 前者の礫と同様に表面がほぼ楕円形をした扁平礫から球形をした円礫であるといえる。

4 考察

従来より旭川産の黒曜石礫は, 近文台と雨紛台の台地から産出が知られていた。今回地表踏査し現地でも再検討を加えた結果, 前述の通り産出する層準が明らかになった。すなわち, 一つは鮮新世の旭川層下部の砂礫岩・泥岩部層, もう一つは第四紀更新世の中位段丘堆積物の下部礫層であり, 少なくとも旭川産の黒曜石礫は堆積した時代が異なる2つの地層から顕著に産出する。このことは, 黒曜石礫を供給するような地質学的なイベントが旭川周辺において, ある時期に集中もしくは大規模に起こったことを考える必要がある。

黒曜岩は, 流紋岩〜デイサイト質のガラス質火山岩であり, 溶岩または火山放出物として産出することが知られている。旭川市東鷹栖6線11号付近に露出する, 第四紀更新世に堆積した中位段丘堆積物中の下部礫層から産出した黒曜石礫は, F T法による分析で2.4~2.6Maの噴出年代が知られている (興水博士/未公表データ)。この中位段丘堆積物よりも下位に存在し, 大雪〜十勝火山列の北西方向に広がる雨月沢火砕流堆積物は, 黒曜岩を形成するような酸性の火砕流堆積物及び火砕岩である。噴出年代は約2.7Ma前後であるため, 黒曜石礫を供給する1つのイベントであった可能

性が考えられる。更に雨月沢火砕流堆積物は, 大雪〜十勝火山列の南東方向, すなわち十勝川上流域に広がるペンケナイ火砕流堆積物と比較した時, 両堆積物中に含まれる斜方輝石斑晶の化学組成が酷似していることや岩相・古地磁気のデータが類似していること, ペンケナイ火砕流堆積物中の火山ガラスのK-Ar年代が約2.75Maであることから, 両者は同一の火砕流堆積物と考えられている (池田・向山 1983)。仮に中位段丘堆積物中の下部礫層から産出した黒曜石礫と雨月沢火砕流堆積物が, 噴出年代から同一起源のものとするならば, 雨月沢火砕流とペンケナイ火砕流の分布状況より, 黒曜石の噴出源すなわち供給源は現在の大雪〜十勝火山列周辺にあった可能性が考えられる。

北海道中央部では, 鮮新世以降, 大規模な火砕流と安山岩溶岩の噴出が繰り返され, 更に第四紀には主に安山岩溶岩を噴出して大雪〜十勝火山列を生じた (池田・田近 1988)。もし, 前述のように旭川産の黒曜石礫の一部が雨月沢火砕流堆積物を形成したような噴火と関係するならば, それと同一と考えられているペンケナイ火砕流堆積物を起源とする黒曜石礫が, 十勝川上流域にも見つかる可能性がある。それは現在知られている“十勝産”の黒曜石とは全く別に, “旭川産の黒曜石礫によく似た十勝産の黒曜石礫”かも知れない。

このように同一の噴出源すなわち供給源を持ち, 同一の微量成分を含んだ黒曜石が, 転石として広範囲にわたって分布し堆積している可能性がある。従って, 遺跡から発掘される黒曜石の原産地を, それに不純物として含まれる微量成分による化学的な見地から推定する時には, その原産地と考えられる場所にある黒曜岩の産出層準や, その黒曜岩が元からその場にあった現地性のものであるか, 元の場所から移動した異地性のものであるかを十分検討することが必要であろう。特に異地性の黒曜石の場合には, 他地域に存在する黒曜石と比較・検討することが必要である。例えば, 旭川周辺で異地性である黒曜石の由来に関係しそうな火砕流堆積物としては, 旭川〜富良野地域すなわち大雪〜十勝火山列の西側に分布する美瑛火砕流堆積物, 十勝岳の南側を取り囲むように十勝川上流域から富良野付近に分布する十勝火砕流堆積物, 更には十勝川上流域に分布する各火砕流堆積物などがあり, 同一の微量成分を含んだ黒曜石が広範

囲の地域にわたってそれぞれ分布していることが予想される。遺跡で発掘された黒曜石の予想される原産地が礫として産出し、しかも遺跡と原産地との距離が想像以上に離れている場合には、地質学的な見地に立って周辺地域の現地調査を行う必要があるだろう。そうすることによって、意外と遺跡の近くにも新たな黒曜石の産地が見つかる可能性もある。

今回の報告とは別に、旭川産の黒曜石礫については、現在まで以下のことが知られている。すなわち旭川の嵐山2遺跡付近及び近文台・雨紛台の地区の礫層から採取される黒曜石礫は、蛍光X線分析法の分析により、近文台第一群・近文台第二群・近文台第三群の3種類の原石群が存在するとされてきた(藁科 1998)。また別に旭川市東鷹栖6線11号付近の近文台産の黒曜石礫のFT法による分析では、2.4~2.6Maの噴出年代と3.2~3.3ppmが知られている(興水博士/未公表データ)。ただし、両者の関係は不明である。今回筆者による地表踏査によると、同じ台地の中でも時代の異なる層準から黒曜石礫が確認され、形状・表面模様・スフェルライトの有無・磨耗の度合などにより、現在のところType 1~Type 5まで5種類に分類できると考えた。また近文台と同じ中位段丘堆積物によって構成される神楽台からも、新たな黒曜石礫が採集される可能性があることや、近文台北西部や近文台南東部一帯で採集される礫の量から想像すると、各台地には大量の黒曜石礫が存在し、更に分類される可能性がある。従って、現在行われている微量成分の元素分析による分類やFT法による年代測定も、地質学的な見地を加えることで、更に詳細な黒曜石の履歴を知ることが期待できる。

旭川産の黒曜石礫の一部は、大雪-十勝火山列周辺に黒曜石礫の噴出源、すなわち供給源があった可能性が考えられると前述したように、旭川産の黒曜石礫はType-3の産出状況不詳を除き、すべて台地の礫層中から発見されている。すなわち旭川産の黒曜石礫は、白滝村にある赤石山のように「溶岩又は火山放出物として噴出し、その場で急冷固化した現地性の黒曜岩」ではなく、「噴出源から運ばれて移動し転石として他の礫と一緒に再堆積した異地性の黒曜岩」である。現在のところ旭川原産の現地性の黒曜岩については一切知ら

れていない。

通常、異地性の転石として発見される黒曜石の礫の表面は、原石が風化等の働きによって破壊された後、水流による運搬で磨耗し、Type-1のように礫の表面がほとんど平滑になっていたり、露頭においても周囲の礫と調和的に層中に含まれていることが多い。しかし、Type-2やType-4のように、円礫に分類されるような角が取れた礫の表面でも皺がたくさん存在する。特にType-4においては、黒曜石礫の表層の状態から考えてほとんど水磨の影響を受けていないように見える円礫も存在する。このことは原石が割れて角礫の状態にあったものが、水流的作用によって磨耗を受けて徐々に円礫になっていった訳ではなく、もともと黒曜石の生成時に円礫に近い形状をしていた可能性も考えられる。幾つか他にも可能性は考えられるが、今回論じることはせずに今後の検討課題としたい。

謝 辞

旭川市教育委員会の友田哲弘氏には、地表踏査するにあたり複数の露頭の案内をして頂いた他、論文の提供や有用な助言及び意見をたくさん頂いた。また雨紛地区から産出したType-3の黒曜石の写真を提供して頂いた。深く感謝致します。

文 献

- 岡 孝雄ほか(1997)：国営農地再編整備事業計画地区「東神楽地区」表層地質調査報告書。75p., 北海道開発局農業水産部・北海道立地下資源調査所。
- 鈴木 明彦・向井 正幸(1996 a)：北海道中央部、旭川周辺地域の中新世滝の上動物群。旭川市博物館研究報告, No.2, 1-13.
- 鈴木 明彦・向井 正幸(1996 b)：北海道中央部、美瑛・砂川地域の中新統から産出した滝の上動物群。地球科学, 50巻, 362-369.
- 鈴木 醇(1955)：5万分の1地質図幅「旭川」および同説明書。38p., 北海道開発庁。
- 山口久之助ほか6名(1967)：北海道水理地質図

第4号「旭川」および同説明書. 43p., 北海道
立地下資源調査所.

池田 保夫・向山 栄(1983): 北海道, 富良野
—旭川地域の火砕流堆積物の層序と対比. 地質
学雑誌, 89巻, 163-172.

池田 保夫・田近 淳(1988): 北海道中央部,
米飯山溶岩(安山岩)のK-Ar年代. 岩石鉱物
鉱床学会誌, 83巻, 170-173.

中谷 良弘(1971): 上川盆地西部に位置する三
つの台地の層位学的研究(1). 市立旭川郷土博物
館研究報告, No. 7, 1-6.

中谷 良弘(1974): 上川盆地西部に位置する三
つの台地の地層について(2)—礫層—. 市立旭川
郷土博物館研究報告, No. 10, 11-17.

江尻 真誠・中谷 良弘(1986): ペニウングル
旭川地方地域研究会機関誌. 4: 3-6, 7-26.

藁科 哲男(1998): 南扇山遺跡. 富良野市文化
財調査報告 第13輯, 59-70.

北海道地下資源調査所編(1994): 名寄市の地質
と地下資源. 106p., 名寄市.

友田 哲弘(1996): 小型原石産出地における石
材の活用について —上川盆地の遺跡における
「ピエス・エスキュー」を例に—. 北海道考古
学第32輯, 63-74.

雨紛2遺跡発掘報告書(1994): 北海道旭川市埋
藏文化財発掘調査報告第16輯. 160p., 旭川市
教育委員会.

輿水 達司(1991): 名寄市智北4遺跡の年代お
よび同遺跡出土の黒曜石片の原産地. 名寄市文
化財調査報告書VI. 73-78. 名寄市教育委員会.